大館市文化財調査報告書　第19集

大館市内遺跡詳細分布調査報告書（６）

２０２２

秋 田 県 大 館 市 教 育 委 員 会

大館市文化財調査報告書　第19集

大館市内遺跡詳細分布調査報告書（６）

２０２２

秋 田 県 大 館 市 教 育 委 員 会

例　　言

1．本書は、令和元年５月から令和３年12月までに実施した大館市内遺跡の試掘・確認調査の報告書である。なお、令和４年１月以降の実施分については来年度以降に報告する予定である。

2．調査は、国及び秋田県の補助を受け、第１章に記した体制・期間で実施した。

3．本書の作成にあたり、遺構図のトレースは髙橋光大、遺物実測は山田勇治、遺物のトレースは石垣美樹が担当した。室内での遺物写真撮影（令和元年・２年度分）は株式会社ワールドプラン社に委託し、令和３年度分は滝内　亨（歴史文化課主査）が撮影した。

4．本書は、滝内、嶋影壮憲（歴史文化課主査）、馬庭和也（同 主任）が執筆し、嶋影が編集した。執筆分担は以下のとおりである。

第１章、第２章１～３・６～14・16・17・20～24・26、第３章３・４…嶋影

第２章４・18・25…滝内

第２章５・15・19、第３章１・２…馬庭・嶋影

第４章…滝内・嶋影

5．本書に使用した地形図は、国土地理院発行の１／25,000地形図、並びに秋田県教育委員会発行の秋田県遺跡地図（北秋田地区版）、大館市発行の「都市計画図　１／2,500」である。

6．本調査で出土した遺物並びに記録類は、大館市教育委員会が保管する。

7．大館城跡及び小館町遺跡出土陶磁器については弘前大学人文社会科学部関根達人教授から鑑定いただいた。

8．調査の実施にあたり、下記の諸機関・諸氏にご教示・ご協力を賜った。記して感謝いたします。

秋田県北秋田地域振興局農林部農村整備課、秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室、
大館市観光交流スポーツ部観光課、大館市建設部下水道課、大館市建設部土木課、
大館市消防本部消防総務課、大館市総務部企画調整課、大館市総務部総務課、株式会社秋田ホーム、
株式会社一条工務店、株式会社Ｎ－スタイル、株式会社太田建築工房、株式会社ハシモトホーム、
株式会社ワイズホーム、佐藤建築、社会福祉法人大館圏域ふくし会、セキスイハイム東北株式会社、
東北電力ネットワーク株式会社、花岡土建株式会社、水土里ネット大館南、
有限会社小笠原測量設計事務所、有限会社ミラ企画設計室
飯村　均、関根達人、立石繁義、田中伸夫、丸山欣吾、山口博之（五十音順、敬省略）

凡　　例

１．本書遺構図等における各基準は、下記のとおりである。

略記号・縮尺

遺構位置図	１：200
竪穴建物跡（ＳＩ）	１：40
土坑（ＳＫ）	１：20
溝跡・堀跡（ＳＤ）	１：40
焼土・カマド状遺構（ＳＬ）	１：40
柱穴・柱穴様ピット（ＳＰ）	１：40
その他（ＳＸ）	１：40

但し、切岸の中には１：50としたものがある。

図の方位

発掘区のＸ軸正方向が図面天方向に合致する。

遺構図等の標高

遺構位置図の標高値は海抜高度による。単位はメートル。

スクリーントーン

遺構平面図の柱痕跡　　網目

遺物の実測図及び写真図版の縮尺

土器・陶磁器・土陶磁製品	１：３
剥片石器・礫	１：２

２．今回の調査における作業と遺物の分類基準は、大館市文化財調査報告書第11集及び第15集に準拠する。なお、近世の陶磁器・土器等の器形分類や個体の定義名称は『内藤町遺跡』（新宿区内藤町遺跡調査会編1992）に、瀬戸・美濃産の時期区分は藤澤編年（藤澤1986・1991）に、肥前・肥前系の時期区分は『肥前陶磁』（大橋1989）、『九州陶磁の編年』（九州近世陶磁学会2000）に従った。

本書に掲載した遺物の分類基準の概要は、以下のとおりである。

土器・陶磁器（Ｐ）

５群　縄文後期～晩期の土器群

１類　２類より古く、大木10式並行土器群の直後に編年される土器。

２類　後期前葉の土器　十腰内Ｉ式

６類　晩期前半の土器　大洞Ｂ～C_1式土器

７群　古代の土器

１類　須恵器

２類　土師器

８群　中世以降の陶磁器・土器

中世以降の陶磁器・土器。

１類　磁器

２類　陶器

３類　土器

石器・石製品（Ｓ）

１群　石器

定形化した石器、使用を目的とした二次加工や使用痕のある剥片・礫など。なお、１群の石器は次のとおりに細分される。

１類　ポイント類

尖頭部をもつ刺突具

３類　ナイフ・スクレイパー類

ほぼ定形化している削器・掻器

４類　U．フレイク

部分的な刃部をもつ剥片類

２群　剥片

二次加工や肉眼での使用痕の認められないもの

４群　礫

土陶磁製品（C）

金属製品（Ⅰ）

目　　次

例言 …… i

凡例 …… ii

目次 …… iii

第１章　事業実施の概要 …… 1

1　調査の目的 …… 1

2　調査要項 …… 1

3　調査の方法 …… 2

第２章　大館地区の調査 …… 8

1　大館城跡① …… 8

2　大館野遺跡 …… 14

3　長走遺跡 …… 17

4　釈迦内地区① …… 20

5　扇田道下遺跡 …… 25

6　釈迦内地区② …… 28

7　萩峠遺跡 …… 31

8　釈迦内古館跡 …… 34

9　橋桁遺跡 …… 38

10　太平山遺跡隣接地 …… 41

11　大館城跡② …… 44

12　大館城跡③ …… 47

13　釈迦内字長者森地区 …… 49

14　小館町遺跡① …… 52

15　萩ノ台Ⅱ遺跡 …… 55
16　大館城跡④ …… 58
17　小館町遺跡② …… 65
18　萩峠遺跡隣接地 …… 67
19　川口館跡 …… 74
20　花岡城跡・神山遺跡 …… 77
21　小館町遺跡③ …… 80
22　金坂遺跡 …… 82
23　大館城跡⑤ …… 94
24　二井田館跡 …… 96
25　芋ヶ岱遺跡 …… 98
26　小館町遺跡隣接地 …… 105
第３章　比内地区の調査 …… 107
1　笹館城跡 …… 107
2　長岡城跡 …… 110
3　市川遺跡 …… 117
4　八木橋古館跡隣接地 …… 119
第４章　田代地区の調査 …… 121
1　平滝Ｃ遺跡隣接地 …… 121
大館市遺跡一覧 …… 123
報告書抄録 …… 128

第１章　事業実施の概要

１　調査の目的

大館市内には、現在293の埋蔵文化財包蔵地（以下「包蔵地」）が確認されている。大館市教育委員会では、平成15年度より文化財保存事業補助金を受け、市内の包蔵地の所在・確認調査を実施している。これまでの調査で近い将来に開発行為が予定される42遺跡38地区、延べ110箇所について調査を実施し、遺跡の把握に努めてきた。

今回（令和元～３年度）も引き続き、土地所有者の協力を得られた次項の遺跡、地区について、埋蔵文化財の有無等を把握するため、調査を実施した。調査を実施した地区の遺跡名、所在地、調査面積、調査期間等は表１に示すとおりである。

２　調査要項

⑴　調査体制

令和元年度

教育長	高橋善之
教育次長	本多恒博
歴史文化課長	長崎美幸
歴史文化課長補佐 兼埋蔵文化財係長	大井和博
埋蔵文化財係	滝内　亨（調査担当）
同	嶋影壮憲（調査担当）
同	馬庭和也（調査担当）
調査補助員	髙橋光大

令和２年度

教育長	高橋善之
教育次長	本多恒博
歴史文化課長	長崎美幸
歴史文化課長補佐 兼埋蔵文化財係長	加賀　至
埋蔵文化財係	滝内　亨（調査担当）
同	嶋影壮憲（調査担当）
同	馬庭和也（調査担当）
調査補助員	髙橋光大

令和３年度

教育長	高橋善之
教育次長	石田一雄

歴史文化課長	小　松　　工	
歴史文化課長補佐		
兼埋蔵文化財係長	加　賀　　至	
埋蔵文化財係	滝　内　　亨	（調査担当）
同	嶋　影　壮　憲	（調査担当）
同	馬　庭　和　也	（調査担当）
調査補助員	髙　橋　光　大	

⑵　**調査期間**

現地調査	自：令和元年５月８日	至：令和２年３月25日
	自：令和２年４月28日	至：令和３年１月28日
	自：令和３年４月20日	至：令和４年３月11日
整理作業	自：令和２年１月１日	至：令和２年３月31日
	自：令和２年12月１日	至：令和３年３月31日
	自：令和４年１月１日	至：令和４年３月31日
調査面積	令和元年度	503.2㎡
	令和２年度	351.5㎡
	令和３年度	402㎡

３　調査の方法

調査対象地に任意でテストピット・トレンチを設定し、盛土、撹乱土、耕作土等を重機または人力で除去した後、基盤層まで人力で掘り下げ、埋蔵文化財の有無等を調査した。出土遺物は、テストピット・トレンチごと、層位ごとに取り上げた。テストピット・トレンチの位置情報等については、トータルステーションを用いて計測した後、測量ソフト GioLine により計測データを処理した。なお、大館野遺跡及び釈迦内字長者森地区の調査位置情報等の計測については、有限会社小笠原測量設計事務所にご協力いただいた。

整理作業については、水洗、分類、注記の一次整理の後、遺物の再分類、接合等の二次整理を行った。また、並行して野外調査で得られた記録類の整理等も実施した。

表１　詳細分布調査一覧

事業	登載番号	遺跡（地区名）	調査地	調査対象面積(㎡)	調査面積(㎡)	調査期間	報告
令和元年度							
分譲地造成工事	204-4-46	大館城跡	字金坂23ほか、上町17-3	1466	23	5/8～5/15	2-1
土地造成工事	204-4-5	大館野遺跡	白沢字白沢856-1	2324	21	6/4～6/8	2-2
校舎解体工事	204-4-1	長走遺跡	長走字長走42	2920	13	7/17～7/23	2-3
敷地造成工事		釈迦内地区	釈迦内字獅子ヶ森台67、68、字獅子ヶ森1-321-32ほか	9885	249.5	9/3～9/14	2-4
公共下水道工事	204-4-65	扇田道下遺跡	字扇田道下6-7ほか	421	21.5	9/18	2-5
敷地造成工事		釈迦内地区	釈迦内字台野道上1-2、字獅子ヶ森台69ほか	6562	114	10/10～10/17	2-6
送電線鉄塔建替工事	204-4-81	萩峠遺跡	軽井沢字萩峠12-2ほか	380	8	11/6～11/7	2-7
個人住宅増築工事	204-4-25	釈迦内古館跡	釈迦内字釈迦内43	53	5	11/12～11/13	2-8
個人住宅新築工事	204-4-11	橋桁遺跡	橋桁字橋桁187-1	1076	8	11/19～11/20	2-9
個人住宅新築工事	204-12-26	笹館城跡	比内町笹館字水無96-2	175	17	1/21～1/22	3-1
分譲宅地造成工事	204-4-63	太平山遺跡隣接地	中神明町83-1	2145	20	2/12	2-10
個人住宅新築工事	204-4-46	大館城跡	字桂城8-9ほか	67.5	3.2	3/25	2-11
計					503.2		
令和2年度							
個人住宅新築工事	204-4-46	大館城跡	字三ノ丸104-2	250	5	4/28～4/30	2-12
工場新築工事		釈迦内字長者森地区	釈迦内字長者森16-7ほか	6040	25.4	5/19～5/22	2-13
擁壁設置及び整地・駐車場造成工事	204-4-141	小館町遺跡	小館町130-1、131-1	1860	81	6/9～6/10	2-14
携帯電話無線基地局建設工事	204-4-67	萩ノ台Ⅱ遺跡	池内字上野52	12	10.6	6/24	2-15
観光施設改修工事	2014-4-46	大館城跡	字三ノ丸10、102-4	1122	26	8/25～8/26、9/15～9/16	2-16
個人住宅新築工事	204-4-141	小館町遺跡	小館町74	360	7	9/24	2-17
移動通信用鉄塔施設整備事業	204-15-55	平滝Ｃ遺跡隣接地	早口字平滝172	25	4	9/24～9/25	4-1
私道建設・浄化槽設置工事	204-12-17	長岡城跡	比内町扇田字長岡45、46	2791	43	10/17～10/20 10/30～11/18	3-2
ほ場整備事業	204-4-81	萩峠遺跡隣接地	軽井沢字山崎、字堤下、字長田、猿間字浦山境地内	158000	124	10/28～11/17	2-18
公共下水道工事	204-4-42	川口館跡	川口字長里106-4ほか	342	9	12/8～12/9	2-19
個人住宅新築工事	204-4-21	花岡城跡・神山遺跡	花岡町字アセ石130-43	162	16.5	1/28	2-20
計					351.5		
令和3年度							
個人住宅新築工事	204-4-141	小館町遺跡	小館町4-7	124	12	4/20～4/21	2-21
個人住宅新築工事	204-12-18	市川遺跡	比内町扇田字本道端63-5	98	11	4/22～4/23	3-3
住宅建築土地造成工事	204-4-47	金坂遺跡	字八幡7ほか	4880	50	6/1～6/16	2-22
個人住宅新築工事	204-4-46	大館城跡	字古川町39-25、39-29、字中城5-14	64	28	6/9	2-23
個人住宅新築工事	204-4-94	二井田館跡	二井田字贄ノ里97	130	7	6/30～7/1	2-24
消防団車庫新築工事	204-12-33	八木橋古館跡隣接地	比内町八木橋字八木橋78-2	16.56	4	9/29	3-4
ほ場整備事業	204-4-81	萩峠遺跡隣接地	軽井沢字小清水50ほか、字北平16-1ほか、字大清水24-1ほか、字堤下2-1ほか	186000	80	11/9～11/20	2-18
ほ場整備事業	204-4-58	芋ヶ岱遺跡	雪沢字蕨ヶ岱10ほか	71000	84	11/25～12/22	2-25
個人住宅新築工事	204-4-141	小館町遺跡隣接地	小館町43・44	59.6	6	12/22	2-26
大館市本庁舎建設	204-4-46	大館城跡	字中城20	7300	120	2/24～3/11	
計					402		

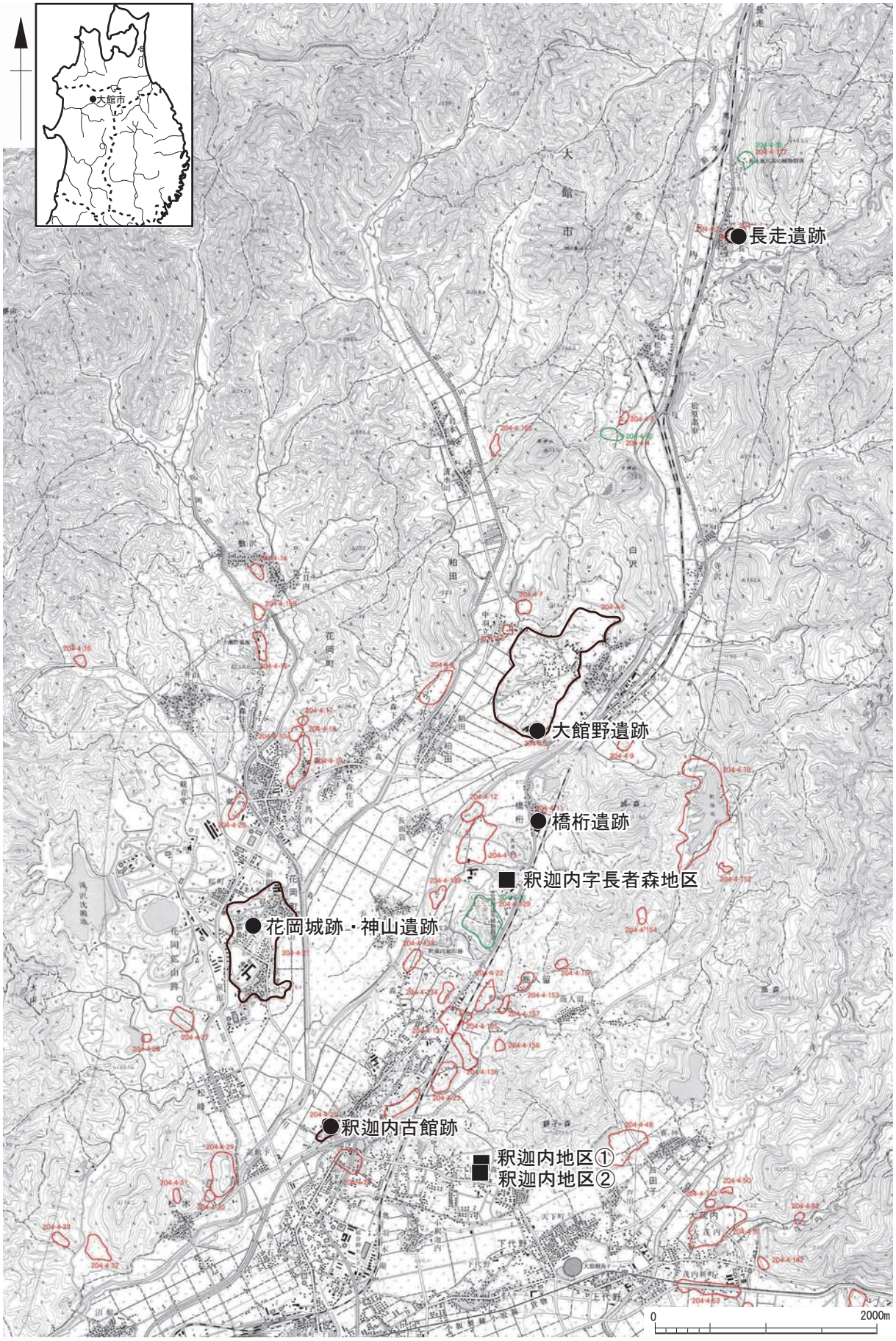


図１　遺跡の位置（大館地区北部　1：50,000）

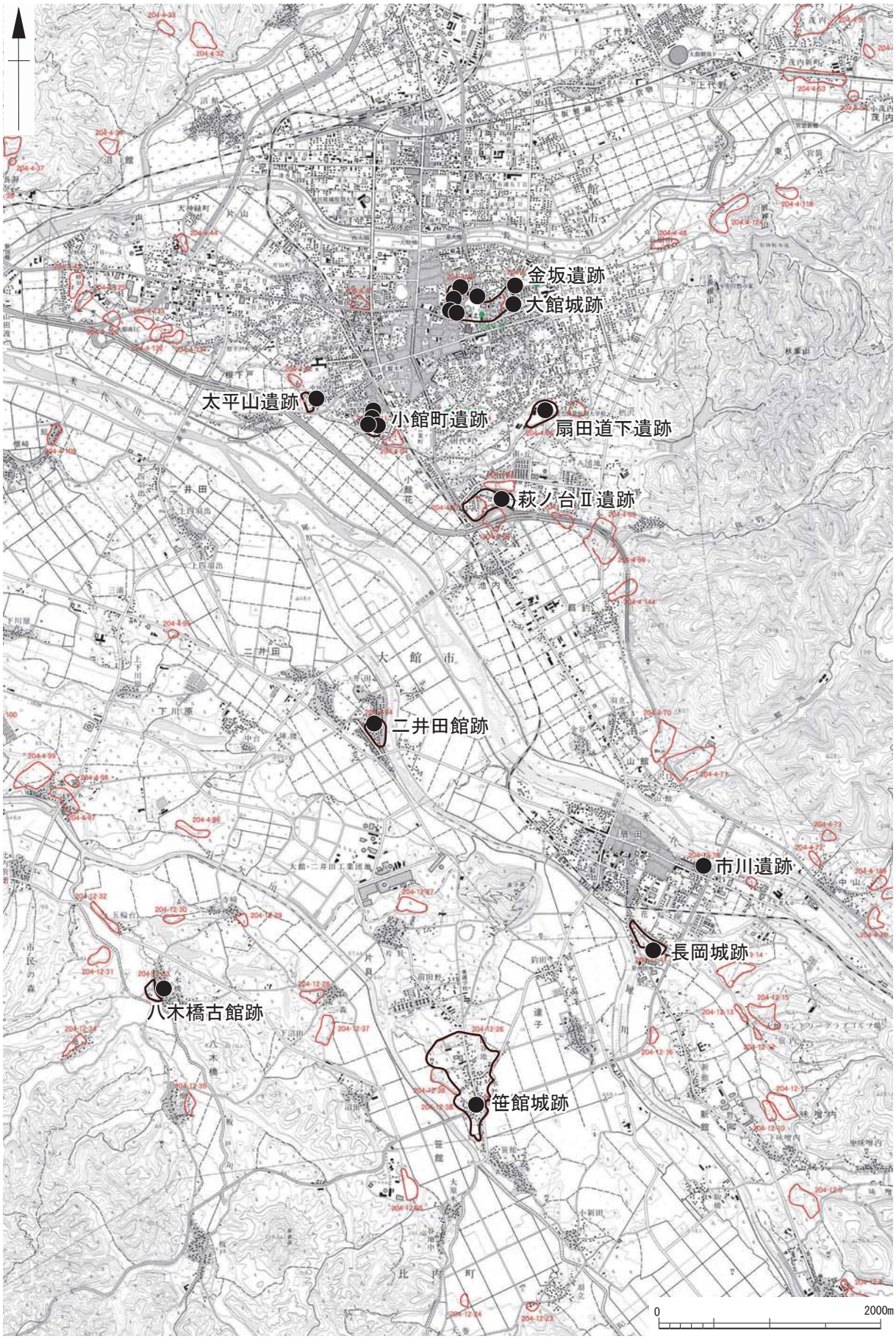


図２　遺跡の位置（大館・比内地区　1：50,000）

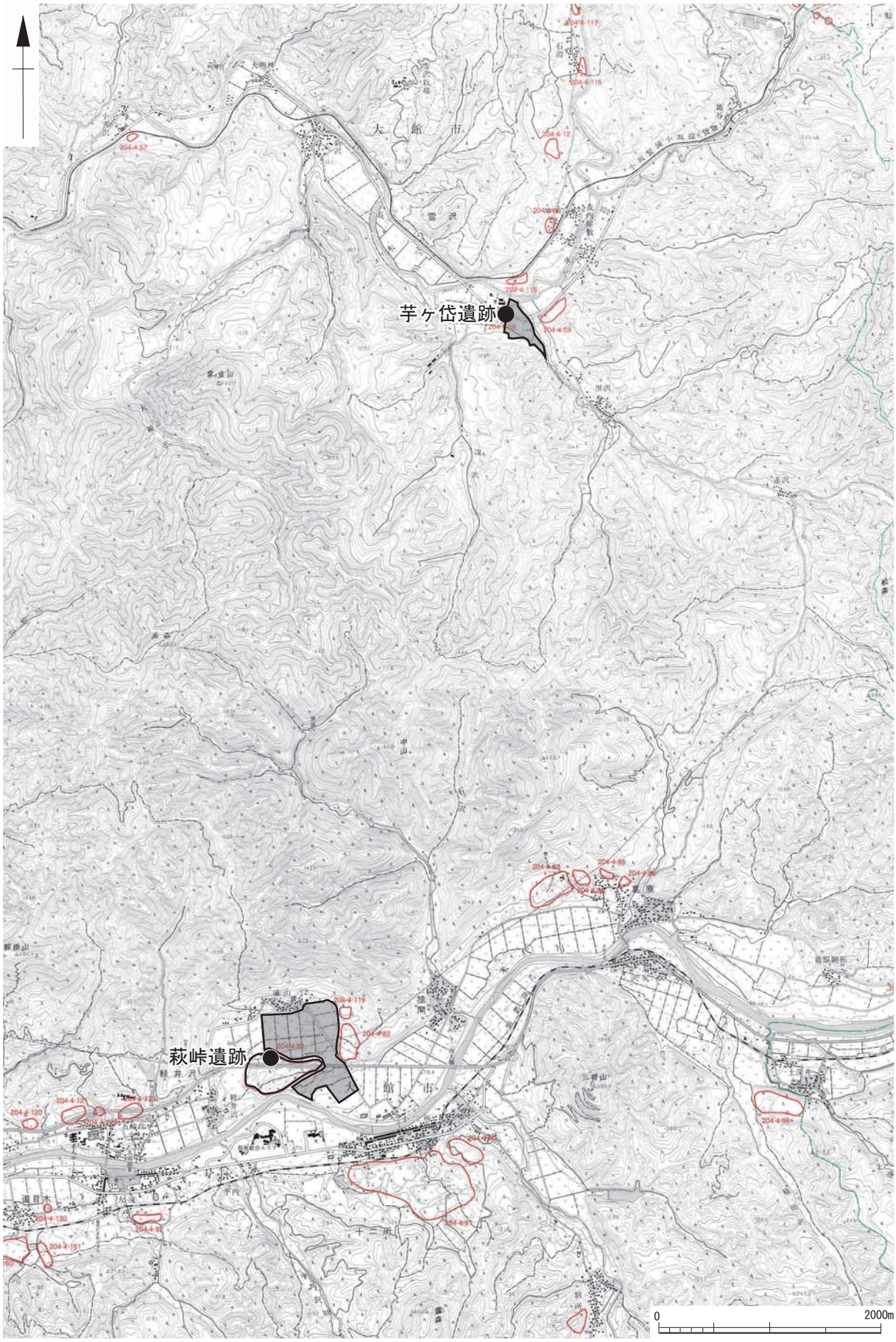


図３　遺跡の位置（大館地区東部　1：50,000）

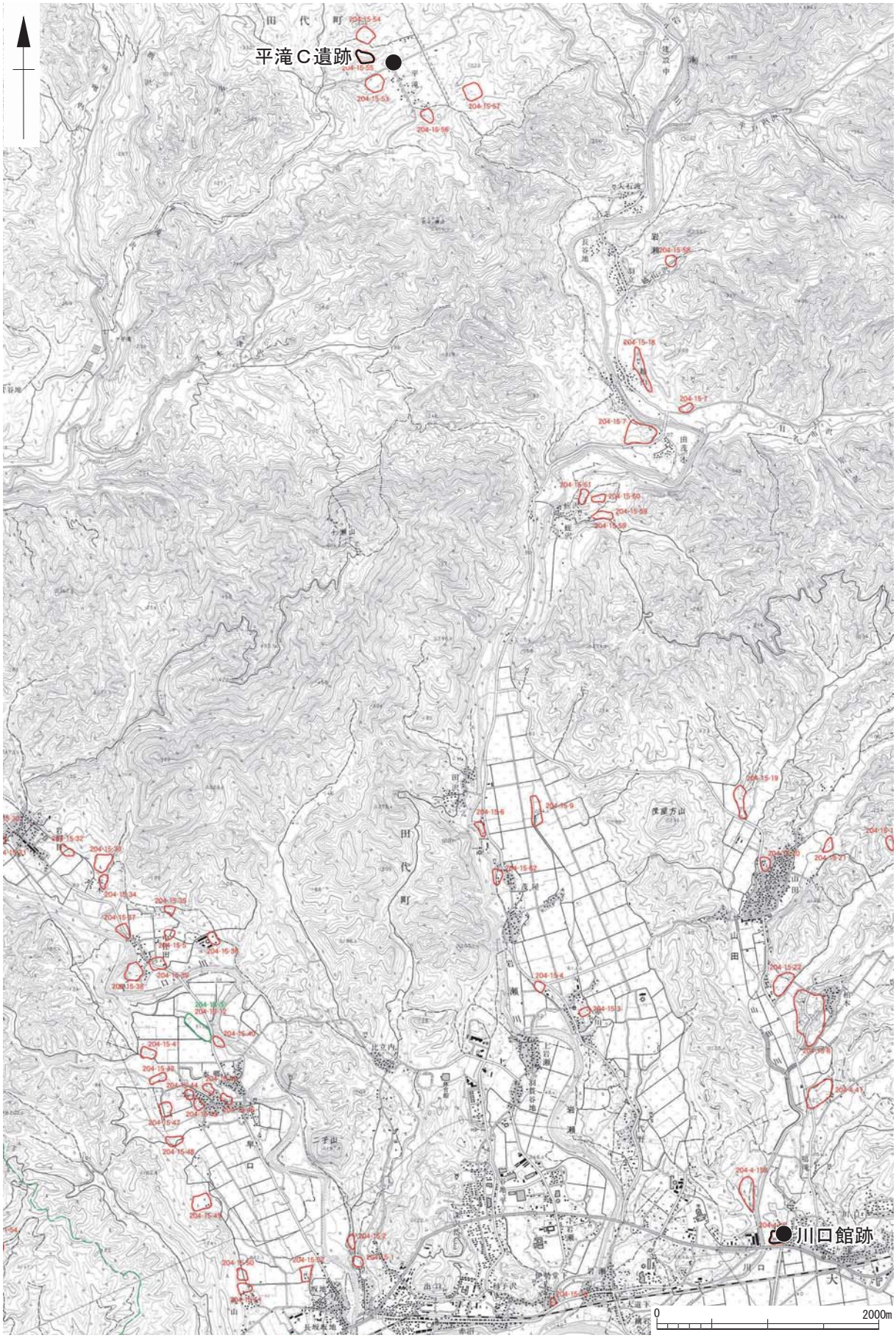


図４　遺跡の位置（大館・田代地区　1：50,000）

第２章　大館地区の調査

１　大館城跡①（分譲地造成工事）

⑴　調査の経緯

金坂地区において民間事業による宅地造成が計画されたことから、事業者に造成予定地が大館城跡の隣接地であること、事業着手前に試掘調査の必要である旨説明した。事業者の理解を得、令和元年５月に試掘調査を実施した。

⑵　遺跡の位置と周辺の環境

大館城跡は、大館盆地を西流する長木川の左岸に位置する。平成28～30年度の調査により、主に江戸時代の遺構・遺物が発見されている。

周辺には、北東側約150m平安時代～中世の土器が発見された金坂遺跡、西側約0.8ｋｍに平安時代～中世の遺跡である土飛山館跡、南東約1.1㎞に平安時代の集落跡の扇田道下遺跡と縄文時代後期の土器が発見された扇田道上遺跡が所在する。

今回の調査地は大館城跡の東側隣接地である。享保13（1728）年の大館絵図によれば、大館城の外堀東部とそれに面した金坂町の佐竹西家家中、小山要人の屋敷地に当たる。

⑶　調査の方法

調査にあたり、概ね東西方向のラインとこれに直交するラインを座標系として設定した。調査の基本を10m間隔の方眼とし､必要に応じ間隔を５ｍとして１ｍ角のテストピットを設定した｡テストピットの掘削は全て人力にて行い、遺構・遺物の有無等を調査した。

基本層序は、基盤をなすオリーブ褐色砂質土層上に腐植土層が堆積する。

Ⅰ層　表土。

Ⅱ層　黒色を呈する腐植土層で、本来の遺物包含層。ａ・ｂ層に細分される。

Ⅱａ層　黒色（10ＹＲ1.7/1）を呈する。

Ⅱｂ層　黒色（10ＹＲ2/1）を呈する土層。

Ⅲ層　黒褐色～暗褐色を呈する土層。

Ⅳ層　オリーブ褐色を呈する砂質土層。

⑷　調査の結果

今回の調査により、堀跡１条、溝跡２条、土坑状の黒色土の落ち込み１ヵ所、柱穴・柱穴様ピット10基を発見し、遺物は近世以降の陶磁器55点、土器１点、礫３点、銅製品１点、計60点を得た。遺構は調査対象地区の全域で検出された。Ａ－１区では、現地表下50㎝から直径20㎝の柱穴様ピット１基を確認した。隣接地点のＡ－２区でも柱穴など３基の遺構を検出し、表土からは近世の磁器（染付碗）が出土している。Ａ－４区では径80㎝以上の土坑状の黒色土の落ち込み１ヵ所、Ｃ－１区では

径約20㎝の柱穴様ピット１基、Ｃ－３区では円形の柱穴様ピット２基を検出している。ほかにＤ－１区では幅90㎝以上の溝１条を確認した。調査区西部のＤ―２Ｂ区では大館城跡の外堀（ＳＤ600）とみられる溝状遺構１条（幅90㎝以上)、柱穴様ピット２基（直径約10㎝)、Ｅ－３区でも同様の溝状遺構１条（幅1.6m以上)、柱穴（直径約30㎝）を検出した。

遺物はＳＤ600外堀跡から６点、テストピットのⅡ層から７点出土したほか、大半はⅠ層（表土）より得たものである。図８－１・２はＤ－１Ｂ区のＳＤ600の埋土から出土した陶器の皿。１は小皿で見込み胎土目、肥前Ⅰ期。２は中皿で見込み蛇ノ目釉剥ぎ、肥前Ⅳ期である。３～５は磁器の染付碗。３はＤ－１Ｂ区のⅠ層から出土した小碗で、肥前Ⅳ期の内18世紀後半。４・５は中碗で肥前Ⅳ期、４は表採、５はＥ－１区のⅠ層から出土した。６～10は磁器の皿。６はＢ－３区のⅠ層から出土した白磁の極小皿で、肥前Ⅴ期。７・８は染付の小皿。７はＥ－１区のⅠ層から出土。肥前Ⅳ期か。８は肥前Ⅳ期の内17世紀末～18世紀前半で表採である。９はＥ－１区のⅠ層から出土した染付の小皿か中皿で、高台脇に離れ砂が付着し、畳付が露胎となる。中国製（景徳鎮窯系）で年代は17世紀前半。10はＤ－１Ｂ区のⅠ層から出土した染付の大皿で、肥前Ⅲ期。11～16は陶器。11はＣ－３Ｂ区から出土した京焼風陶器の小碗で、内面に鉄絵が描かれる。肥前Ⅲ期。13はＢ－４区のⅠ層から出土した鉢で、肥前Ⅲ～Ⅳ期の内17世紀後半～18世紀前半。14・15は擂鉢で、14はＡ－２区のⅡ層から出土した。備前焼で年代は17世紀。15はＢ－３区のⅠ層から出土した肥前製擂鉢で、Ⅴ期。16はＢ－４区のⅠ層から出土した蓋。制作地・年代ともに不明。

以上の結果から、図９に示したとおり、埋蔵文化財包蔵地の範囲が今回の調査地まで拡がるものと考える。遺構･遺物を発見していることを踏まえ､1,466㎡に対して本発掘調査が必要と判断した。なお、この調査結果を受けて、事業は実施しないこととなった。

図５　大館城跡①調査位置図（1：2,000）

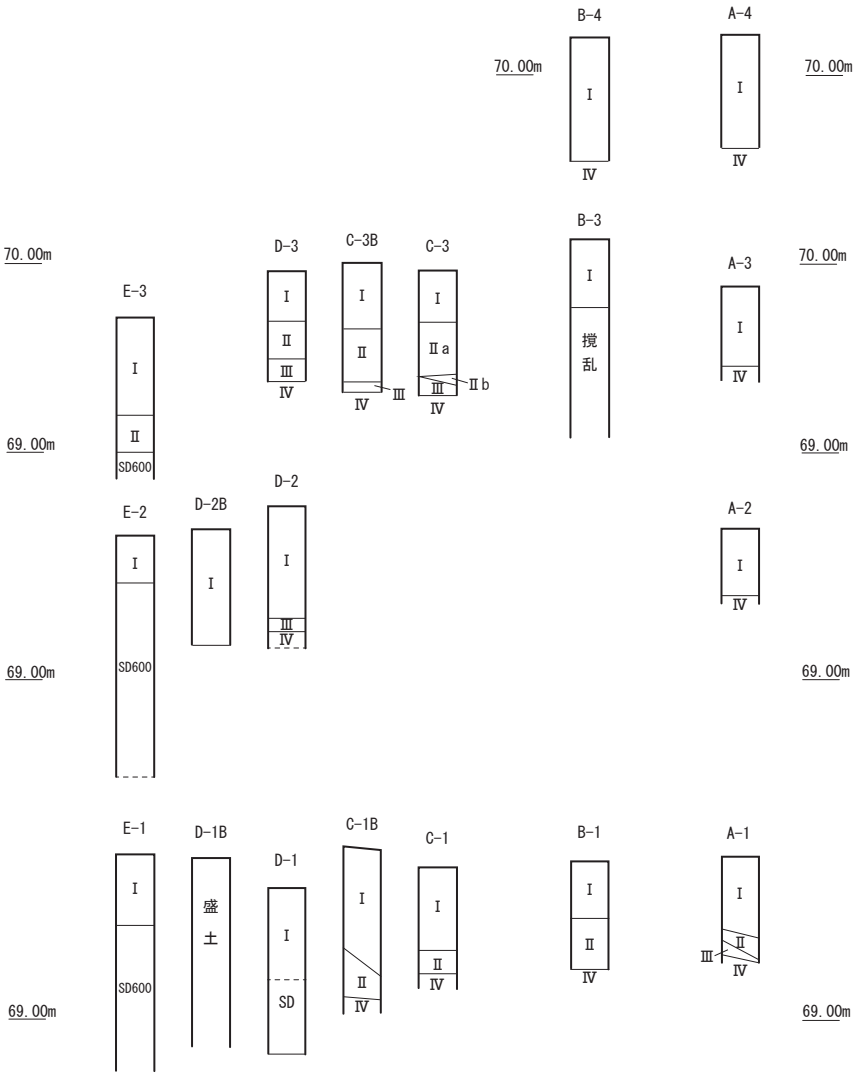


図６　大館城跡①土層柱状図（1：40）

表２　遺構一覧

土坑？	溝跡	堀跡	柱穴・柱穴様ピット	計
1	2	1	10	14

表３　出土遺物一覧

調査区遺構	P				S		I	計
	8			計	4	計		
	1	2	3					
ＳＤ600	3	3		6				6
Ａ－２	1	1		2				2
Ａ－４	1			1				1
Ｂ－１	2	1		3				3
Ｂ－３	2	2		4				4
Ｂ－４	4	3	1	8				8
Ｃ－３	2			2				2
Ｃ－３Ｂ		1		1				1
Ｄ－１	1			1	1	1		2
Ｄ－１Ｂ	7	3		10			1	11
Ｄ－２Ｂ	7	5		12				12
Ｅ－１	3			3				3
Ｅ－４	1			1	2	2		3
表　採	2			2				2
計	36	19	1	56	3	3	1	60

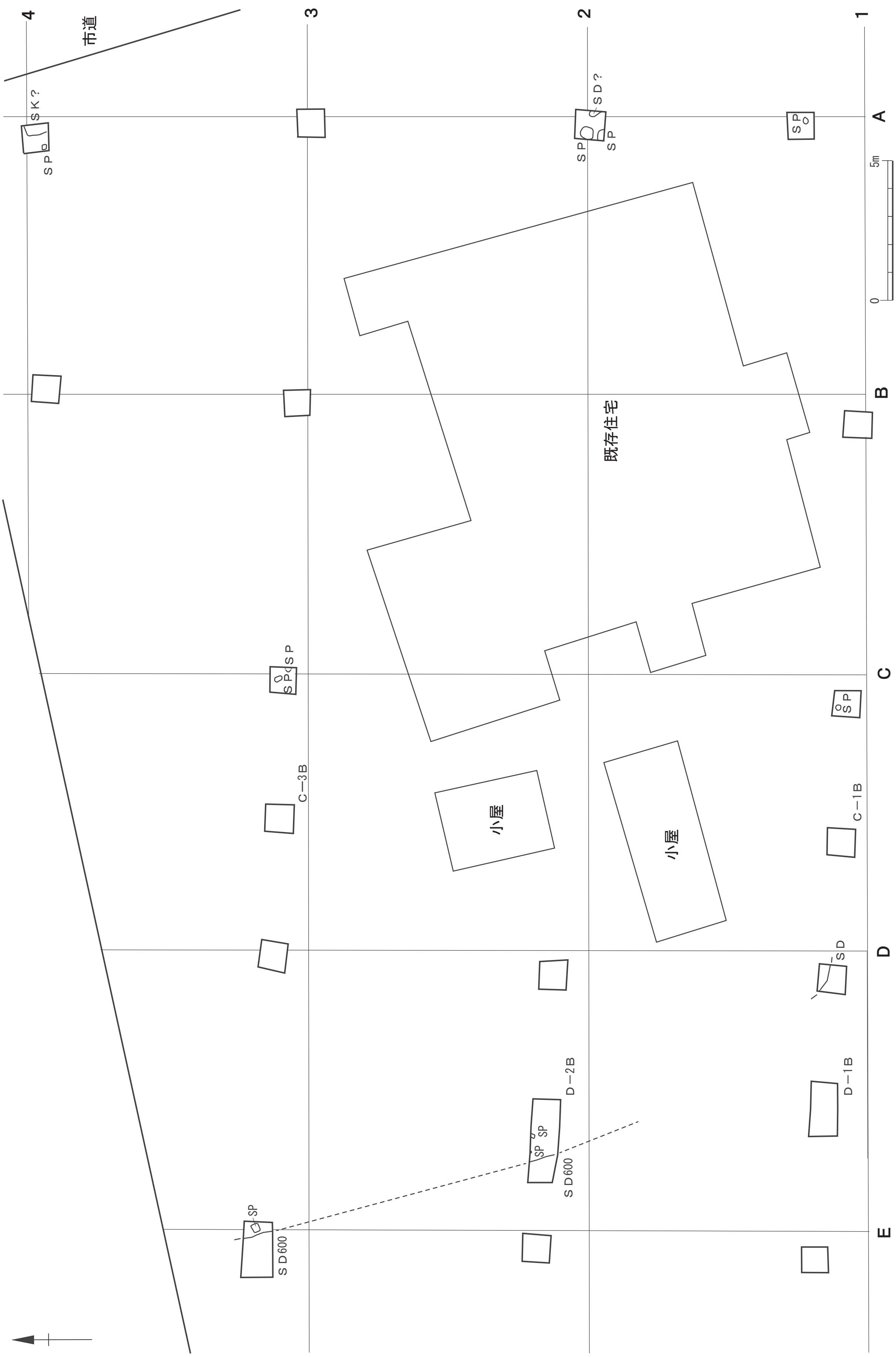


図７　大館城跡①調査平面図（1：200）

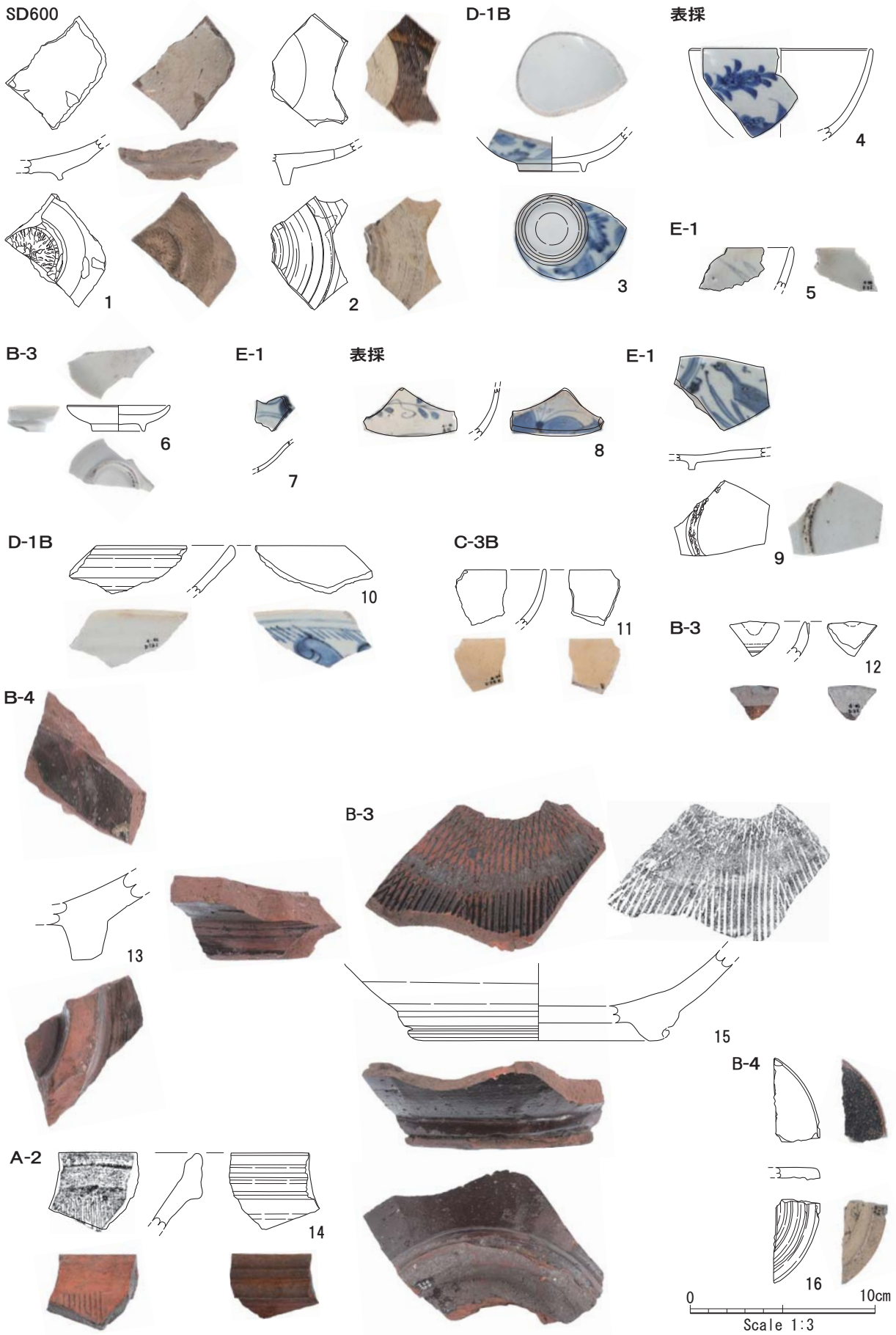


図８　大館城跡①出土遺物

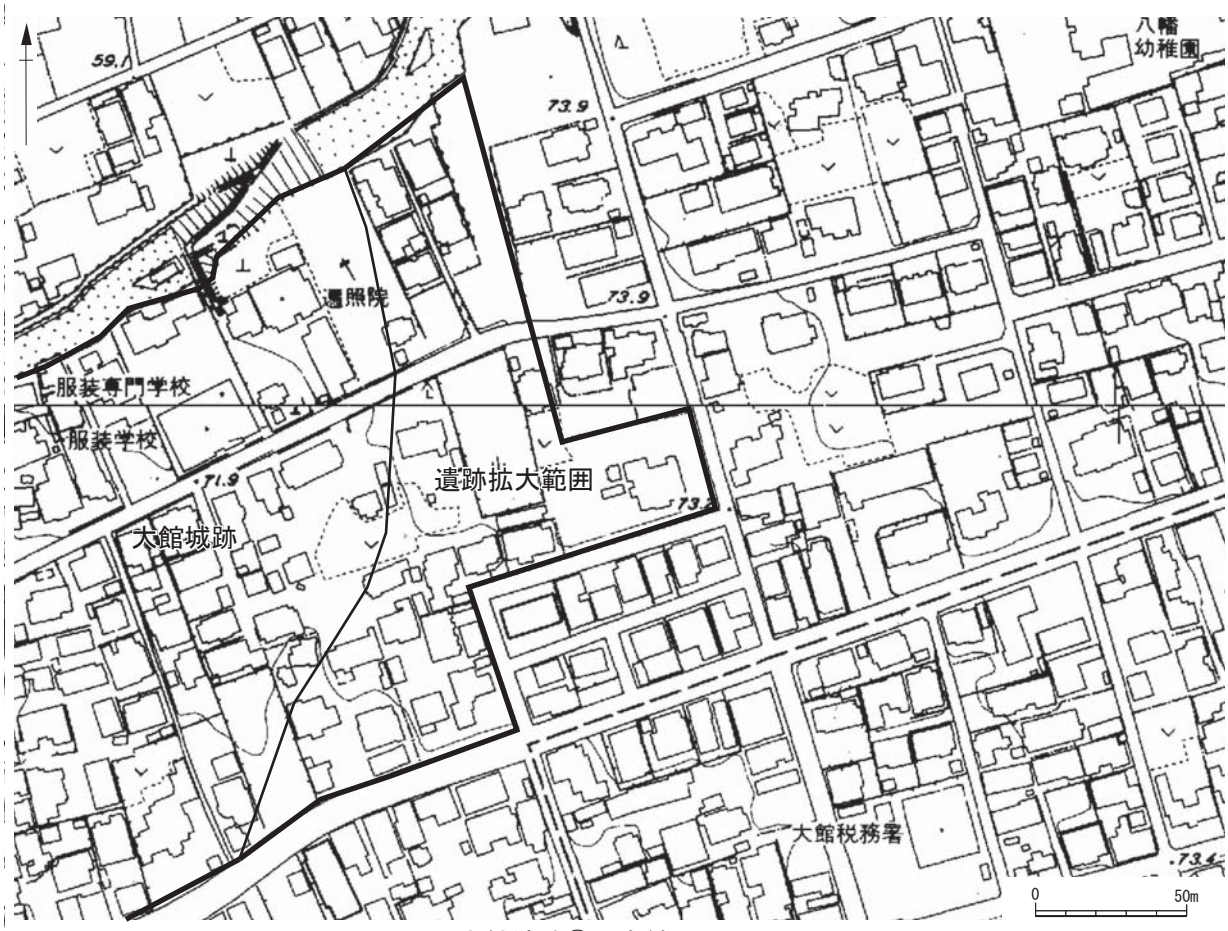


図９　大館城跡①調査結果図（1：2,500）

調査地近景

作業状況

Ａ－４区

Ｄ－２Ｂ区

図版１　大館城跡①調査状況

２　大館野遺跡（土地造成工事）

⑴　調査の経緯

白沢地区において民間事業による土地造成が計画されたことから、事業主に造成予定地が大館野遺跡内であること、事業着手前に試掘調査の必要である旨説明した。事業者の理解を得、令和元年６月に試掘調査を実施した。

⑵　遺跡の位置と周辺の環境

大館野遺跡は、大館盆地を南流する下内川の右岸に位置する。昭和62～平成元年度の調査により、大館野台地上の北部では主に平安時代の遺構・遺物が発見されている。

周辺には、北約300mに平安時代の土師器が発見された両堤遺跡、西側約100mに縄文時代前期～晩期の土器が発見された中羽立遺跡、西約500mに弥生・平安時代～中世の集落跡の粕田遺跡、東約800mに平安時代～中世の土器が発見された白沢古館跡、南東約1.5㎞には縄文時代前期～晩期、弥生時代の土器が発見された釈迦池遺跡、南約800mに縄文時代後・晩期の土器が発見された橋桁遺跡、南西約900mに中世の館跡である福館跡、縄文時代前･中･晩期の集落跡の福館橋桁野遺跡が所在する。

⑶　調査の方法

今回の調査地は、大館野台地上の南端である。調査にあたり、東西方向のラインとこれに直交するラインを座標系として設定した。調査の基本を10m間隔の方眼とし、１m角のテストピットを設定した。テストピットの掘削は全て人力にて行い、遺構・遺物の有無等を調査した。

基本層序は、基盤をなす褐色砂質土層上に腐植土層が堆積する。

Ⅰ層　表土。
Ⅱ層　黒色を呈する腐植土層で、本来の遺物包含層。
Ⅲ層　黒褐色を呈する土層。十和田ａ降下軽石（Ｔｏ－ａ）を含む。
Ⅳ層　黒色を呈する腐植土層。
Ⅴ層　暗褐色を呈するⅣ層とⅥ層の漸移層。
Ⅵ層　褐色を呈する砂質土層。

⑷　調査の結果

調査範囲内には伐採した杉の枝が積み上げられていた部分を除き、21箇所のテストピットを設定し調査したが、道路に面した調査区南東側は近代の土地造成による削平が激しく、遺物包含層は残存していなかった。Ｃ－５区からＧ－２区にかけてはＴｏ－ａとみられる軽石の二次堆積層が残存していたが、遺構は検出されず、遺物は２点のみである。１点はＧ－２区のＩ層から土師器の体部片が出土した。もう１点は北西の隣接地の畑から須恵器片を表採した。図10－１は須恵器甕の体部で、外面にタタキ目が残る。

以上の結果から、今回の調査地は埋蔵文化財が消失しているかまたは所在していないものと考えら

れる。遺物がほとんど出土していないことを踏まえ、遺構等は存在している可能性が低いため、慎重工事等の保護措置が妥当と判断した。なお、令和元年８月１日～29日に工事立会を実施したが、遺構・遺物は確認されなかった。

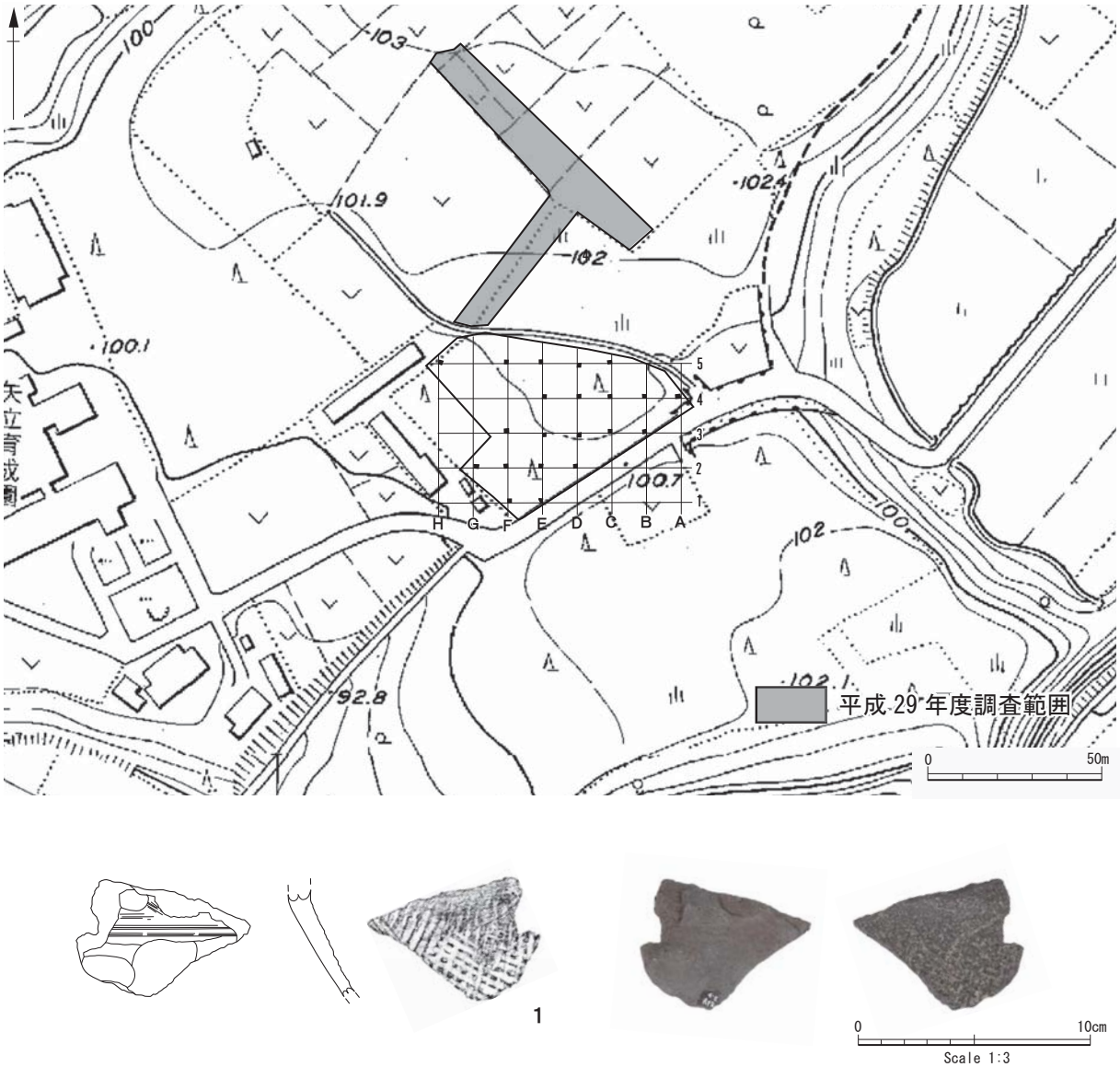


図 10　大館野遺跡の調査位置図（1：2,000）と遺物

表４　出土遺物一覧

テストピット	P		計
	7		
	1	2	
G－２		1	1
表　採	1		1
計	1	1	2

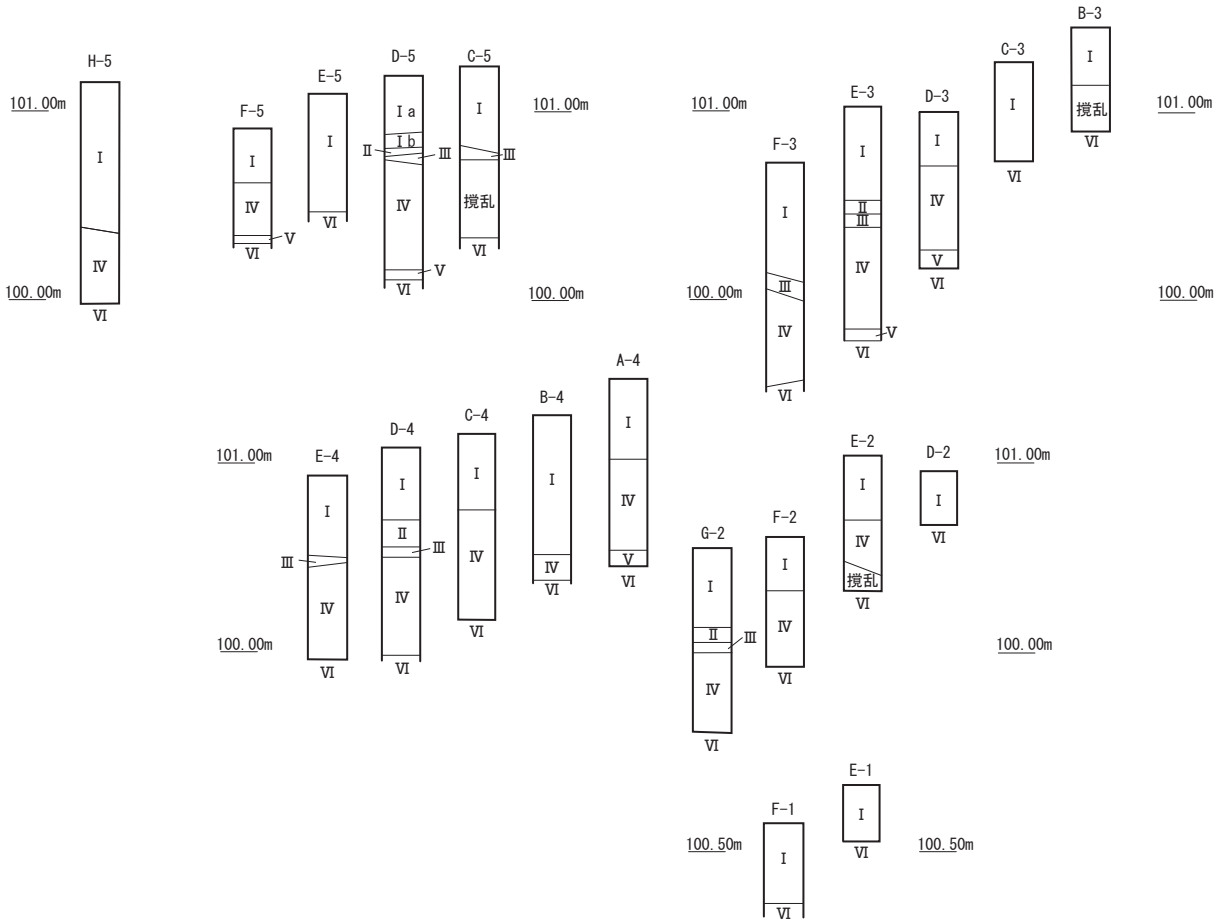


図 11　大館野遺跡土層柱状図（1：40）

調査地全景

作業状況

Ｃ－３区

Ｆ－３区

図版２　大館野遺跡調査状況

３　長走遺跡（校舎解体工事）

⑴　調査の経緯

長走地区において公共事業による廃校舎解体が計画されたことから、事業担当課に解体予定地が長走遺跡内であること、事業着手前に試掘調査の必要である旨説明した。事業担当課の理解を得、令和元年７月に試掘調査を実施した。

⑵　遺跡の位置と周辺の環境

長走遺跡は、大館盆地を南流する下内川の支流、尻合川右岸に位置する。周辺には、西隣に長走関所跡、北約0.7㎞に国指定天然記念物長走風穴高山植物群落が所在する。

⑶　調査の方法

今回の調査は、対象範囲を工事で影響のある旧長走小学校の跡地周辺のみとした。調査にあたり、おおむね東西方向のラインとこれに直交するラインを座標系として設定した。調査の基本を10m間隔の方眼とし、１m角のテストピットを設定した。テストピットの掘削は全て人力にて行い、遺構・遺物の有無等を調査した。

基本層序は、基盤をなす暗褐色～にぶい黄橙色砂質土層上に腐植土層が堆積する。

Ⅰ層　表土。

Ⅱ層　黒色を呈する腐植土層で、本来の遺物包含層。

Ⅲ層　黒褐色を呈する土層。Ⅱ層とⅣ層の漸移層。

Ⅳ層　暗褐色～にぶい黄橙色を呈する砂質土層。

⑷　調査の結果

調査範囲内に14箇所のテストピットを設定し調査したが、全域にわたって校舎建築の際の土地造成による削平が激しく、遺物包含層はほとんど残存していなかった。Ｃ－４区とＦ－８区でⅡ～Ⅲ層が残存していたが、旧地形で標高が低くなっていたために削平を免れたのだろう。

今回の調査では遺構は検出されず、遺物は近世磁器１点のみである。

以上の結果から、今回の調査地は埋蔵文化財包蔵地が消失しているかまたは所在していないものと考えられる。中世以前の遺物が出土していないことを踏まえ、包蔵地は存在している可能性が低いため、慎重工事等の保護措置が妥当と判断した。なお、遺跡西端の仮設排水管設置工事の際に令和元年９月10日に工事立会を実施したが、遺構・遺物は確認されなかった。

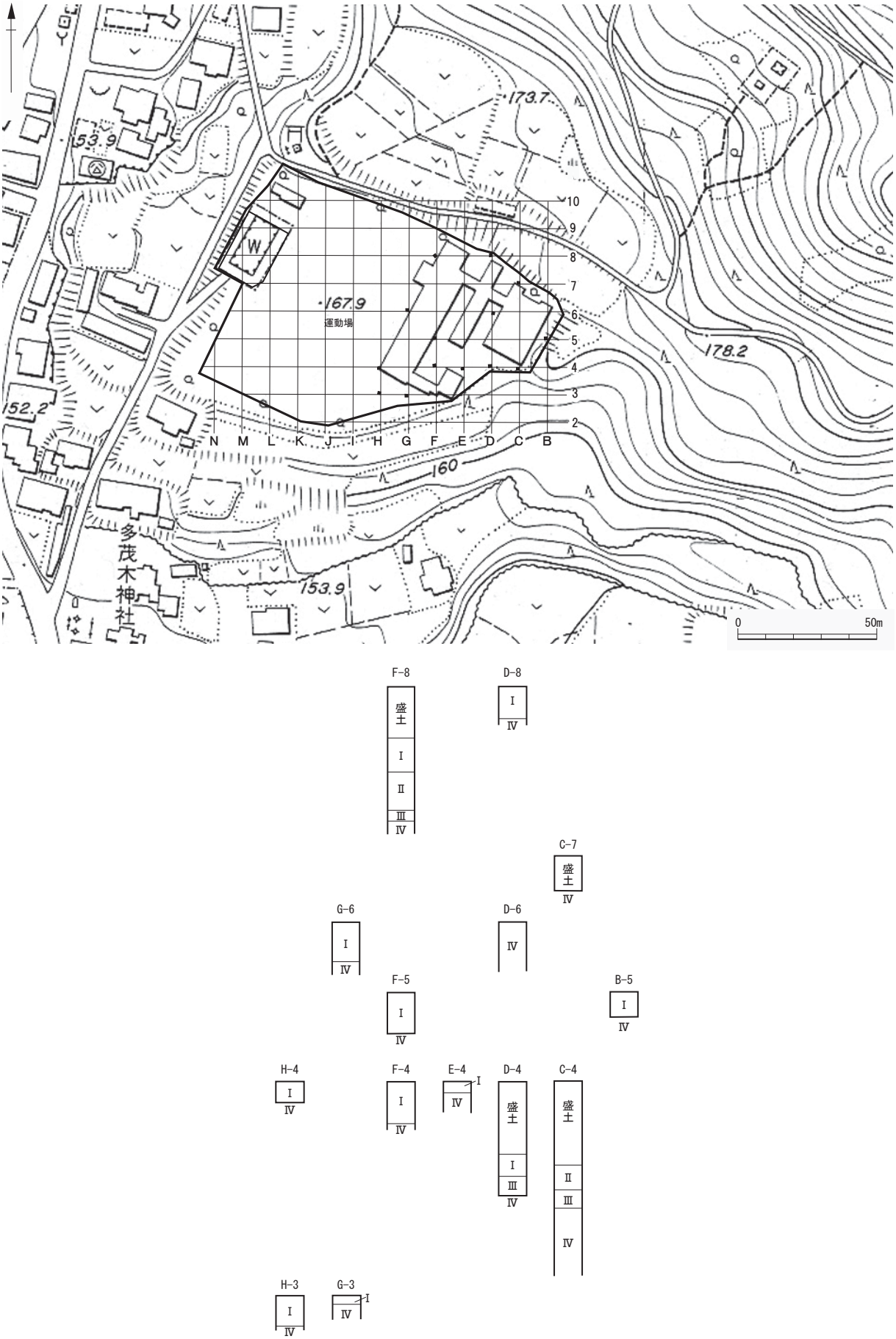


図 12　長走遺跡の調査位置図（1：2,000）と土層柱状図（1：40）

調査地全景

作業状況

Ｇ－３区

Ｂ－５区

図版３　長走遺跡調査状況

４　釈迦内地区①（敷地造成工事）

⑴　調査の経緯

釈迦内地区において民間事業による敷地造成工事が計画されたことから、事業主が依頼した設計事務所から事前に埋蔵文化財対応について照会があった。造成予定地は遺跡に該当していないものの、開発の規模が大規模であったため、設計事務所と協議し、事業者の理解を得、令和元年９月に試掘調査を実施した。

⑵　調査地の位置と周辺の環境

調査地は、大館市街地の北方、ＪＲ奥羽本線大館駅から北東に2.5㎞に位置し、獅子ヶ森（標高224.7m）から西に派生した東西約２㎞、南北約0.6㎞、標高70～85mの広大な獅子ヶ森台地の北東部に立地する。調査地の位置は、北緯40度18分3秒、東経140度34分38秒（世界測地系）で、標高は76～80mである。

調査地の西側約1.3㎞、獅子ヶ森台地最西端には、釈迦内神明社鎮座地を中心郭として、中世城館の釈迦内館跡が所在する。

⑶　調査の方法

発掘区の設定は、Ｘ・Ｙ軸のラインを南北・東西の座標軸にあわせた。座標の名称は今回の事業対象予定地を包括できるように新規に設定した。発掘区における公共座標は、Ｂ－８区でＸ＝33,450.000、Ｙ＝－21,690.000、Ｑ－７区でＸ＝33,440.000、Ｙ＝－21,840.000である（世界測地系）。調査区における基本区画は、10×10mとし、名称は南東角の記号で表示する。今回の調査範囲は、Ｘ＝１～12、Ｙ＝Ａ～Ｑである。

テストピットは、基本的に２m幅とし、Ｘ・Ｙ軸の交点にあたる箇所に設定した。掘削は全てバックホーで行い、基盤層である褐色～黄褐色砂質土層（Ⅳ層）まで掘り下げ、遺構の有無の確認・遺物の収集等を行った。出土遺物は、層位ごと、テストピットごとに取り上げた。

調査地内の基本層序は、基盤をなす褐色～黄褐色砂質土層上に腐植土層が堆積する。以下に基本層序を示す。

Ⅰ層　表土（旧表土含む）。黒色を呈する腐植土層である。

Ⅱ層　黒色を呈する腐植土層である。一部の箇所では十和田ａ降下軽石（Ｔｏ－ａ）を含み、それによりａ・b層に細分される。

Ⅲ層　黒褐色を呈する砂質土層。Ⅱ層とⅣ層の漸移層である。

Ⅳ層　褐色～黄褐色を呈する砂質土層。

⑷　調査の結果

調査範囲内全体に47箇所のテストピットを設定して調査した。調査区の東側及び西側では土地造成によりⅣ層まで削平されている箇所が多く、Ｆ－10区及びＱ－７区ではＴｏ－ａとみられる軽石の二

次堆積層が残存していたが、遺構は確認されなかった。遺物は、Ｅ－５区のＩ層より石器１点、Ｌ－10区のＩ層より近世陶磁器片１点が出土し、調査区内から剥片・礫が６点表採された。図13－１はＥ－５区のＩ層から出土した珪質頁岩のＵ．フレイク。

以上の結果から、遺構は確認されず、遺物は散発的にわずかにみられるのみであり、今回の調査地は遺跡のエリアに入るとは考えがたい。しかし、調査地が立地する広大な獅子ヶ森台地では、縄文時代の遺跡は確認されていないことから、周辺に遺跡が存在する可能性があり、今後も分布調査を続けていく必要があると考える。

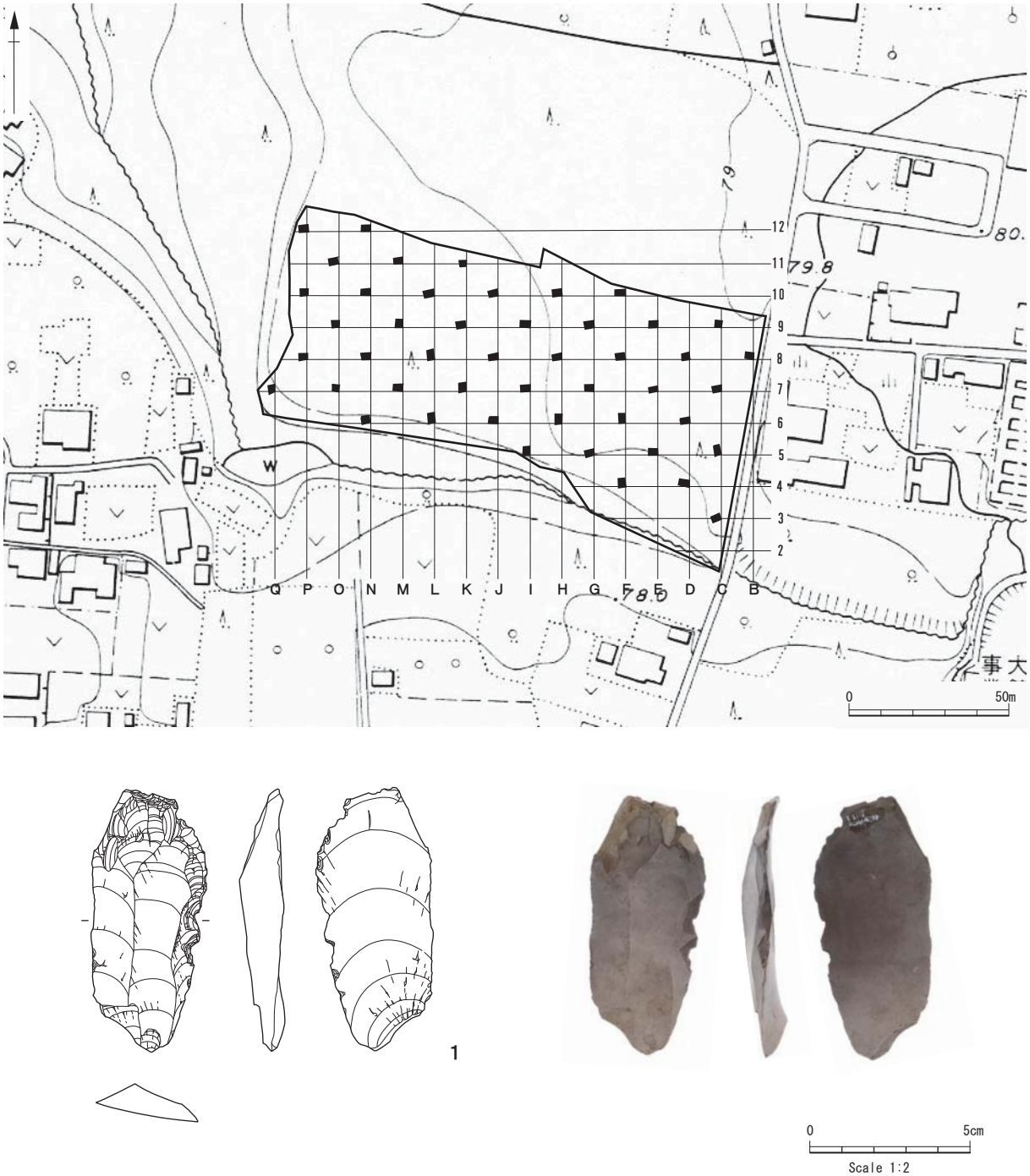


図 13　釈迦内地区①の調査位置図（1：2,000）と出土遺物

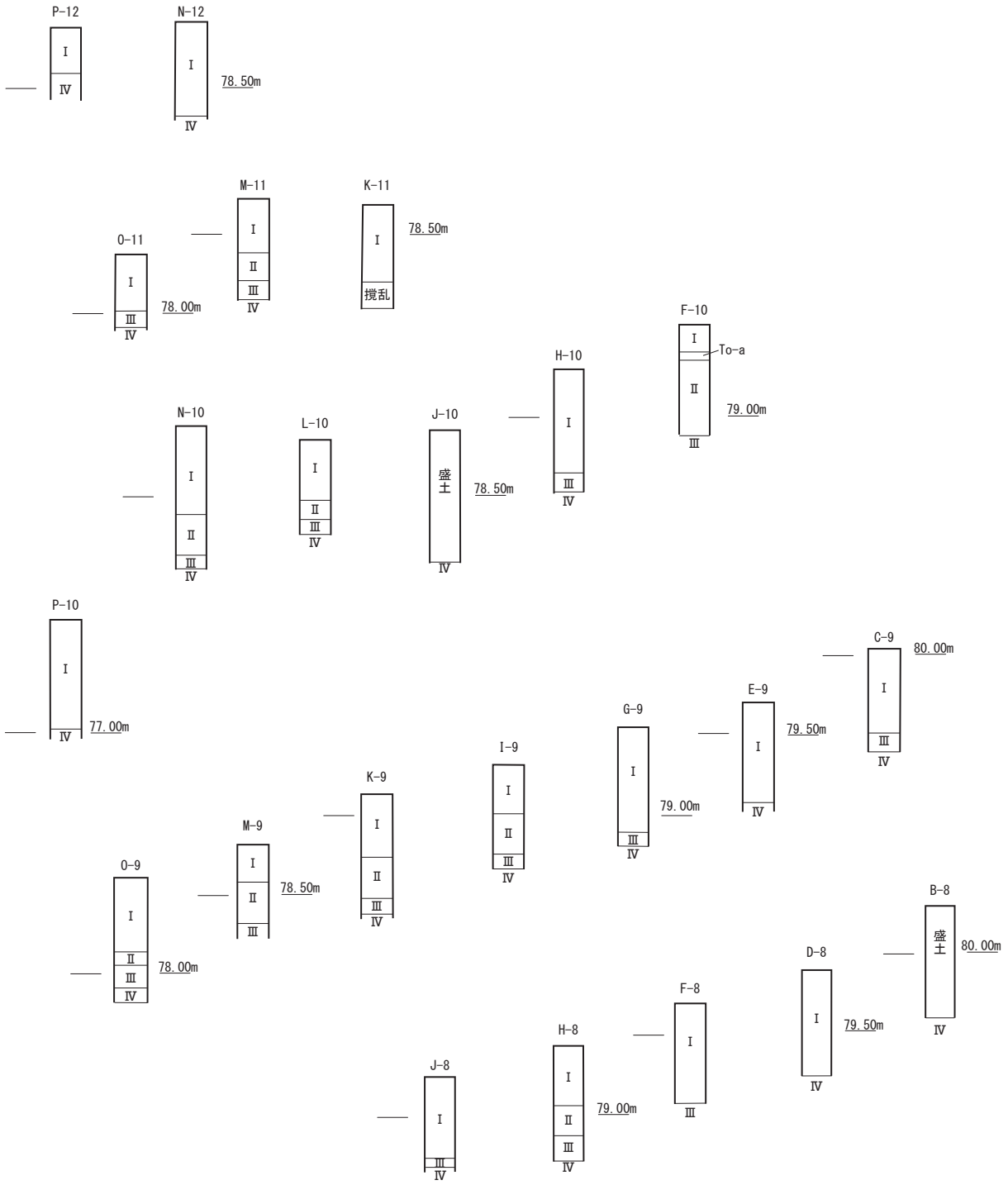


図 14　釈迦内地区①土層柱状図（1）（1：40）

表５　出土遺物一覧

テストピット	P		S				合計
	8	計	1	2	4	計	
	1		4				
E-5			1			1	1
L-10	1	1					1
表採				3	3	6	6
計	1	1	1	3	3	7	8

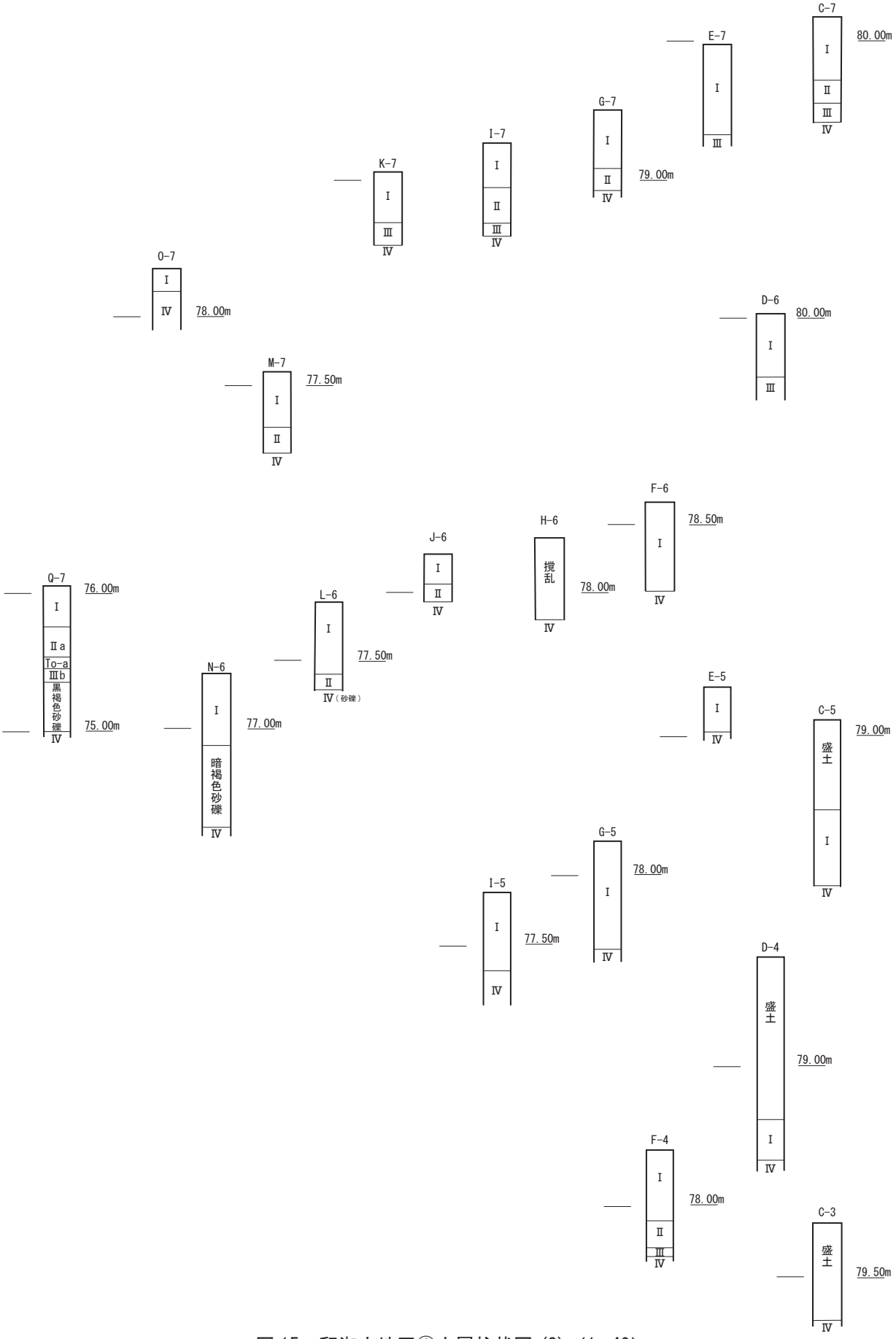


図 15　釈迦内地区①土層柱状図 (2) (1：40)

調査区全景（東から）

調査区全景（西から）

調査状況

Ｄ－４区（北西から）

Ｆ－10 区（南から）

Ｈ－８区（西から）

Ｎ－10 区（西から）

Ｑ－７区（西から）

図版４　釈迦内地区①調査状況

５　扇田道下遺跡（公共下水道工事）

⑴　調査の経緯

扇田道下地区において公共事業による下水道整備が計画されたことから、事業担当課に整備予定地が扇田道下遺跡内であること、事業着手前に試掘調査の必要である旨説明した。事業担当課の理解を得、令和元年９月に試掘調査を実施した。

⑵　遺跡の位置と周辺の環境

扇田道下遺跡は米代川と長木川に挟まれた大館段丘の南の縁、柄沢川右岸に位置しており、北緯40度15分49秒、東経140度34分21秒（世界測地系）、標高は海抜67.1mを測る。平成２・３年度の調査により、段丘上では主に平安時代の遺構・遺物が発見されている。

隣接する周辺の遺跡として、縄文時代後期の土器や土師器及び須恵器が出土している縄文時代と平安時代の散布地である扇田道上遺跡が東約200mに立地する。

⑶　調査の方法

テストピットは調査対象地内に任意に設定した。テストピットの掘削は表土から地山層直上までの約30～100cm をバックホーで掘削し、地山層までの掘削及び清掃は人力で行い、遺構・遺物の有無等を調査した。

基本層序は以下の通りである。

Ⅰ層　盛土層。道路建設時の砕石及びアスファルト層。

Ⅱ層　10YR5/8　黄褐色ローム層。地山層。

Ⅲ層　10YR8/2　灰白色シラス層。地山層。

⑷　調査の結果

今回、調査を行うにあたって調査区域内に４箇所のテストピット（以下「ＴＰ」）を設定して調査を行った。台地の南側縁～斜面にＴＰ１とＴＰ２を設定し、台地上にＴＰ３とＴＰ４ を設定した。ＴＰ１とＴＰ２では、路盤砕石層の直下からシラス層が確認された。したがって台地の縁～斜面部分に関しては、遺物包含層・Ⅱ層はすでに削平され、存在しないものと考えられる。

ＴＰ３とＴＰ４では路盤砕石層直下でⅡ層が確認できた。しかし、隣接地である東北職業能力開発大学校附属秋田職業能力開発短期大学校の建設工事に伴う発掘調査（平成２・３年実施）の際、表土直下で確認された包含層（黒褐色土層）は、今回の調査においては検出されなかった。したがって台地上においてもすでに包含層は削平されていることが想定される。

今回の調査では遺構は確認されず、遺物はＴＰ４内の路盤砕石層直下から微細な土師器片が１点出土した。以上の結果から、事業担当課より提出された設計計画では掘削幅員は約1.2mと限定的であり、包含層も削平されていることから保護措置は工事立会等の軽微なものが妥当であると思われる。なお、令和元年10月15日～令和２年１月27日に工事立会を実施したが、遺構・遺物は確認されなかった。

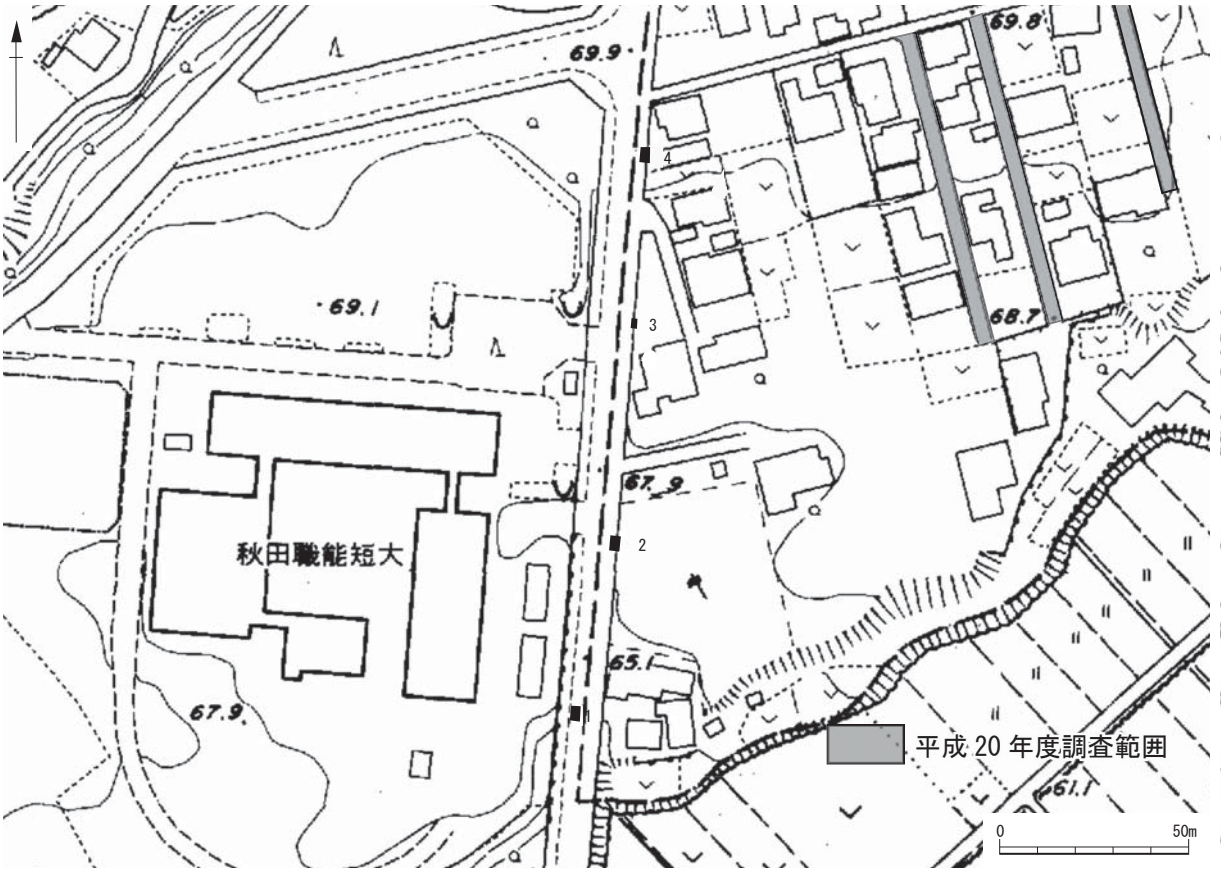


図 16　扇田道下遺跡調査位置図（1：2,000）

調査地近景

作業状況

１（南から）

２（南から）

図版５　扇田道下遺跡調査状況

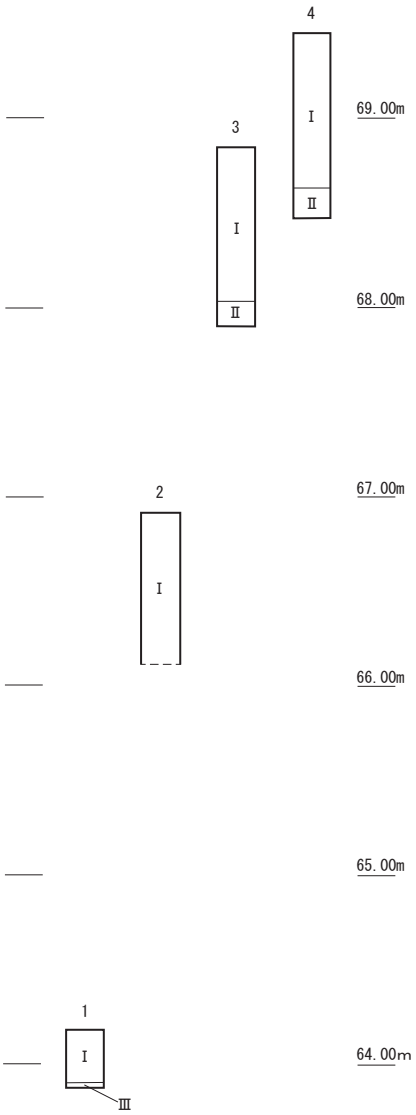


図 17　扇田道下遺跡土層柱状図（1：40）

表６　出土遺物一覧

テストピット	P	計
	7	
	2	
ＴＰ４	1	1

６　釈迦内地区②（敷地造成工事）

⑴　調査の経緯

第４節と同様の設計事務所から事前に埋蔵文化財対応について照会があった。造成予定地は遺跡に該当していないものの、開発の規模が大規模であったため、設計事務所と協議し、事業者の理解を得、令和元年10月に試掘調査を実施した。

⑵　調査地の位置と周辺の環境

調査を実施した地区は、釈迦内地区①（第４節）の沢を挟んだ南側の隣接地である。大館市内の遺跡は、米代川とその支流域付近の丘陵や台地上に分布する。調査地は、北側を沢が横断しており、埋蔵文化財包蔵地の所在する可能性がある地区であることから調査を行った。

周辺には、乱川を挟んだ対岸の北西約0.9㎞に平安時代の集落跡が発見された釈迦内中台Ⅰ遺跡と平安時代の遺跡である釈迦内中台Ⅱ遺跡が所在する。

⑶　調査の方法

今回の調査は、対象範囲を台地上のみとした。調査にあたり、発掘区の設定は、釈迦内地区①調査を踏襲した。調査の基本を10m間隔の方眼とし、20m間隔で２m角のテストピットを設定した。テストピットの掘削は重機を用いて灰黄褐色～黄褐色粘質土層（Ⅳ層）まで掘り下げ、人力にて精査し、遺構・遺物の有無等を調査した。

基本層序は、基盤をなす灰黄褐色～黄褐色粘質土層上に腐植土層が堆積する。

Ⅰ層　表土。

Ⅱ層　黒色を呈する腐植土層。十和田ａ降下軽石層（Ｔｏ－ａ）が存在するところでは、ａ・ｂ層に細分される。

Ⅱａ層　黒色を呈する。

Ⅱｂ層　黒色を呈する土層で、Ⅱａ層より若干暗い。

Ⅲ層　にぶい黄褐色を呈する土層。Ⅱ層とⅣ層の漸移層。

Ⅳ層　灰黄褐色～黄褐色を呈する粘土層。

⑷　調査の結果

調査範囲内に17箇所のテストピットを設定し調査した。全体的に旧表土が残存していたが、調査区北部では、土地造成による削平が激しく、旧表土以下はほとんど残存していなかったところもいくつかあった。Ｌ－３区とＮ－13区でＴｏ－ａが残存していたが、小規模な沢のために削平を免れたのであろう。今回の調査では遺構・遺物は検出されなかった。

以上の結果から、今回の調査地は埋蔵文化財包蔵地が所在していないものと考えられるため、これ以上の調査の必要はないと判断した。

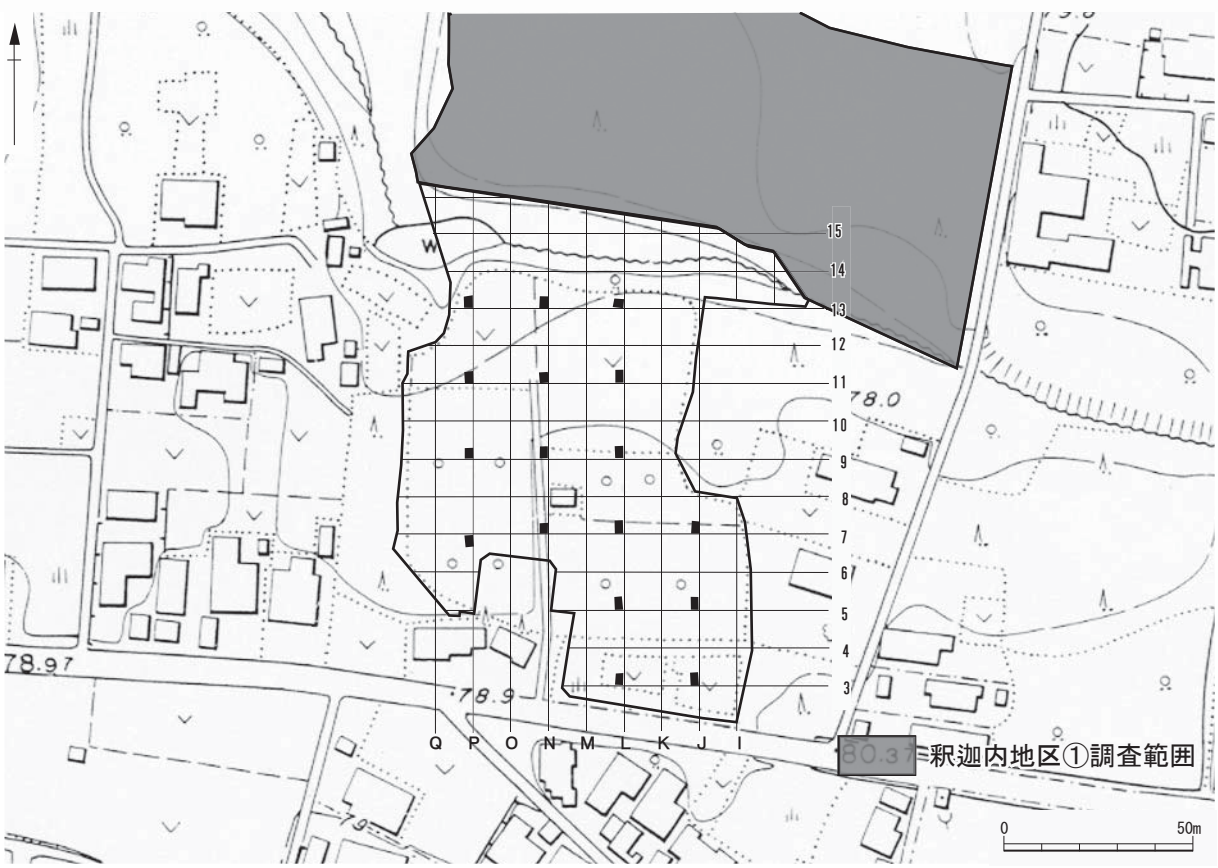


図 18　釈迦内地区②調査位置図（1：2,000）

調査地全景

作業状況

Ｊ－３区

Ｐ－７区

図版６　釈迦内地区②調査状況

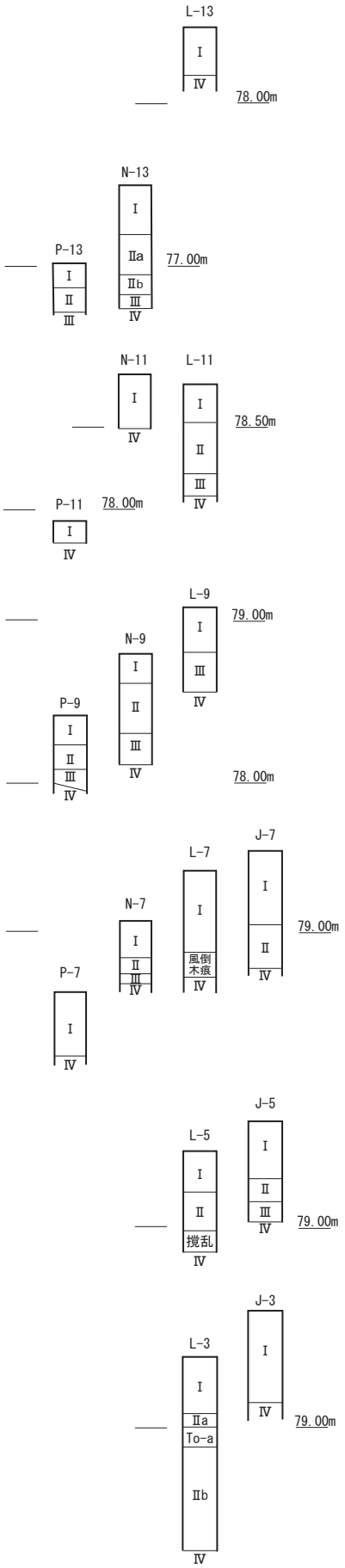


図 19　釈迦内地区②土層柱状図（1：40）

７　萩峠遺跡（送電線鉄塔建替工事）

⑴　調査の経緯

軽井沢地区において民間事業による送電線鉄塔建て替えが計画されたことから、事業主に建て替え予定地が萩峠遺跡内であること、事業着手前に試掘調査の必要である旨説明した。事業者の理解を得、令和元年11月に試掘・確認調査を実施した。

⑵　遺跡の位置と周辺の環境

萩峠遺跡は、大館盆地を西流する米代川の右岸に位置する。昭和54年度の秋田県教育委員会の調査により、丘陵上では主に縄文時代後期の遺構・遺物が発見されている。

周辺には、北東約0.3㎞に土師器や中世陶器が採集されている軽井沢新館跡、北約0.5㎞に土師器が採集されている山崎遺跡が所在する。

⑶　調査の方法

今回の調査は、事業で掘削するのは国道からの侵入部分及び鉄塔基礎のみであるので、対象範囲をその２箇所のみとした。

調査にあたり、任意のトレンチを２本設定した。トレンチの掘削は全て人力にて行い、遺構・遺物の有無等を調査した。

基本層序は、基盤をなす黄褐色～明黄褐色粘質土層上に腐植土層が堆積する。

Ⅰ層　表土。

Ⅱ層　黒色を呈する腐植土層で、本来の遺物包含層。

Ⅲ層　暗褐色を呈する土層。Ⅱ層とⅣ層の漸移層。

Ⅳ層　黄褐色～明黄褐色を呈するシルト～粘土層。

⑷　調査の結果

調査範囲内に２本のトレンチ（以下「ＴＲ」）を設定し調査したが、国道に面する部分は土地造成による削平が激しく、遺物包含層は残存していなかった。鉄塔建設部分はⅡ～Ⅲ層が残存していた。

今回の調査では遺構は検出されず、遺物はＴＲ２から縄文土器片７点、近世～近代の陶器１点である。図20－１～３は５群土器で１類か２類に細分されると思われる。１・２は胴部で外面にＲＬ斜行縄文を施し、内面は丁寧に磨かれている。３は底部で、胎土には砂礫を多く含む。内外面全面に黒色の付着物がある。２と３は同一個体の可能性がある。

以上の結果から､国道に面した地点は埋蔵文化財包蔵地が消失しているものと考えられる。北側（ＴＲ２）に包蔵地は残存している可能性が高いものの、遺構が検出されていないこと、遺物が出土していることを踏まえ、工事立会等の軽微な保護措置が妥当と判断した。なお、令和２年10月30日～11月４日に工事実施中に立会を実施したが、遺構・遺物は確認されなかった。

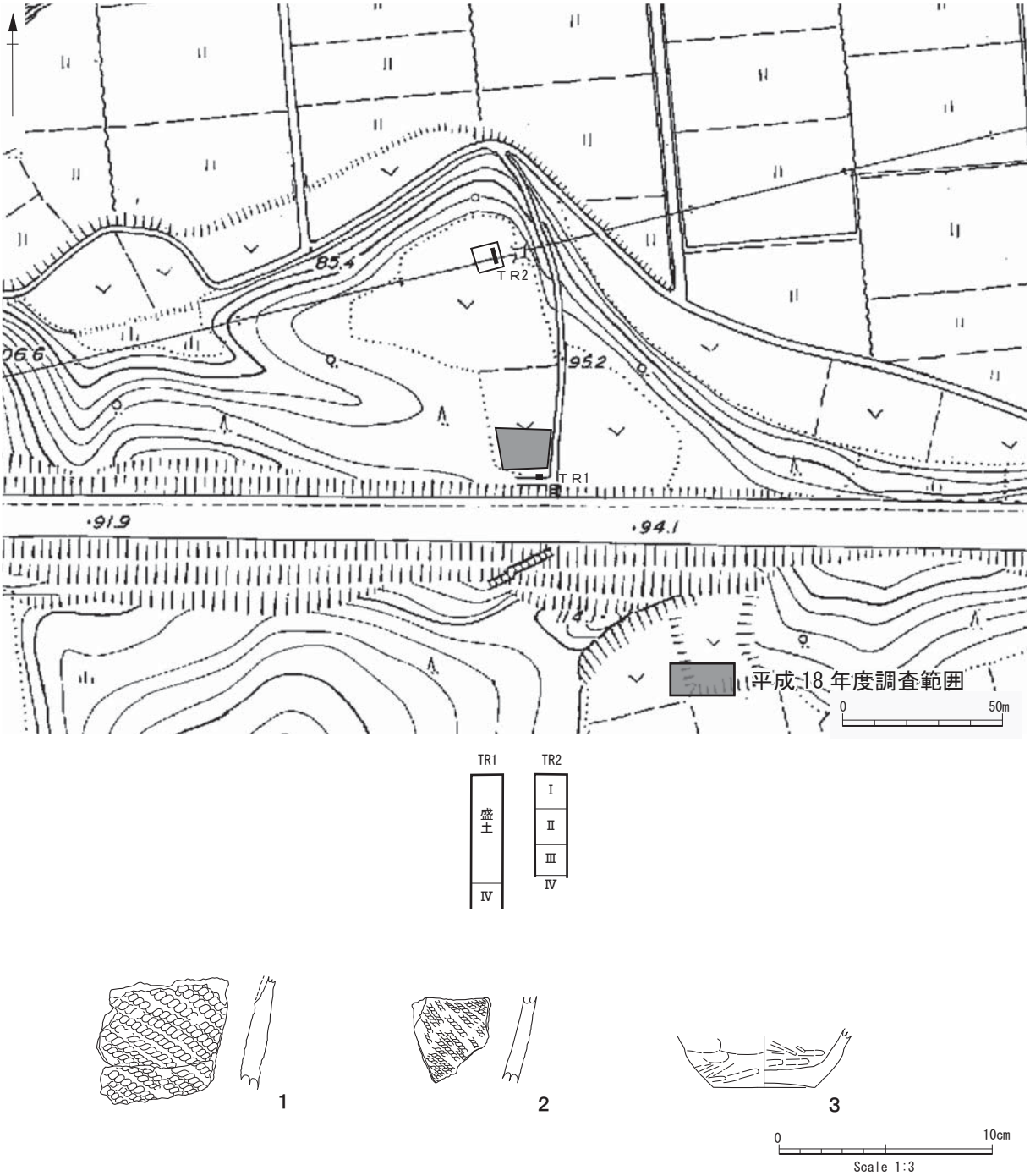


図 20　萩峠遺跡の調査位置図（1：2,000）・土層柱状図（1：40）と出土遺物

表７　出土遺物一覧

調査区	P		計
	5	8	
		2	
ＴＲ２	7	1	8

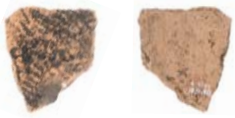
調査地全景

作業状況

ＴＲ１

ＴＲ２

1



2

3

図版７　萩峠遺跡の調査状況と出土遺物

８　釈迦内古館跡（個人住宅増築工事）

⑴　調査の経緯

釈迦内地区において個人による住宅増築が計画されたことから、建築主が依頼した建設業者に増築予定地が釈迦内古館跡内であること、工事着手前に試掘調査の必要である旨説明した。建築主の理解を得、令和元年11月に試掘・確認調査を実施した。

⑵　遺跡の位置と周辺の環境

釈迦内古館跡は、大館盆地を南流する乱川の右岸に位置する。平成29年度の調査により、台地直下では平安時代の遺物が発見されている。

周辺には、南東約0.3㎞に中世の堀跡や陶器が検出された釈迦内館跡、東約0.6㎞に土師器が採集されている釈迦内中台Ⅱ遺跡、西約１㎞に空堀が確認されている高館跡が所在する。

⑶　調査の方法

調査にあたり、任意のトレンチを１本設定した。トレンチの掘削は全て人力にて行い、遺構・遺物の有無等を調査した。

基本層序は、基盤をなす黄褐色砂質土層上に腐植土層が堆積する。

Ⅰ層　表土。

Ⅱ層　黒色を呈する腐植土層で、本来の遺物包含層。

Ⅲ層　黒褐色を呈する土層。Ⅱ層とⅣ層の漸移層。

Ⅳ層　黄褐色を呈する砂質土層。

⑷　調査の結果

調査範囲内に１本のトレンチ（以下「ＴＲ」）を設定し調査したが、竪穴建物跡１軒（ＳＩ１）、柱穴様ピット２基を検出し、遺物は４点の土師器を得た。

１）遺構

竪穴建物跡１

遺構　ＴＲ１を調査中に２条の直角方向にのびる溝があったことから、発見した。本建物跡は調査区外に南北に拡がり、平面形や規模は不明である。深さは0.3mほどである。確認したのは主に壁溝であり、壁の立ち上がりははっきりとしない。床はほぼ平坦である。遺構内より粘土を検出したが、カマドの一部であったと考えられる。

埋土　黒色土（Ⅱ）に塊状のロームが混じる。

遺物　竪穴建物跡１から出土した遺物は、土器１点である。図22－１は３層から出土した土師器甕口縁部。１／８ほどが残る破片から図上復元を行ったもので、口径17.6㎝ほどになるとみられる。外面

はヨコナデの後、ヘラケズリ、ヘラナデ、内面は刷毛状工具によるナデが施される。

柱穴様ピット

ＳＰ２・３は、径0.2m弱ほどである。隣接する竪穴建物跡との関連が考えられるが、不明である。

２）取り扱い

以上の結果から、今回の調査箇所から釈迦内古館跡は建物跡が分布する平安時代の遺跡であることが明らかとなった。なお、令和元年12月11日～13日、12月27日に工事立会を実施し、遺構は確認されなかったが、遺物は土師器１点、近世以降の磁器２点、礫１点を得た。

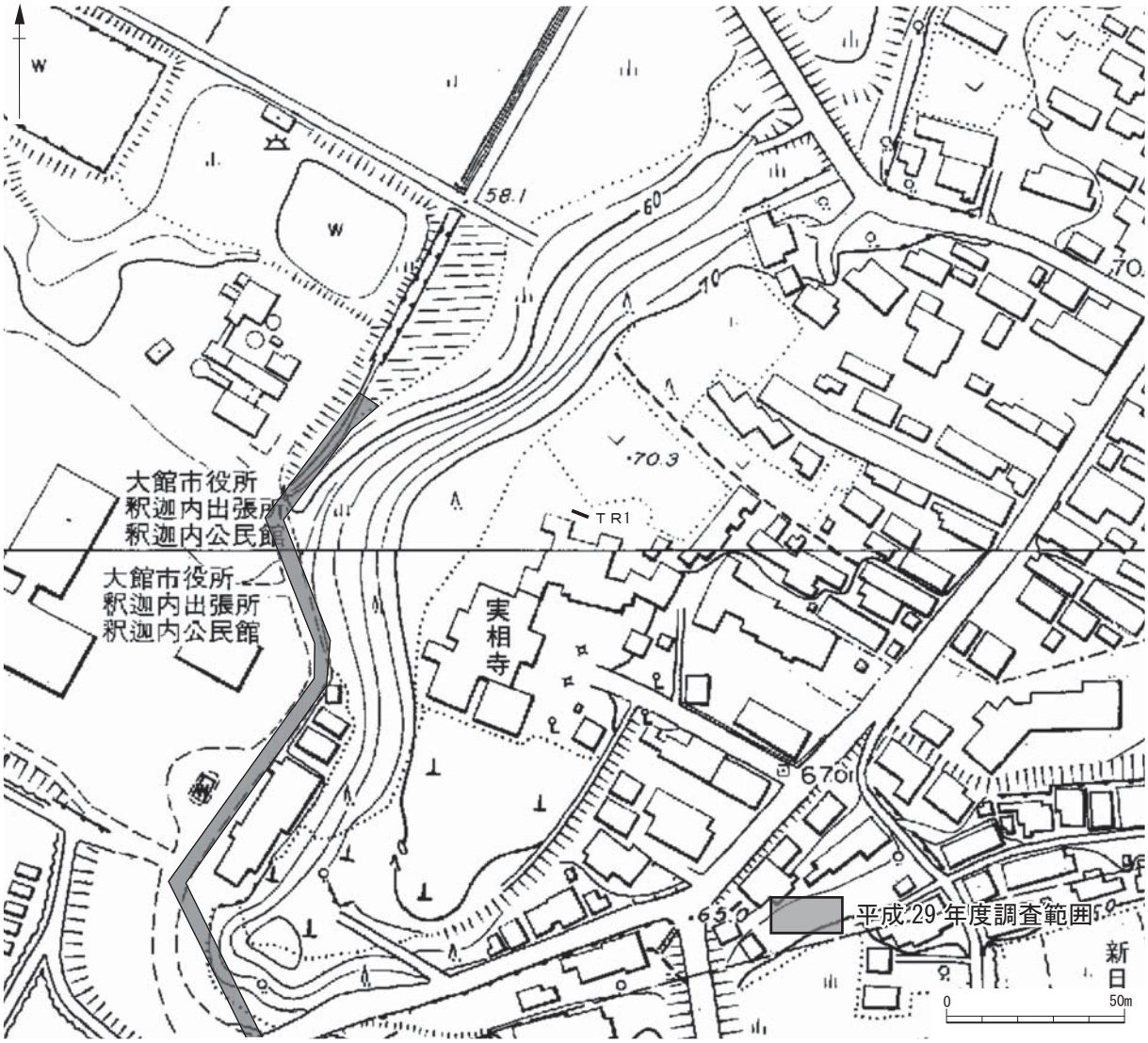


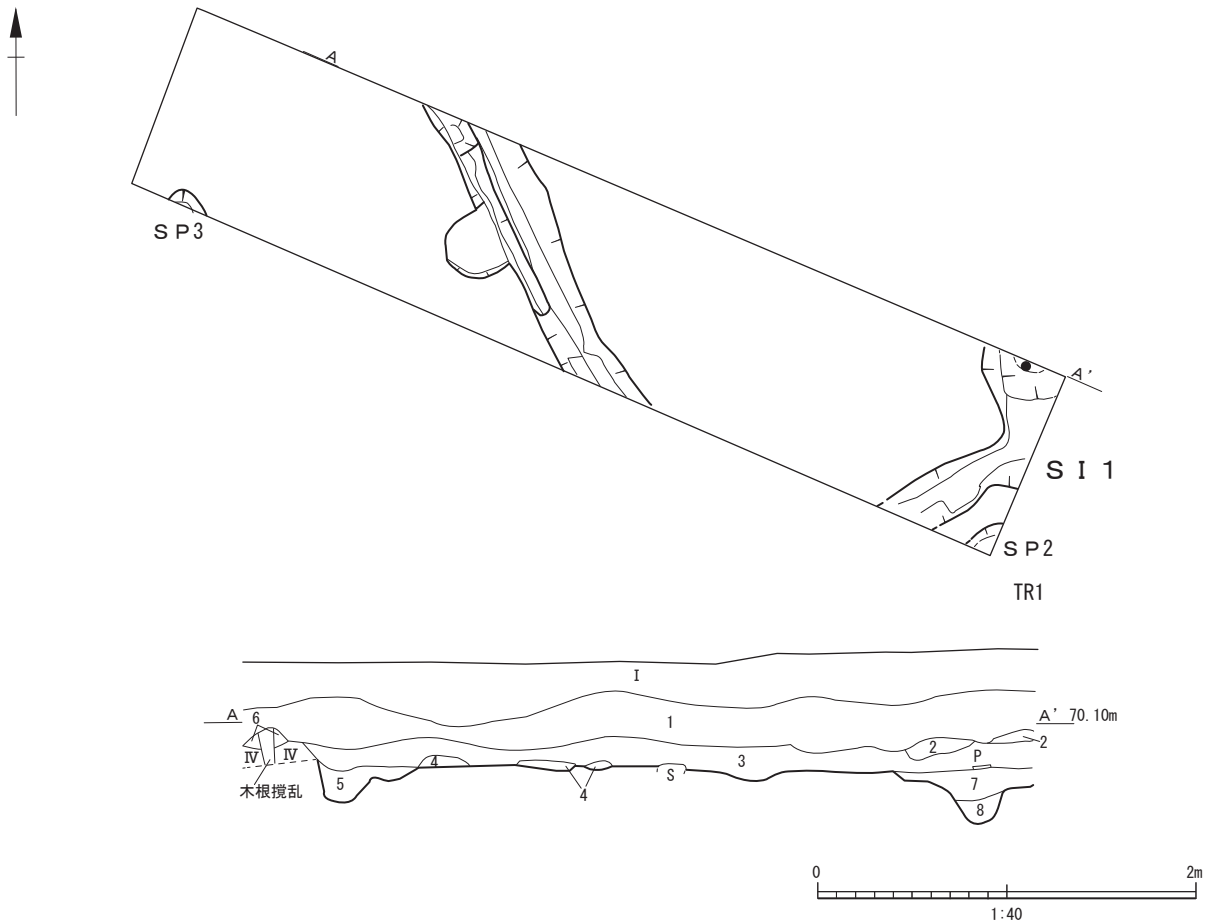
図 21　釈迦内古館跡調査位置図（1：2,000）

表８　遺構一覧

竪穴建物跡	柱穴・柱穴様ピット	計
1	2	3

表９　出土遺物一覧

調査区遺構	P	計
	7	
	2	
ＳＩ１	1	1
ＴＲ１	1	1
表採	2	2
計	4	4



ＳＩ１

1	10YR2/1 黒色	ロームブロック少量混入。締まり、粘性弱。
2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土。締まりあり。粘性弱。
3	10YR2/1 黒色	ロームブロックやや多量混入。締まり、粘性あり。1 よりわずかに暗い。
4	10YR2/1 黒色	ロームブロックやや多量混入。非常に固く締まる。粘性あり。貼り床。
5	10YR1.7/1 黒色	ローム粒少量混入。締まり、粘性あり。
6	10YR4/6 褐色	Ⅳ。下位にⅡ層が薄く堆積。締まりよし。粘性なし。堀り上げ土か。
7	10YR3/1 黒褐色	Ⅳ>Ⅱ。ロームが非常に多量混入。固く締まる。粘性なし。
8	10YR2/1 黒色	ロームブロック少量混入。締まり弱。粘性あり。

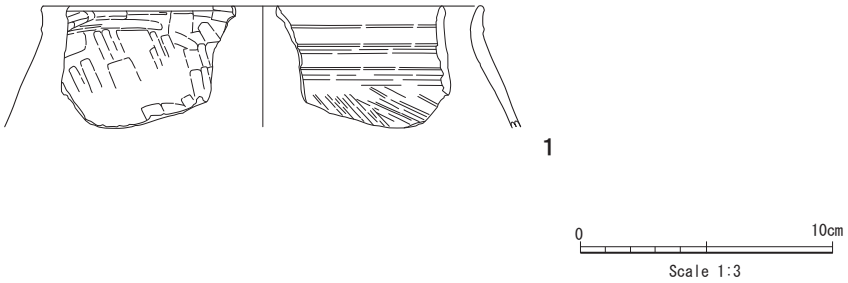


図 22　釈迦内古館跡竪穴建物跡１、柱穴様ピット２・３と出土遺物

調査地全景

作業状況

竪穴建物跡１

竪穴建物跡１　堆積状況

1

図版８　釈迦内古館跡の調査状況と出土遺物

９　橋桁遺跡（個人住宅新築工事）

⑴　調査の経緯

橋桁地区において個人による住宅新築が計画されたことから、建築主が依頼した設計事務所に新築予定地が橋桁遺跡内であること、工事着手前に試掘調査の必要である旨説明した。建築主の理解を得、令和元年11月に試掘・確認調査を実施した。

⑵　遺跡の位置と周辺の環境

橋桁遺跡は、大館盆地を南流する下内川の左岸に位置する。周辺には、西約0.6㎞に中世の空堀や郭が確認された福館跡と縄文時代中期の竪穴建物跡が発見された福館橋桁野遺跡が所在する。

⑶　調査の方法

今回の調査は、建築主から既存住宅解体前の試掘・確認調査の実施を依頼されたため、対象を住宅周辺とした。調査にあたり、任意で１本のトレンチと３箇所のテストピットを設定、掘開し、埋蔵文化財の有無及び包含層の残存状況等を調査した。

遺跡内の層序は、基盤をなす黄褐色砂質土層上に腐植土層が堆積する。

Ⅰ層　表土。

Ⅱ層　黒色～黒褐色を呈する腐植土層で、本来の遺物包含層。ａ・ｂ層に細分される。

Ⅱａ層　黒色を呈する。

Ⅱｂ層　黒褐色を呈する土層。

Ⅲ層　黒褐色を呈するⅡ層とⅣ層の漸移層。

Ⅳ層　黄褐色を呈する砂質土層。

⑷　調査の結果

調査範囲内に１本のトレンチ（以下「ＴＲ」）と３箇所のテストピット（以下「ＴＰ」）を設定し調査したが、西側のＴＰ４が撹乱を受けていたものの、他の箇所の包含層は良好に残存していた。遺構はＴＲ１より竪穴建物跡１軒（ＳＩ１）を検出し、遺物はＴＲ１を中心に土師器15点、縄文後期１点の土器片、３点の礫を得た。

１）　遺構

竪穴建物跡１

遺構　ＴＲ１を調査中に被熱した礫と白色粘土の拡がりがあったことから、発見した。本建物跡はトレンチの外に東西に拡がり、平面形や規模は不明である。深さは0.2mほどである。建物跡として確認したのは壁溝であり、壁の立ち上がりははっきりとしない。床はほぼ平坦である。遺構内より柱穴様ピット３基を検出したが、建物に関わる遺構と考えられる。

埋土　黒色土（Ⅱ）に粒状のロームが混じる。

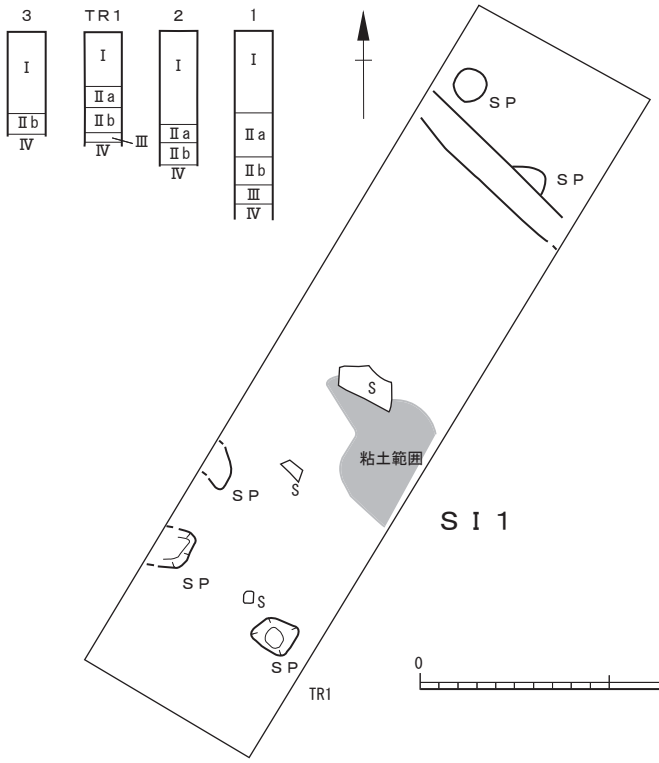


表10　遺構一覧

竪穴建物跡	計
1	1

表11　出土遺物一覧

調査区遺構	P			S	合計
	5	7	計	4	
		2			
SI1		11	11	2	13
TP1		1	1		1
TP3		2	2	1	3
表採	1	1	2		2
計	1	15	16	3	19

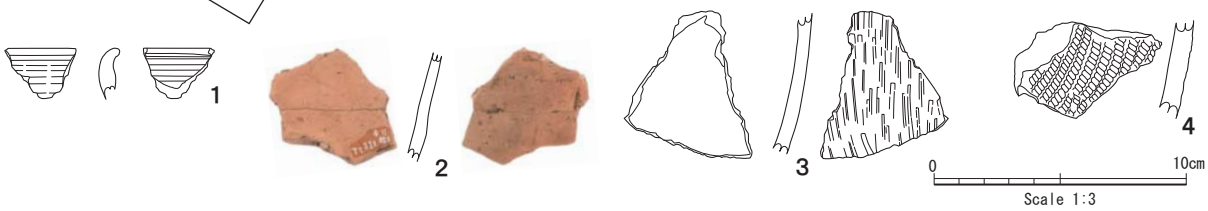


図 23　橋桁遺跡の調査位置図（1：2,000）、土層柱状図・調査平面図（1：40）と出土遺物

遺物　竪穴建物跡１から出土した遺物は、土器11点、礫２点である。図23－１～３は埋土中から出土した土師器甕。

２）遺物

図23－４は５群の胴部破片で表採である。斜行縄文が付く。

３）取り扱い

以上の結果から、今回は、ＴＰからは遺構を発見できなかったものの、調査地北側にあたる箇所から建物跡を発見し、遺構、遺物が分布することが確認されたことは調査の成果と言える。しかし、既存住宅部分が未調査であることから、住宅部分に包蔵地が残存しているか否かという課題が残された。現段階での判断は控えることとし、今後の調査結果を待って検討し全体を判断するものとしたい。

調査地全景

作業状況

竪穴建物跡１、柱穴様ピット

３調査状況

図版９　橋桁遺跡の調査状況と出土遺物

10　太平山遺跡隣接地（分譲宅地造成工事）

⑴　調査の経緯

中神明町地区において民間事業による宅地造成が計画されたことから、事業主に造成予定地が太平山遺跡の隣接地であることから、事業着手前に試掘調査の必要である旨説明した。事業者の理解を得、令和２年２月に試掘調査を実施した。

⑵　遺跡の位置と周辺の環境

太平山遺跡は、大館盆地を西流する米代川の右岸に位置する。かつて台地上では縄文時代晩期の遺物が発見されている。

周辺には、北側0.2㎞に平安時代～中世の土器・陶磁器が発見された稲荷中岱遺跡が所在する。

今回の調査地は太平山遺跡の東側隣接地である。

⑶　調査の方法

調査にあたり、東西方向のラインとこれに直交するラインを座標系として設定した。調査の基本を20m間隔の方眼として、２m角のテストピットを設定した。テストピットの掘削は事業者の協力のもと、バックホーにて行い、遺構・遺物の有無等を調査した。

基本層序は、基盤をなす黄褐色砂質土層上に腐植土層が堆積する。

Ⅰ層　表土及び盛土。

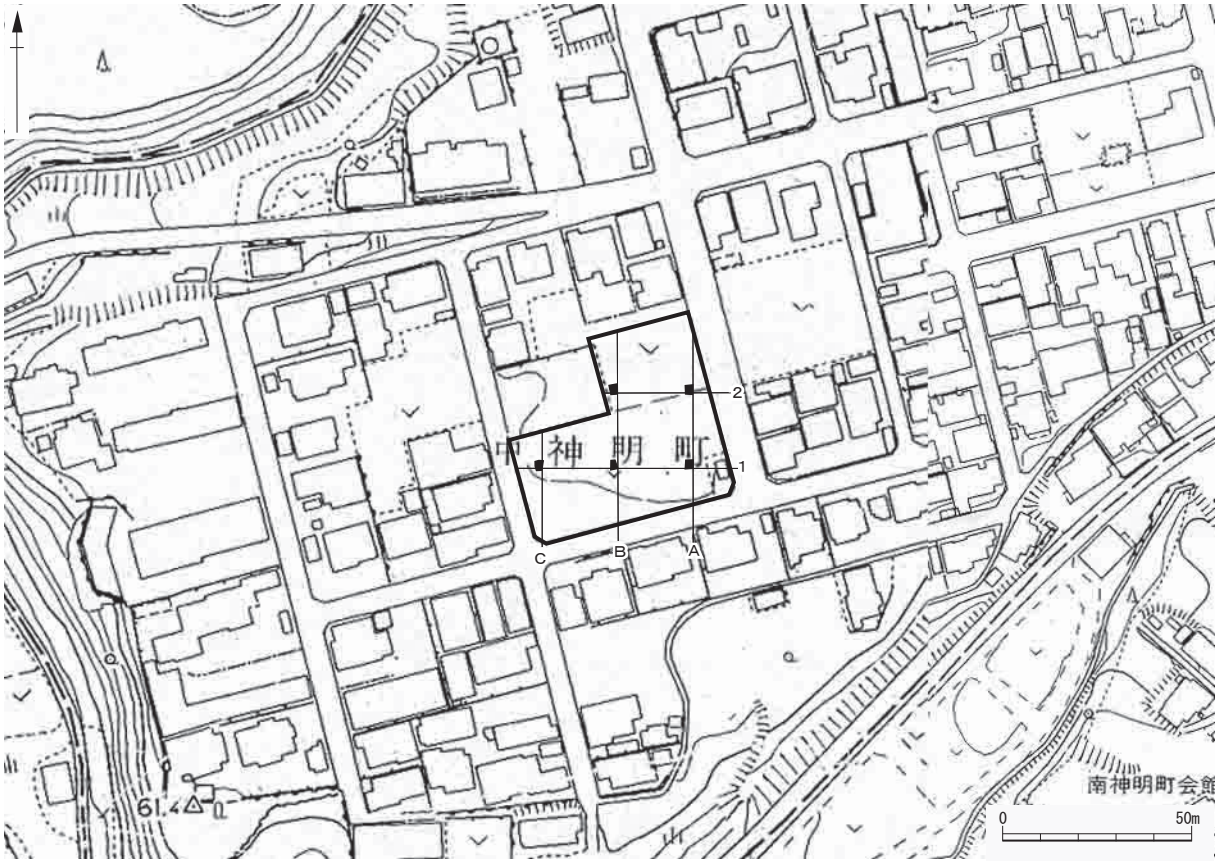
Ⅱ層　黄褐色を呈する砂質土層。

⑷　調査の結果

調査範囲内に５箇所のテストピットを設定し調査したが、全域にわたって造成による削平が激しく、遺物包含層は残存していなかった。今回の調査では遺構は検出されず、遺物は２点の縄文土器片、１点の陶器片が得られたのみである。縄文土器片はＣ－１区の撹乱土から出土し、晩期とみられる。陶器片はＢ－２区の盛土層から出土し、近世の唐津焼とみられる。

図版10－１・２はＣ－１区の撹乱から出土した５群土器。薄手で縄文が細かく晩期とみられるが、縄文のみで細分はできない。１は壺か注口土器の口縁部片で、風化しているため器外面に縄文がわずかに確認できる程度である。２は小型の土器胴部小破片。

以上の結果から、今回の調査地は埋蔵文化財包蔵地が消失しているかまたは所在していないものと考えられる。南西側（Ｂ～Ｃのライン）に包蔵地が残存している可能性も低い。



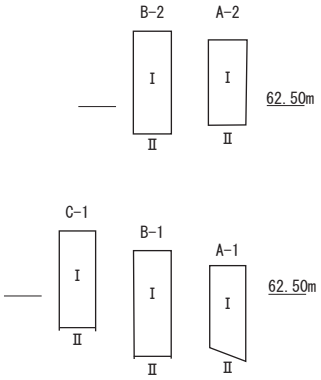


図 24　太平山遺跡隣接地の調査位置図（1：2,000）と土層柱状図（1：40）

表12　出土遺物一覧

テストピット	P		計
	5	8	
		2	
Ｂ－２		1	1
Ｃ－１	2		2
計	2	1	3

調査地全景

作業状況

Ａ－1 区

Ｃ－1 区

1

2

図版 10　太平山遺跡隣接地の調査状況と出土遺物

11　大館城跡②（個人住宅新築工事）

⑴　調査の経緯

桂城地区において個人による住宅新築が計画されたことから、建築主が依頼した建設設計事務所に新築予定地が大館城跡内であること、工事着手前に試掘調査の必要である旨説明した。建築主の理解を得、令和２年３月に試掘調査を実施した。

⑵　遺跡の位置と周辺の環境

大館城跡の位置と周辺の環境については、第１節で述べたとおりである。平成28年度の調査により、三ノ丸では主に江戸時代の遺構・遺物が発見されている。今回の調査位置は、大館城の三ノ丸の城内通路とそれに面した侍屋敷地に当たる。三ノ丸は本藩から派遣された家老級の給人の屋敷地に相当する。享保13（1728）年の「大館絵図」（秋田県公文書館蔵）によれば、調査地に該当する部分には古内蔵人の名がある。また、明治６（1873）年「秋田県第二大区第一小区大館町番号列戸絵図」には、古内権六郎の名が記されているため、代々古内氏の屋敷地であったと考えられる。

三ノ丸には、昭和２（1927）年に公立大館病院が長倉町から移転したが、昭和28年の風呂屋町大火で片町の官庁街とともに大館病院も焼失した。

⑶　調査の方法

調査にあたり、平面直角座標系のＸ・Ｙ軸を座標系として設定した。調査の基本を10m間隔の方眼とし、必要に応じ間隔を５ｍとして１ｍ角のテストピットを設定した。発掘区の名称は平成26年度の試掘調査で設定したものに準拠する。今回の調査範囲は、Ｘ＝14～15、Ｙ＝ＡＩである。テストピットの掘削は事業者の協力のもと、バックホーにて行い、遺構・遺物の有無等を調査した。

基本層序は、大館城跡①（第１節）と同様であるが、今回の調査地ではⅡ・Ⅲ層は失われていた。

⑷　調査の結果

調査範囲内に３箇所のテストピットを設定し調査したが、全域にわたって撹乱が激しく、遺物包含層は残存していなかった。ＡＩ－15ｄ区からは炭に混じって、公立大館病院と書かれた食器が出土したため、当該地は昭和28年の火事場整理に伴い、大きく撹乱を受けているものと考えられる。今回の調査では遺構は検出されず、遺物は陶磁器４点のみである。図25－１は磁器染付の中碗。外面は濃みの横縞である。２は陶器の壺または甕。

以上の結果から、今回の調査地は埋蔵文化財包蔵地が消失しているものと考えられる。遺物が出土していることを踏まえ、工事立会等の軽微な保護措置が妥当と判断した。なお、令和２年３月31日、建築主の協力のもと、工事立会を実施し、遺構は確認されなかったが、遺物は近世以降の磁器片を２点得た。

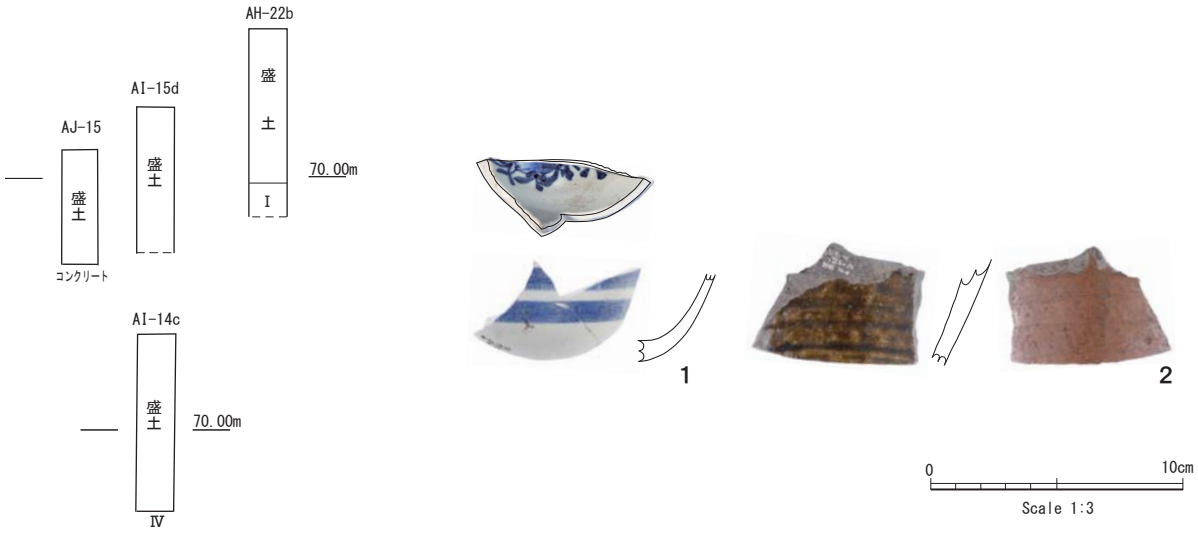


図 25　大館城跡②･③の調査位置図（1：2,000）・土層柱状図（1：40）と大館城跡②出土遺物

表13　出土遺物一覧

テストピット	P		計
	8		
	1	2	
ＡＩ－14ｃ		1	1
ＡＪ－15	1	1	2
表採	1		1
計	2	2	4

調査地全景

作業状況

ＡＩ－14ｃ区

ＡＩ－15ｄ区

ＡＪ－15区

図版 11　大館城跡②調査状況

12　大館城跡③（個人住宅新築工事）

⑴　調査の経緯

三ノ丸地区において個人による住宅新築が計画されたことから、建築主に新築予定地が大館城跡内であること、事業着手前に試掘調査の必要である旨説明した。建築主の理解を得、令和２年４月に試掘・確認調査を実施した。

⑵　遺跡の位置と周辺の環境

大館城跡の位置と周辺の環境については、第１節で述べたとおりである。今回の調査位置は、大館城の三ノ丸の城内通路とそれに面した侍屋敷地に当たる。三ノ丸は本藩から派遣された家老級の給人の屋敷地に相当する。享保13（1728）年の「大館絵図」（秋田県公文書館蔵）によれば、調査地に該当する部分には武茂縫殿助の名がある。また、明治６（1873）年「秋田県第二大区第一小区大館町番号列戸絵図」には、近藤●之助の名が記されている。

⑶　調査の方法

調査にあたり、平面直角座標系のＸ・Ｙ軸を座標系として設定した。調査の基本を10m間隔の方眼とし、幅１ｍのトレンチを１本設定した。発掘区の名称は平成26年度の試掘調査で設定したものに準拠する。今回の調査範囲は、Ｘ＝21～22、Ｙ＝ＡＦ～ＡＩである（図25）。トレンチの掘削は人力にて行い、遺構・遺物の有無等を調査した。

基本層序は、大館城跡①（第１節）と同様であるが、今回の調査地ではＩ層を確認したのみである。

⑷　調査の結果

調査範囲内に１本のトレンチを設定し調査したが、全域にわたって厚さ80㎝ほど盛土されていた。盛土中には近代の磁器片に混じって灰が含まれており、昭和28年の大火の際の土が混じっている。北端の一部を深さ１ｍまで掘り下げたが、近世～近代の磁器片を含む盛土層を確認したのみで、遺物包含層等は確認できなかった。今回の調査では遺構は検出されず、遺物は盛土及びＩ層から陶磁器15点、土器１点を得たのみである。

図26－１～５はトレンチのＩ層から出土した染付磁器。１は中碗で広東形。肥前Ｖ期の内1780年～1840年代。２は碗かと思われる体部片。染付は呉須ではなく、人工コバルトとみられ、明治以降か。３は皿で「端反形」で、肥前Ⅳ期か。４は小皿。染付は銅版転写とみられ、明治以降であろう。５は猪口で、肥前Ｖ期の内19世紀前半。

以上の結果から、今回の調査地は工事による影響がほぼなく、遺構等の多くは消失している可能性が高いと考えられる。遺構は残存している可能性が低いものの、遺物が出土していることを踏まえ、慎重工事等の軽微な保護措置が妥当と判断される。

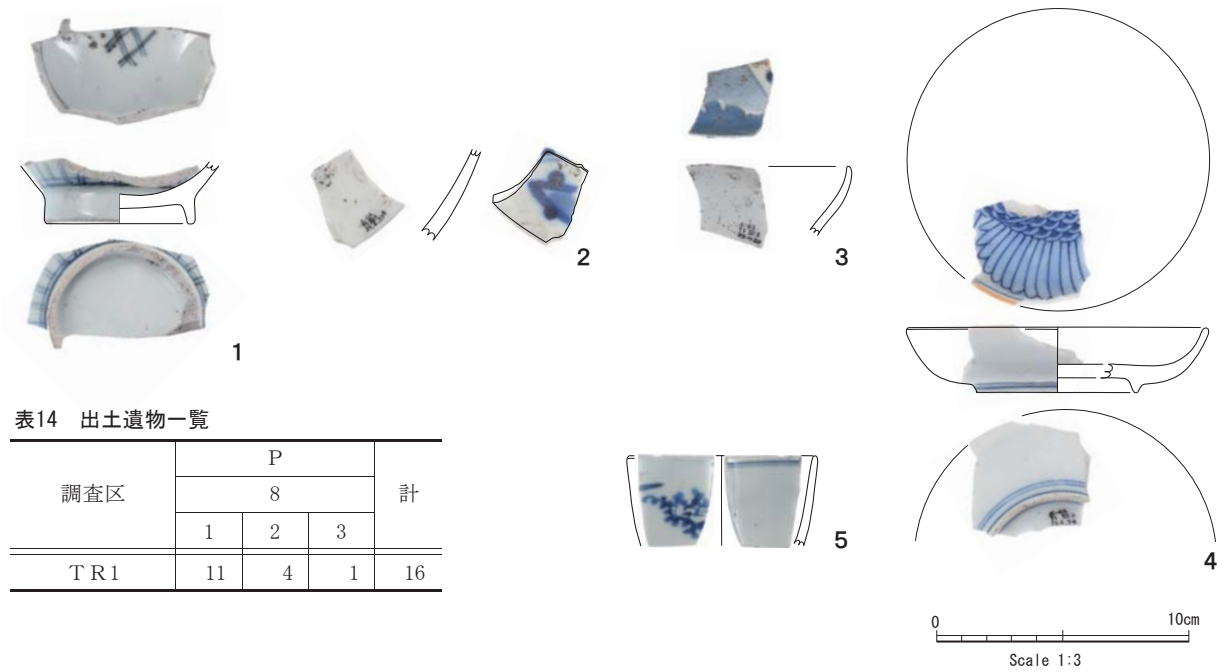


表14　出土遺物一覧

調査区	P			計
	8			
	1	2	3	
ＴＲ1	11	4	1	16

図 26　大館城跡③出土遺物

調査地全景　　作業状況

ＴＲ１　　土層断面

図版 12　大館城跡③調査状況

13　釈迦内字長者森地区（工場新築工事）

⑴　調査の経緯

釈迦内字長者森地区において民間事業による工場新築が計画されたことから、事業主が依頼した設計事務所から事前に埋蔵文化財対応について照会があった。埋蔵文化財包蔵地の位置関係を照合した結果、福館橋桁野遺跡の付近に位置していたため、設計事務所と協議し、事業者の理解を得、令和２年５月に試掘調査を実施した。

⑵　調査地の位置と周辺の環境

調査を実施した地区は、大館盆地北部を流下する下内川の左岸に位置する。下内川左岸では主に縄文時代前期～晩期及び平安時代の遺構・遺物が発見されている。

周辺には、北西約0.4㎞に縄文時代前期･中期の竪穴住居跡が発見された福館橋桁野遺跡、南西約0.3㎞に国指定天然記念物芝谷地湿原植物群落が所在する。

⑶　調査の方法

調査にあたり、東西と南北のラインを座標系として設定した。調査の基本を10m間隔の方眼とし、１～２m角のテストピットを設定した。テストピットの掘削は重機を用いて浅黄色砂質土層（Ｖ層）まで掘り下げ、人力にて精査し、遺構・遺物の有無等を調査した。

基本層序は、基盤をなす浅黄色砂質土層上に腐植土層が堆積する。

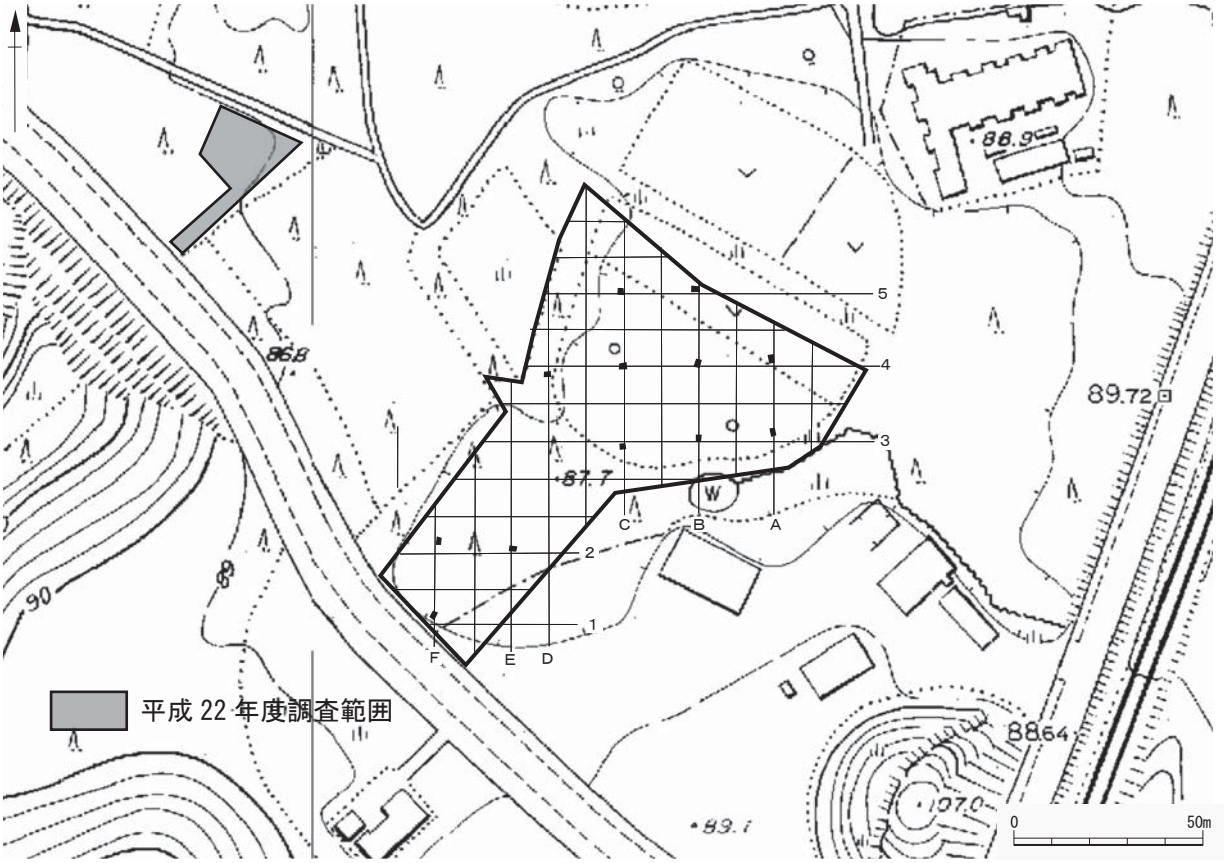
Ⅰ層　表土および耕作土。
Ⅱ層　黒色を呈する腐植土層。ａ・ｂ層に細分される。
Ⅱａ層　黒色を呈する。
Ⅱｂ層　黒色を呈する土層で、植物遺体を多量に含む。Ⅱａ層より若干暗い。
Ⅲ層　黒褐色～暗褐色を呈する土層で、ａ・ｂ層に細分される。
Ⅲａ層　黒褐色～暗褐色を呈し、暗灰黄色の軽石（Ｔｏ－ａ？）を多量に含む。
Ⅲｂ層　黒褐色を呈する粘質土層。
Ⅳ層　灰黄褐色を呈するⅢ層とＶ層の漸移層。
Ｖ層　浅黄色～明黄褐色を呈する砂質土層。

⑷　調査の結果

調査範囲内に12箇所のテストピットを設定し調査したが、全体的に土地改良・耕作等による削平が激しく、表土以下はほとんど残存していなかったところが多かった。Ａ列とＣ－３区でⅡ～Ⅲ層が残存していたが、地形が下がっていたために削平を免れたのであろう。

Ｄ－４区から時期不明の溝跡１条を検出した。それ以外に遺構・遺物は検出されなかった。

以上の結果から、今回の調査地は埋蔵文化財包蔵地が所在していないものと考えられるため、これ以上の調査の必要はないと判断した。



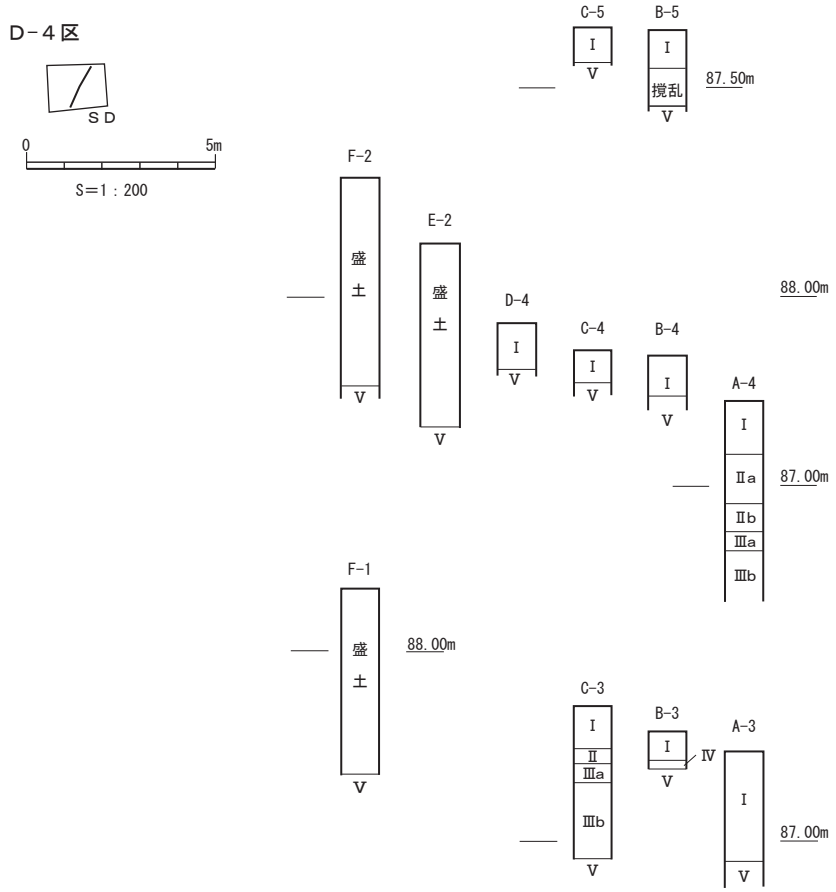


図 27　釈迦内字長者森地区の調査位置図（1：2,000）・土層柱状図（1：40）・検出遺構

調査地南部近景

調査地北部近景

作業状況

Ａ－３区

Ｄ－４区

Ｆ－１区

図版 13　釈迦内字長者森地区調査状況

14　小館町遺跡①（擁壁設置及び整地・駐車場造成工事）

⑴　調査の経緯

令和２年６月４日、擁壁設置工事が行われている状況を当委員会歴史文化課が確認し、遺跡地図と照合した結果､工事箇所が小館町遺跡（秋田県遺跡台帳番号204－４－141）と重複していたことから、掘削状況を確認した。確認した段階で掘削作業は既に終了しており、地表面から0.4～0.6m程度掘削されている状況であった。現地を確認したところ、掘削箇所に遺構・遺物は見られなかったが、今後周辺の造成工事も計画しているとのことから、事業主が依頼した建設業者に造成予定地が小館町遺跡内及び隣接地であること、工事着手前に試掘調査の必要である旨説明した。事業主の理解を得、令和２年６月９日～10日に試掘・確認調査を実施した。

⑵　遺跡の位置と周辺の環境

小館町遺跡は、大館盆地を西流する米代川の右岸に位置する。平成15・29・30年度の調査により、遺跡南端部では主に縄文時代前期の遺物、遺跡北西部では平安時代の遺構・遺物が発見されている。周辺には、南東側約0.2㎞に平安時代～中世の土器・陶器が発見された小館花館跡、北西側約0.7ｋｍに縄文時代晩期の土器が発見された太平山遺跡が所在する。

⑶　調査の方法

調査にあたり、平面直角座標系のＸ・Ｙ軸を座標系として設定した。調査の基本を10m間隔の方眼とし、名称は南東角の座標で表示する。今回の調査範囲は、Ｘ＝１～８、Ｙ＝Ａ～Ｉである。調査対象範囲内に２ｍ角のテストピットと幅２ｍのトレンチを設定した。事業者の協力のもと､盛土､撹乱土、耕作土をバックホーで除去した後、Ⅳ層上面まで人力で掘削する方法で実施した。

遺跡内の基本層序は、基盤をなす褐色～にぶい黄褐色を呈するシルト質土層上に腐植土層が堆積する。

Ⅰ層　表土および耕作土。
Ⅱ層　黒色を呈する腐植土層で、本来の遺物包含層。
Ⅲ層　黒褐色を呈するⅡ層とⅣ層の漸移層。
Ⅳ層　褐色～にぶい黄褐色を呈するシルト質土層。

⑷　調査の結果

調査範囲内に３箇所のテストピットと２本のトレンチを設定し調査したが、全域にわたって撹乱や削平が激しく、遺物包含層はほとんど残存していなかった。

調査の結果、テストピットおよびトレンチからは遺構等は検出されず、調査地内および周辺から土師器３点、陶器１点、石器１点を得たのみである。図28－１は削器で調査地の西隣の倉庫周辺で発見した表採である。

以上の結果から、今回の調査地は埋蔵文化財包蔵地が消失しているかまたは所在していないものと

考えられる。包蔵地は残存している可能性が低いものの、遺物が散布していること、平成30年度の調査結果を踏まえ、工事立会等の軽微な保護措置が妥当と判断した。なお、令和２年６月13日・18日に工事実施中に立会を実施したが、遺構は確認されなかった。遺物は近世の染付磁器１点と工事範囲外の隣接する畑地で土師器２点を表採したのみである。

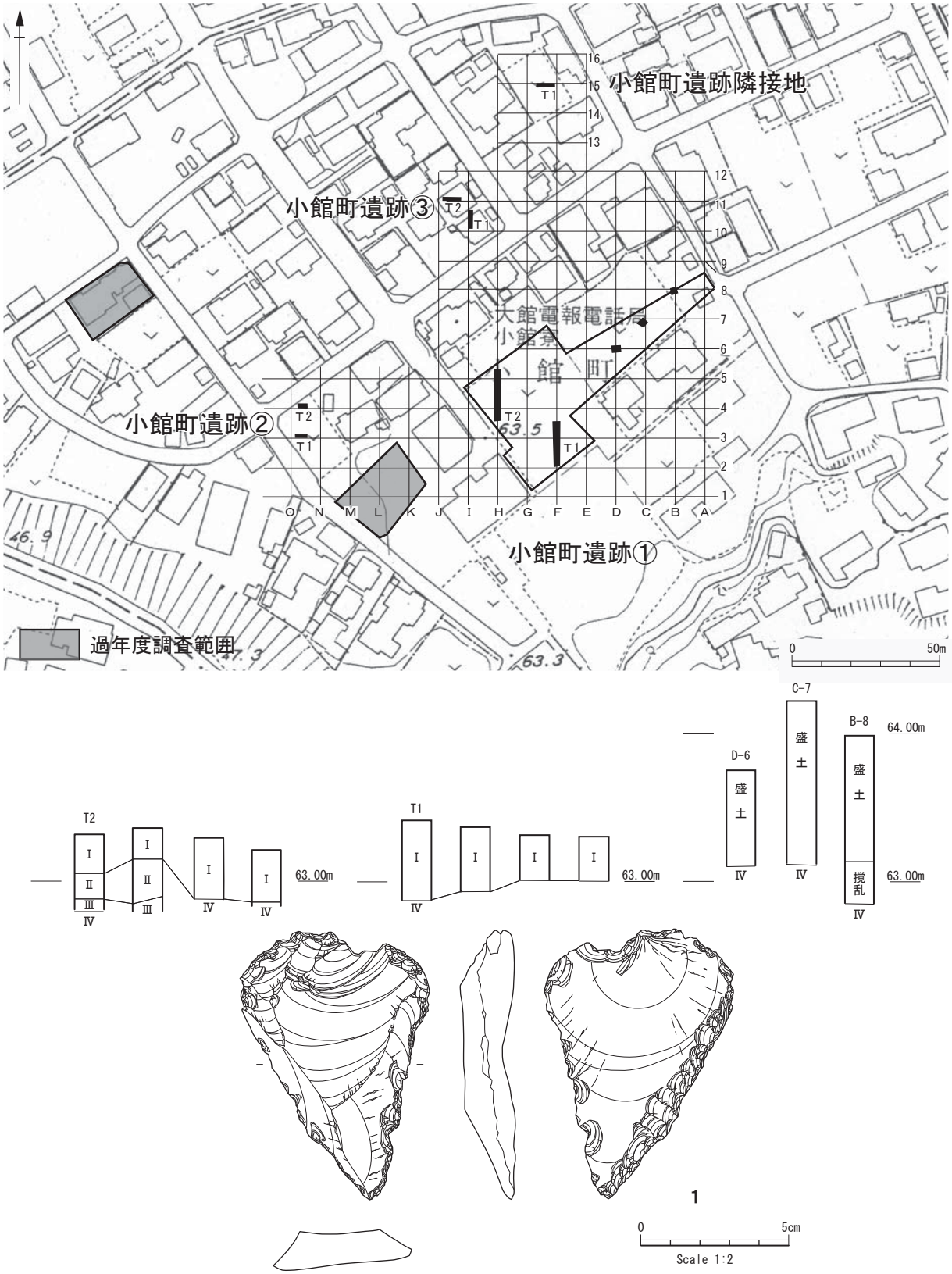


図 28　小館町遺跡の調査位置図（1：2,000）と小館町遺跡①土層柱状図（1：40）・遺物

調査区東部全景

調査区西部全景

重機による掘削

作業状況

Ｂ－８区

Ｔ２

図版 14　小館町遺跡①の調査状況と遺物

15　萩ノ台Ⅱ遺跡（携帯電話無線基地局建設工事）

⑴　調査の経緯

池内地区において、民間事業による携帯電話無線基地局建設が計画されたことから、設計施工業者に基地局建設予定地が萩ノ台Ⅱ遺跡内であること、事業着手前に試掘調査の必要である旨説明した。事業者の理解を得、令和２年６月に試掘・確認調査を実施した。

⑵　遺跡の位置と周辺の環境

萩ノ台Ⅱ遺跡は、大館市の中心部からやや南、JR東大館駅から直線距離で南東方向約1.6㎞の位置にあり、西流する米代川の右岸に形成された河岸段丘（第３段丘）上とその南面する斜面に立地する。遺跡付近の第３段丘は、北側を北東方向の長根山（標高200m）南麓から段丘を南西方向に下刻する柄沢、南側を秋葉山（標高328.5m）南麓から高森山地を南方向に下刻する餌釣沢により大きく開析され、通称「南ヶ丘」と呼ばれている。この「南ヶ丘」には小さな下刻作用により、さらに北側の萩ノ台と南側の上野と呼ぶ二つの台地に分けられている。

萩ノ台Ⅱ遺跡のうち今回、確認調査の対象となった地点は、台地上の南縁に位置しており、北緯40度15分23秒、東経140度34分６秒（世界測地系）、標高は約65.5m、台地と沖積地との比高は17m程度を測る。本遺跡の近隣には縄文時代中期～後期の遺物散布地である萩ノ台Ⅰ遺跡（204－４－66）、また本市において縄文時代最大規模の集落跡が確認された池内遺跡（204－４－68）が存在する。

⑶　調査の方法

今回の調査にあたっては、建設予定地のほぼ全域を調査区として設定した。調査区内の掘削は表土層から地山層までの約30㎝を人力で掘削し、遺構・遺物の有無等を調査した。

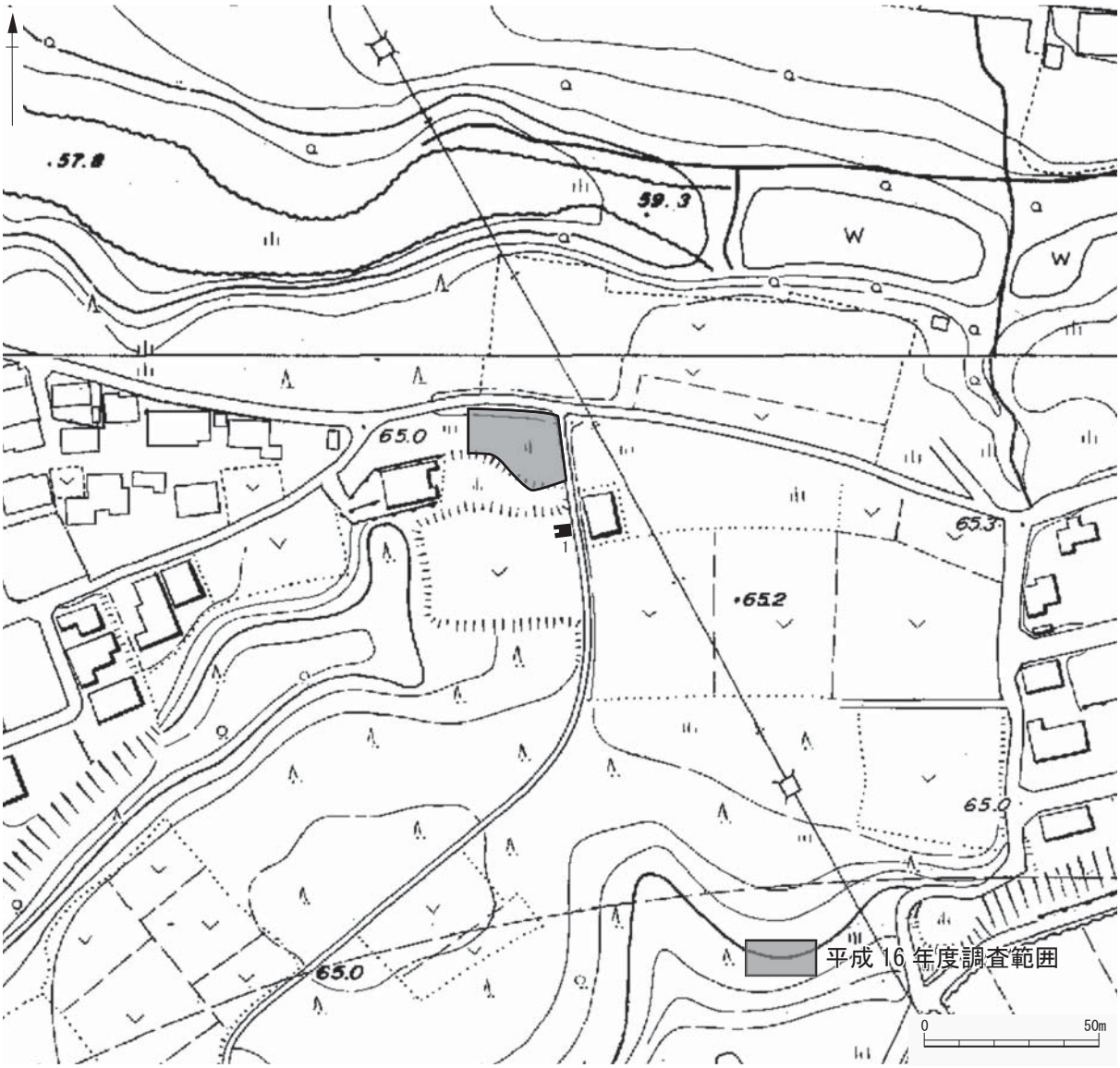
今回、確認調査を行うにあたって３m×４mのテストピットを設けた。調査区内の層序は、表土及び耕作土層・地山層がブロック状に混入する黒褐色土層・地山層（黄褐色ローム層）の３層に区別することができる。

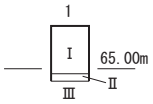
Ⅰ層　10YR2/2　黒褐色砂質土。表土及び耕作土。やや締まりあり。
Ⅱ層　10YR2/2　黒褐色砂質土。Ⅲ層がブロック状に混入する。
Ⅲ層　10YR5/6　黄褐色ローム層。地山層（基盤層）。

⑷　調査の結果

今回の調査では調査区内からは遺構・遺物は確認できなかったが、周辺から土器１点、石鏃１点、加工痕ある剥片１点、剥片２点、線刻礫１点を表採した。いずれも縄文時代に帰属する遺物と考えられる。図29－１～３は周辺の畑で発見した表採である。１は石鏃。２は削器。３は線刻のある礫。

今回の調査の結果、周辺から縄文時代に帰属すると考えられる遺物を表採したが、調査区内からは遺構・遺物は確認できなかった。今回、設定した調査区面積は、工事予定面積の89％に相当する。したがって工事に際しては慎重工事などの軽微な措置が妥当と思われる。





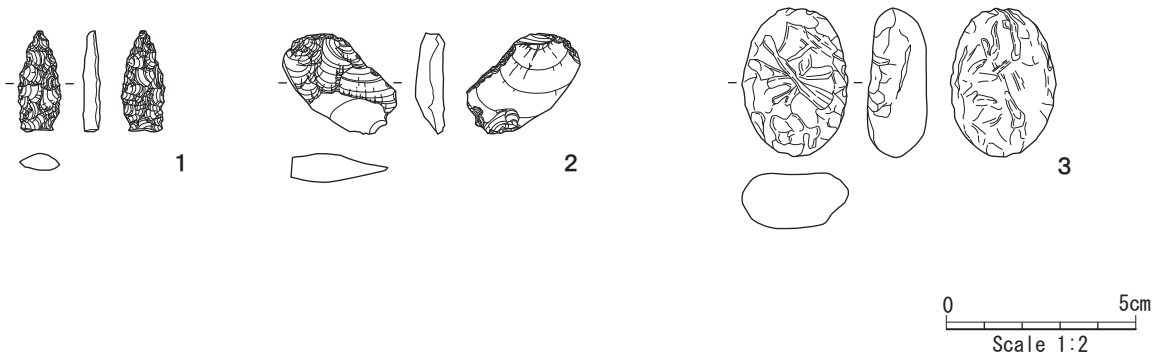


図 29　萩ノ台Ⅱ遺跡の調査位置図（1：2,000）・土層柱状図（1：40）と遺物

調査地全景（南から）

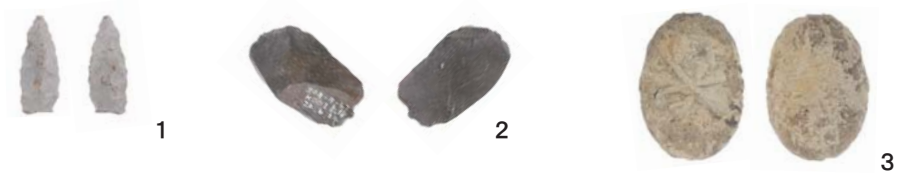
調査地全景（西から）

作業状況（北東から）

完掘状況（東から）

完掘状況（南から）

土層断面（西から）



図版 15　萩ノ台Ⅱ遺跡の調査状況と遺物

16　大館城跡④（観光施設改修工事）

⑴　調査の経緯

三ノ丸地区において、公共事業による観光施設改修が計画されたことから、事業担当課に改修予定地が大館城跡内であること、事業着手前に試掘調査の必要である旨説明した。事業担当課の理解を得、令和２年８～９月に試掘・確認調査を実施した。

⑵　遺跡の位置と周辺の環境

大館城跡の位置と周辺の環境については、第１節で述べたとおりである。今回の調査位置は、大館城の三ノ丸の北西部の侍屋敷地に当たる。三ノ丸は主に本藩から派遣された家老級の給人が居住した場所であるが、102－４地区が重臣（廻座）の前小屋市右衛門、10地区が佐竹西家家老の狩野氏の屋敷地である。享保13（1728）年の「大館絵図」（秋田県公文書館蔵）によれば、102－４地区には前小屋市右衛門、10地区には狩野与十郎の名がある。また、明治６（1873）年「秋田県第二大区第一小区大館町番号列戸絵図」には、102－４地区には小林幾之助、10地区には狩野徳蔵の名が記されている。

⑶　調査の方法

今回の調査は、対象範囲を事業で掘削する駐車場予定地（102－４地区）と観光施設石田ローズガーデン（10地区）の２地区とした。調査にあたり、平面直角座標系のＸ・Ｙ軸を座標系として設定した。調査の基本を10m間隔の方眼とし、必要に応じ間隔を５ｍとして、１ｍ角のテストピットか幅１ｍのトレンチを設定した。発掘区の名称は平成28年度の調査で設定したものに準拠する。今回の調査範囲は、Ｘ＝26～38、Ｙ＝ＡＤ～ＡＦである。テストピット及びトレンチの掘削は人力にて行い、遺構・遺物の有無等を調査した。

基本層序は大館城跡①（第１節）と同様であるので、本書８ページを参照されたい。

⑷　調査の結果

調査範囲内に３本のトレンチと６箇所のテストピットを設定し調査したが、10地区の北半にあたる既設建物周辺は過去の造成による削平が激しく、遺物包含層は全く残存していなかった。102－４地区と10地区の南側でⅡ～Ⅲ層が残存していた。

今回の調査では竪穴状の黒色土落ち込み１ヵ所、柵跡１条、土坑１基、柱穴・柱穴様ピット13基を発見し、遺物は近世以降の陶磁器74点、土器１点、磁製品１点、硬貨１枚を得た。遺構は調査対象地区の全域で検出された。

ＡＥ－27区では、現地表下40～50㎝から直径約80㎝の土坑（ＳＫ）１基、直径約50㎝の柱穴（ＳＰ）３基を確認した。うち、柱穴は５㎝ほど掘り下げたところ、うち２基から柱痕跡を確認した。掘立柱建物の１部とみられる。遺物は主に盛土中から出土した。当該地は以前、住宅が建っていたため、建築及び解体に伴い、撹乱を受けたものと考えられる。

ＡＥ－30区では、現地表下35㎝から直径45㎝の柱穴１基と直線状に並ぶ３基の柱穴様ピットなどを確認した。ＡＥ－32区でも柱穴様ピット３基の遺構を検出した。ＡＥ－34区では段丘の地形の変化点を確認し、柱穴様ピット１基を検出している。ほかにＡＦ－31区では径30㎝以上の柱穴様ピット３基、ＡＦ－32区では柱穴様ピット１基を確認した。調査区北西部のＡＥ－32～ＡＦ－32区では径1.5m以上の竪穴状の落込み１ヵ所を検出した。

ＡＦ－37区からは柱穴状の黒色土落ち込みを２ヵ所確認したが、埋土の状況から近代の撹乱と考えられる。ＡＦ－38区は現地表下約90㎝まで撹乱されており、遺構は確認されず、遺物は磁器１点が出土したのみである。

図33－１～８は磁器である。１～６は染付碗。１はＡＥ－27区の盛土から出土した「丸形」で肥前Ⅳ期。２はＡＥ－32区のⅡ層から出土した底部で高台が比較的高く、肥前Ⅱ－２～Ⅲ期頃か。３はＡＦ－32区のⅠ層（表土）から出土した「筒形」で菊花文が描かれる。肥前Ⅳ期の内1770～1780年代頃か。４・５は「端反形」。４はＡＥ－32区のⅡ層から出土した碗で肥前製。５はＡＥ－30区の盛土から出土した碗。瀬戸製で19世紀中頃。６はＡＥ－27区の盛土から出土した底部。銅版転写で明治以降とみられる。７・８は皿。７はＡＥ－32区のⅡ層から出土した染付の「丸形」。内面に竹、外面に唐草が描かれるが、生掛のためか文様が滲む。波佐見系で肥前Ⅳ期。８はトレンチ１（ＡＥ～ＡＦ－32区）から出土した青磁と思われる皿。焼成不良のためか発色がよくない。蛇ノ目凹形高台で肥前Ⅳ～Ⅴ期。

９～11は陶器。９はＡＦ－37区から出土した鉄釉の碗。製作地・年代ともに不明。10・11はＡＥ－27区から出土した擂鉢。10はⅡ層から出土した擂鉢で全面に鉄釉が施釉される。肥前Ⅳ～Ⅴ期の内18世紀後半～1860年代。11は盛土から出土した。製作地は不明で、年代は江戸後期以降とみられる。12はトレンチ１から出土した磁製品の戸車。肥前Ⅴ期。

以上の結果から、今回の調査地のうち、102－４地区及び10地区の南部（29～34のライン）では近世の遺構が検出されたことを踏まえ、本発掘調査が必要と判断した。

一方、10地区の北部（36～38のライン）では遺構等は消失しているか存在してないものと考えられるため、慎重工事等の軽微な保護措置が妥当と判断した。

工事に際してはこの遺構について埋蔵文化財の協議が必要となった。協議の結果、園路改良工事については遺構検出面まで掘削しないように設計を変更し、工事が実施された。なお、令和２年10月22日～12月４日、令和３年１月14日～４月13日に工事実施中に立会を実施し、遺構は黒色土落ち込み１ヵ所、溝跡１条、柱穴・柱穴様ピット11基を確認し、遺物は磁器71点を得た。

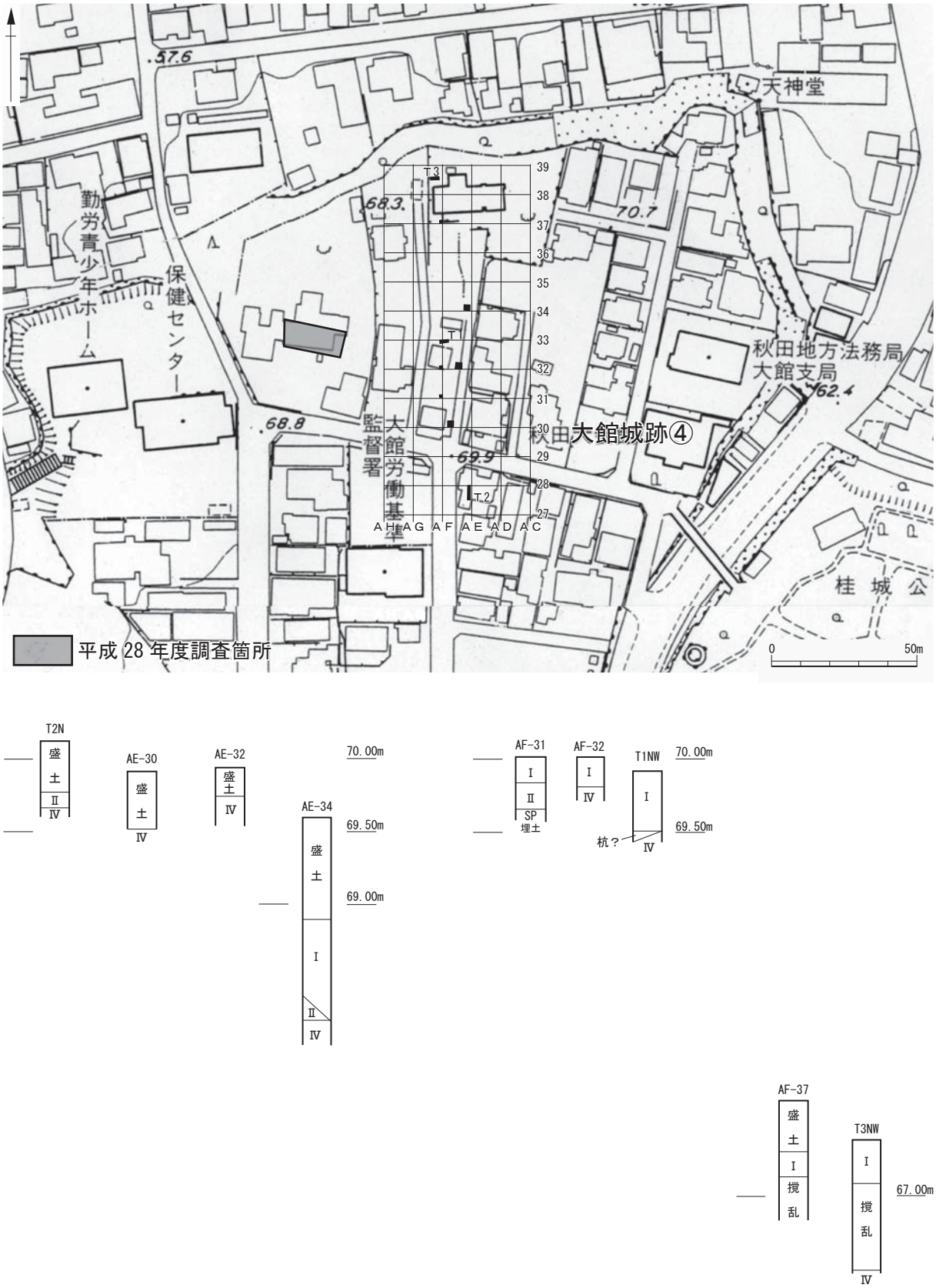


図 30　大館城跡④調査位置図（1：2,000）と土層柱状図（1：40）

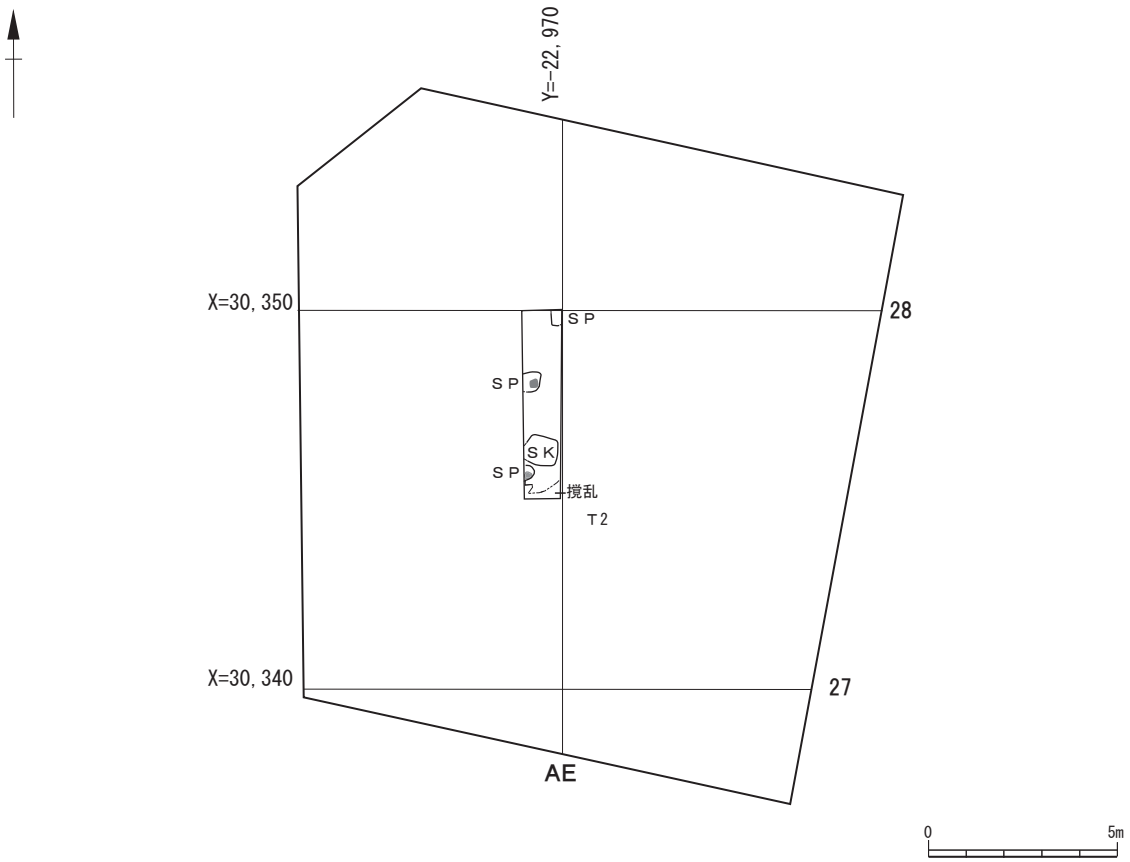


図 31　大館城跡④三ノ丸 102－４地区調査平面図（1：200）

表15　遺構一覧

竪穴状遺構？	柵跡	土坑	柱穴・柱穴様ピット	計
1	1	1	13	16

表16　出土遺物一覧

分類	P				C	I	合計
テストピット・トレンチ	8			計			
	1	2	3				
ＡＥ－27	23	7		30			30
ＡＥ－30	1			1			1
ＡＥ－32	3			3			3
ＡＥ－34	10	1		11		1	12
ＡＦ－31	4	3		7			7
ＡＥ～ＡＦ－32	16	1		17	1		18
ＡＦ－32	1			1			1
ＡＦ－37	1	1		2			2
ＡＦ－38	1			1			1
表採		1	1	2			2
合計	60	14	1	75	1	1	77

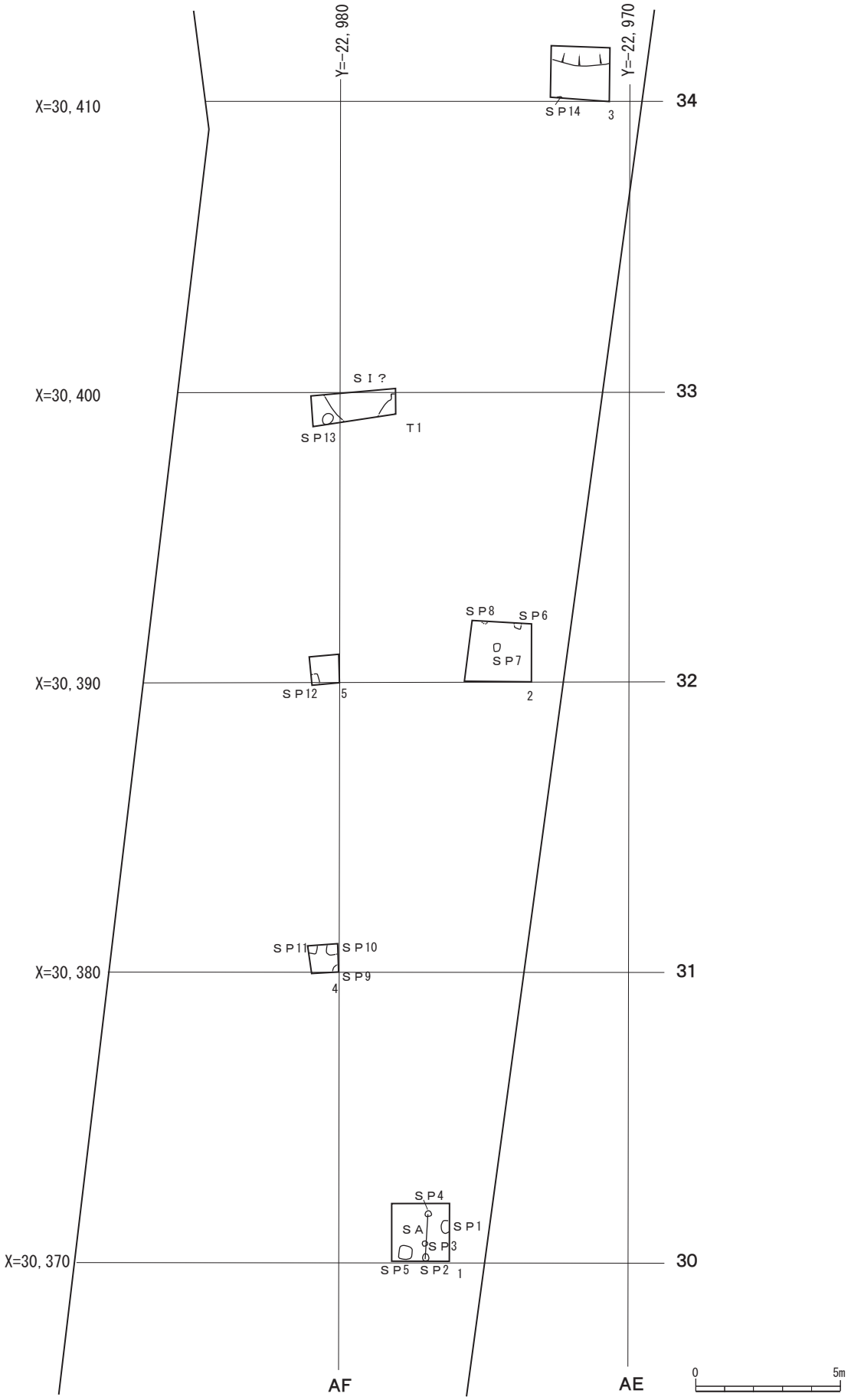


図 32　大館城跡④三ノ丸 10 地区調査平面図（1：200）

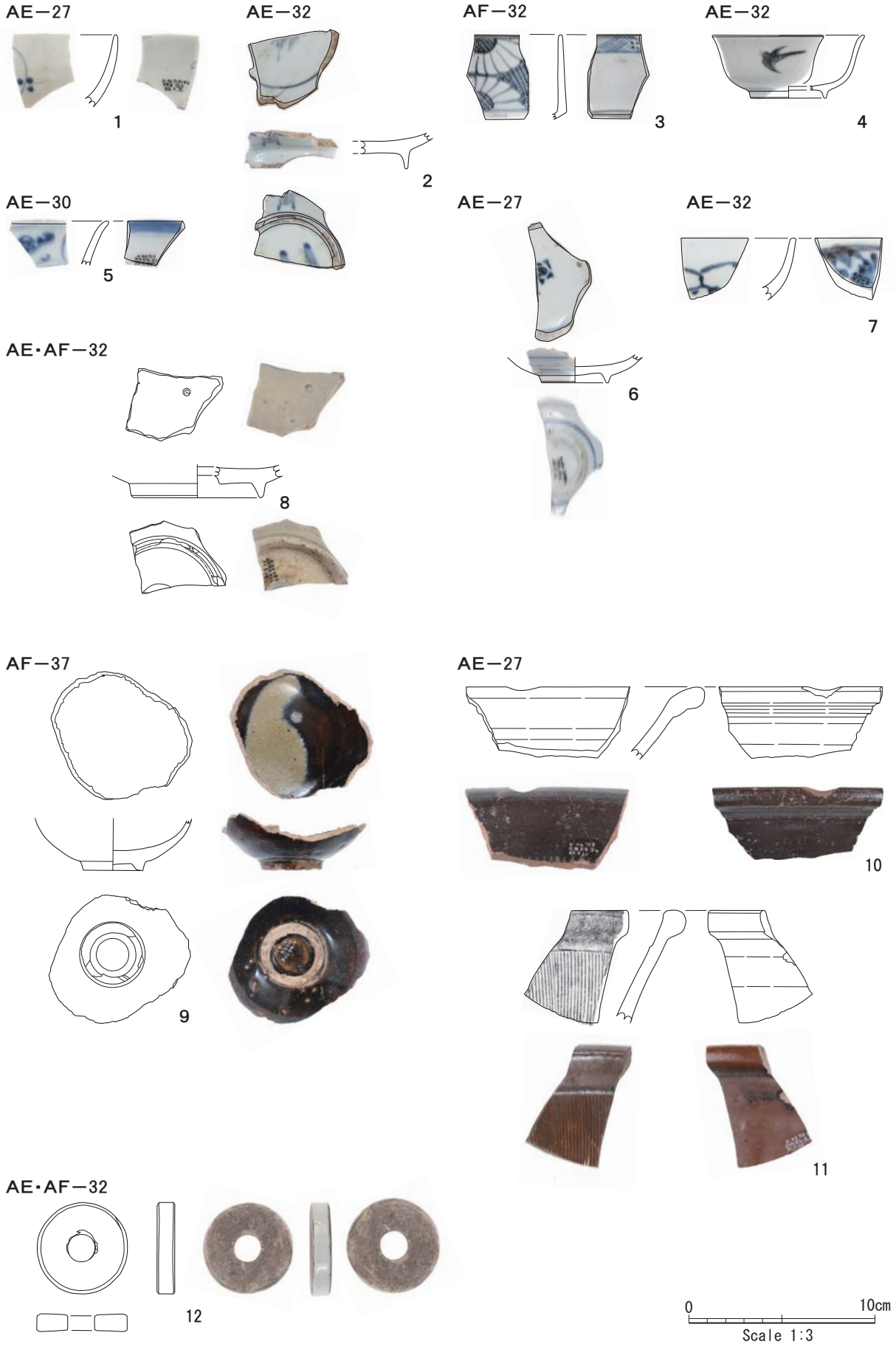


図 33　大館城跡④出土遺物

三ノ丸 10 地区調査地全景

三ノ丸 102－４地区全景

作業状況

Ｔ２調査状況

ＡＥ－30 区調査状況

ＡＦ－31 区調査状況

Ｔ１調査状況

Ｔ３調査状況

図版 16　大館城跡④調査状況

17　小館町遺跡②（個人住宅新築工事）

⑴　調査の経緯

小館町地区において個人による住宅新築が計画されたことから、建築主が依頼した建築設計事務所に新築予定地が小館町遺跡内であること、事業着手前に試掘調査の必要である旨説明した。建築主の理解を得、令和２年９月に試掘・確認調査を実施した。

⑵　遺跡の位置と周辺の環境

小館町遺跡の位置と周辺の環境については、第14節で述べたとおりである。今回の調査位置は遺跡の北西部の畑地となっている箇所である（図28）。

⑶　調査の方法

今回の調査は、建築設計事務所から工事で掘削するのは住宅部分のみとの証言を得たので、対象範囲を住宅部分のみとした。

調査にあたり、発掘区の設定は、小館町遺跡①調査を踏襲した。今回の調査位置は、Ｘ＝２～４、Ｙ＝Ｍ～Ｏである。トレンチは、３列と４列に沿って幅１ｍのトレンチを設定した。

基本層序は小館町遺跡①と同様であるので、本書52ページを参照されたい。

⑷　調査の結果

調査範囲内のうち、建物建築予定地付近に２本のトレンチを設定し調査したが、全域にわたって耕作による削平が激しく、遺物包含層は残存していなかった。

今回の調査では遺構は検出されず、遺物は調査地内から縄文土器片１点、土師器２点を表採したのみである。いずれも耕作等に巻き込まれたのか、細片である。

以上の結果から、今回の調査地は遺構等が消失しているかまたは所在していないものと考えられる。包蔵地が残存している可能性が低く、慎重工事等の軽微な保護措置が妥当と判断される。なお、令和２年11月19日、12月１日～２日に工事実施中に立会を実施したが、遺構・遺物は確認されなかった。

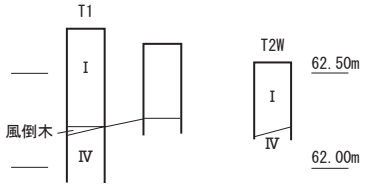


図 34　小館遺跡②土層柱状図（1：40）

調査地全景

作業状況

Ｔ１調査状況

Ｔ２調査状況

図版 17　小館町遺跡②調査状況

18　萩峠遺跡隣接地（ほ場整備事業）

⑴　調査の経緯

軽井沢地区において公共事業によるほ場整備が計画されたことから、事業主に整備予定地が萩峠遺跡、軽井沢新館跡、山崎遺跡の隣接地であること、事業着手前に試掘調査の必要である旨説明した。事業者の理解を得、令和２年10月～11月、令和３年11月に試掘調査を実施した。

⑵　遺跡の位置と周辺の環境

調査地は、大館市域の南東部、ＪＲ花輪線大滝温泉駅から北東に約2.5㎞に位置し、西流する米代川右岸の沖積面に立地する。調査地の位置は、北緯40度13分7～38秒、東経140度39分24秒～40分2秒（世界測地系）、標高は78～87mである。

調査地周辺には、調査地西側の丘陵上に萩峠遺跡が隣接し、東側の丘陵上に山崎遺跡と軽井沢新館跡が隣接して分布する。

⑶　調査の方法

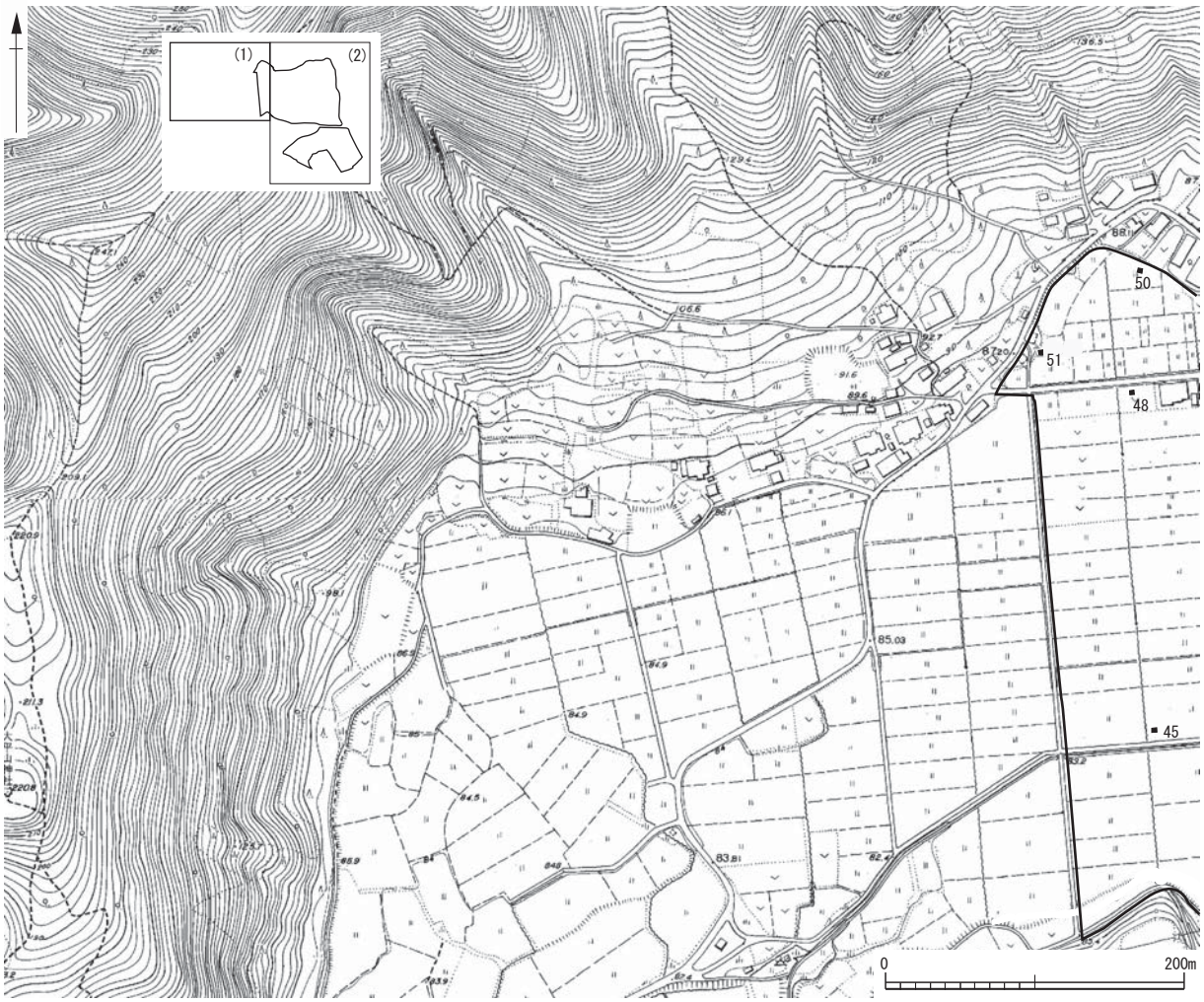
調査にあたり、テストピットは、対象範囲内に任意に設定した。２ｍ×２ｍの規模で51箇所を設定し、掘削は全て人力で行い、基盤層である褐色砂質土層（Ⅳ層）まで掘り下げ、遺構の有無の確認等を行った。

調査地内の基本層序は、基盤をなす褐色砂質土層に腐植土層が堆積する単純なものである。以下に基本層序を示す。

Ⅰ層　黒褐色土層。色調等によりａ～ｄ層に細分される。
Ⅱ層　黒色を呈する腐植土層である。色調等によりａ・ｂ層に細分される。
Ⅲ層　黒褐色を呈する砂質土層。Ⅱ層とⅣ層の漸移層である。
Ⅳ層　褐色を呈する砂質土層。
Ⅴ層　暗褐色を呈する砂礫層。
Ⅵ層　黒褐色を呈する砂礫層。
Ⅶ層　褐色を呈する砂礫層。
Ⅷ層　黄褐色を呈する粘土層。

⑷　調査の結果

調査範囲内に51箇所のテストピットを設定して調査した。今回の調査では、遺構・遺物は確認されず、調査区全域にわたり過去の耕地整理により、基盤層であるⅣ層まで削平されており、ほとんどのテストピットで、Ⅰ層または盛土が堆積するだけであった。Ⅱ～Ⅲ層が確認されたのは、ＴＰ７・39のみである。調査の結果、遺構・遺物は確認されず、今回の調査対象地には埋蔵文化財包蔵地は所在していないものと考えられる。なお、今回の調査は当該事業の令和３・４年度施工範囲を対象としており、令和５年度施工範囲については、来年度以降に試掘調査を実施する予定である。



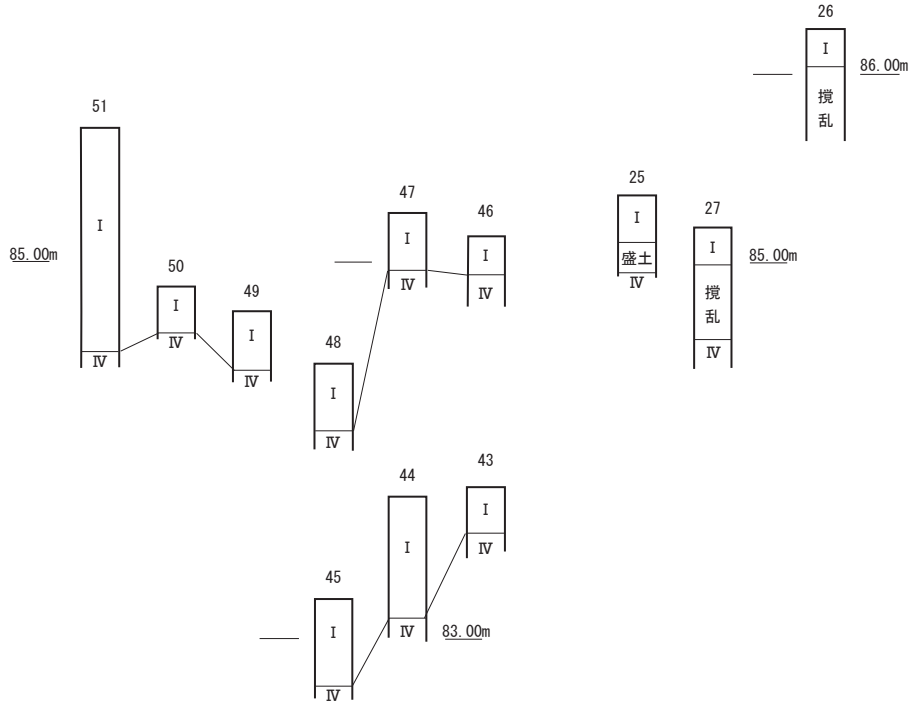


図 35　萩峠遺跡隣接地調査位置図 (1)（1：5,000）と土層柱状図 (1)（1：40）

図 36　萩峠遺跡隣接地調査位置図 (2) (1 : 5,000)

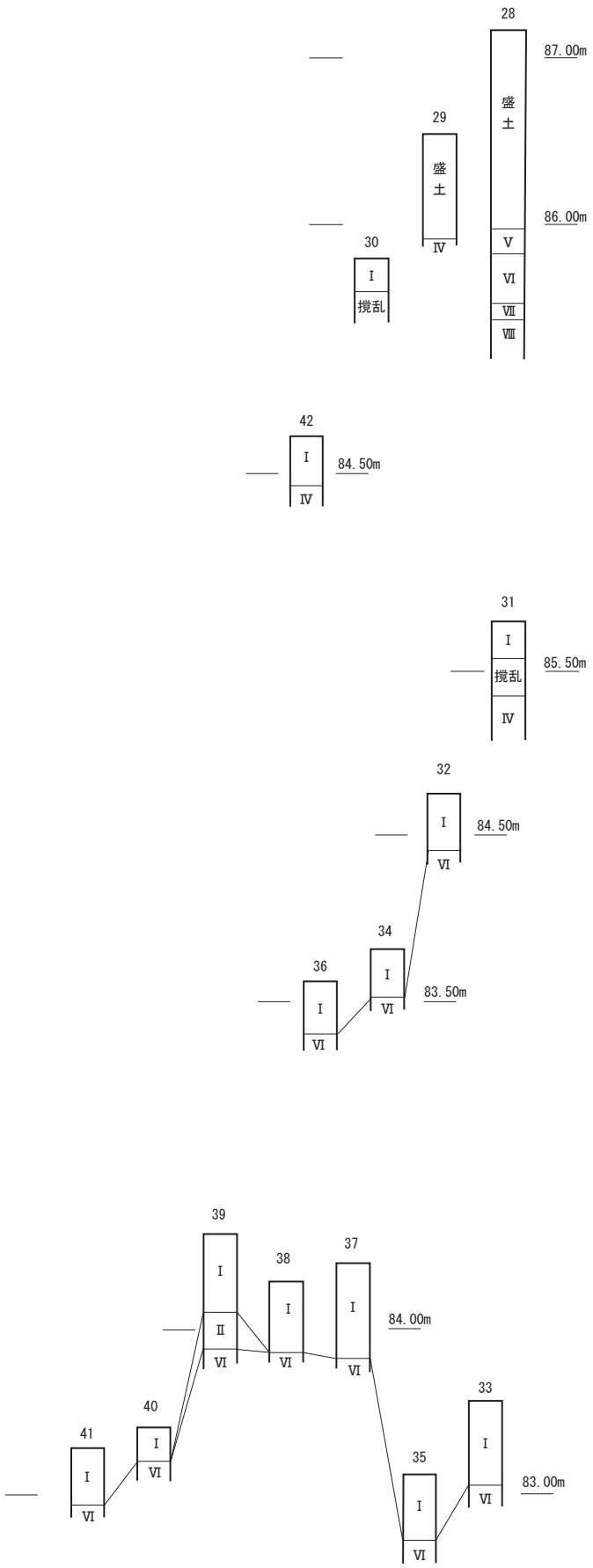


図 37　萩峠遺跡隣接地土層柱状図（2）（1：40）

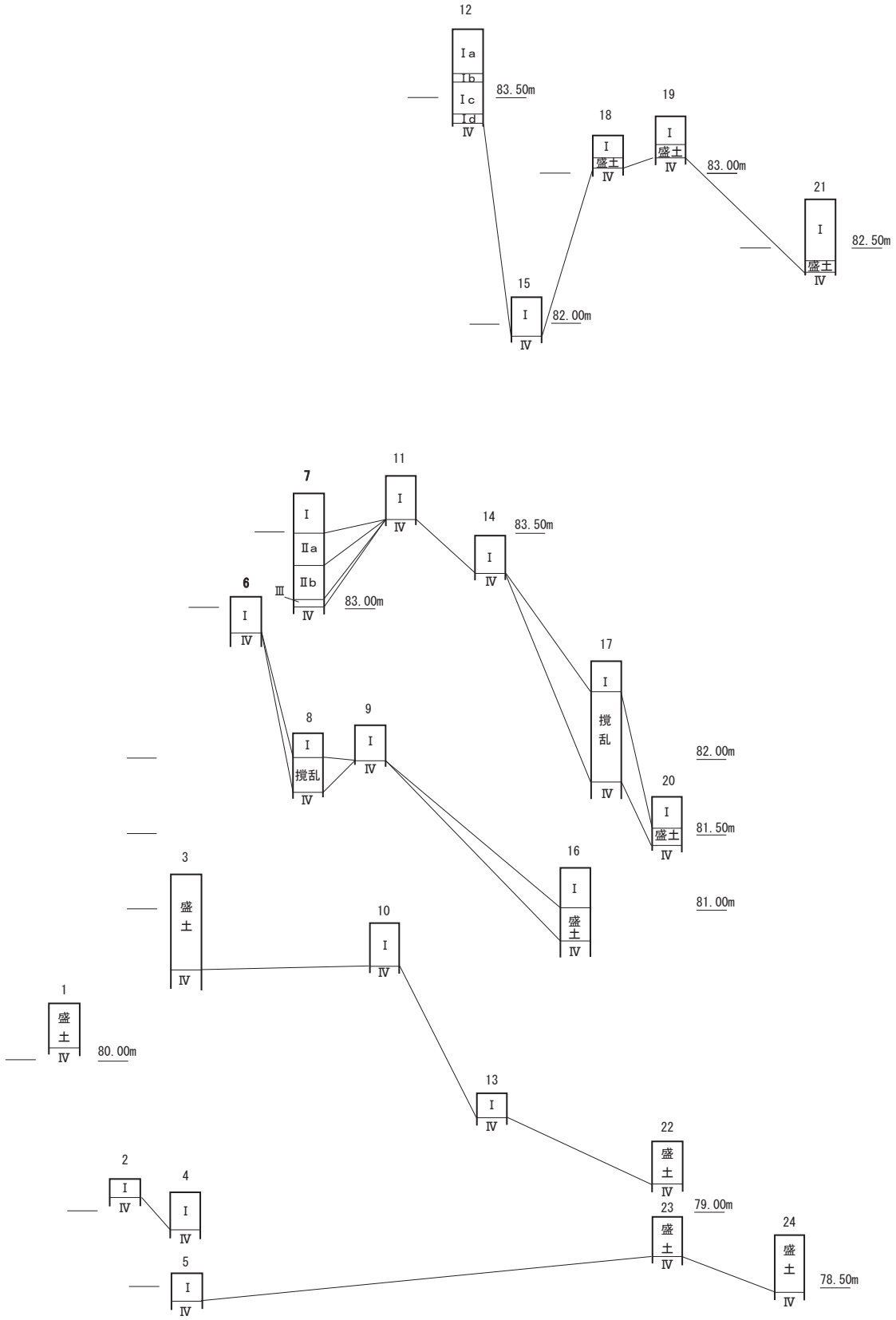


図 38　萩峠遺跡隣接地土層柱状図 (3)（1：40）

調査区近景（２・４・５　北西から）

５調査状況（南から）

調査区近景（６～８　東から）

７調査状況（南から）

調査区近景（12・14・15　東から）

13調査状況（南から）

調査区近景（22～24　北から）

22調査状況（南から）

図版 18　萩峠遺跡隣接地調査状況（1）

調査区近景（27 ～ 31　北西から）

25 調査状況（南東から）

調査区近景（32 ～ 45　北西から）

37 調査状況（西から）

39 調査状況（西から）

調査区近景（46 ～ 51　西から）

46 調査状況（西から）

49 調査状況（西から）

図版 19　萩峠遺跡隣接地調査状況（2）

19　川口館跡（公共下水道工事）

⑴　調査の経緯

川口地区において公共事業による下水道整備が計画されたことから、事業担当課に整備予定地が川口館跡内及び隣接地であること、事業着手前に試掘調査の必要である旨説明した。事業担当課の理解を得、令和２年12月に試掘調査を実施した。

⑵　遺跡の位置と周辺の環境

川口館跡は、川口集落が位置する河岸段丘上の西南端、山田川の左岸に所在する。本遺跡は現在、「川口神社」となっているが、『郷村史略』に「此村は佐藤兵助と云者開基の村也（中略）一村皆彼が別家といふ旧家なり」とあり、また「古城佐藤兵助が居住也、百姓二下りて城に八幡を勧進す」とあることから、建築時期は不明であるが、佐藤氏の居館があったと伝えられる場所である。

遺跡の位置は、北緯40度16分38秒、東経140度28分59秒（世界測地系）に所在する。標高は郭上面で約48mを測り、周辺からは５m程の比高差を持つ。また主郭の北側を空堀が区画することから、周囲から断絶した台地上に川口館跡は位置する。本遺跡は平成22年度の調査により、空堀に区画された東側の段丘上では近世の遺構・遺物が発見されている。

周辺には、北西約0.3㎞に縄文時代前～後期及び平安時代の土器が発見された栗木山遺跡が所在していた（土砂採取のため消滅）。

⑶　調査の方法

今回の調査にあたっては、マンホール設置予定位置に１m×2.5mのテストピット（以下「ＴＰ」）を４箇所設定した。調査区内の掘削は事業者の協力のもと、表土層から地山層までの50～60cm程度をバックホーで掘削し、遺構・遺物の有無等を調査した。

調査区内の基本層序は、アスファルト層・砕石及び盛土層・黒色土層・地山層（黄褐色シラス層）に大別することができる。

Ⅰ層　アスファルト舗装層。
Ⅱ層　砕石及び盛土層。
Ⅲ層　10YR2/2　黒色砂質土層。締まりあり。近代堆積土。
Ⅳ層　10YR5/6　黄褐色シラス層。地山層。

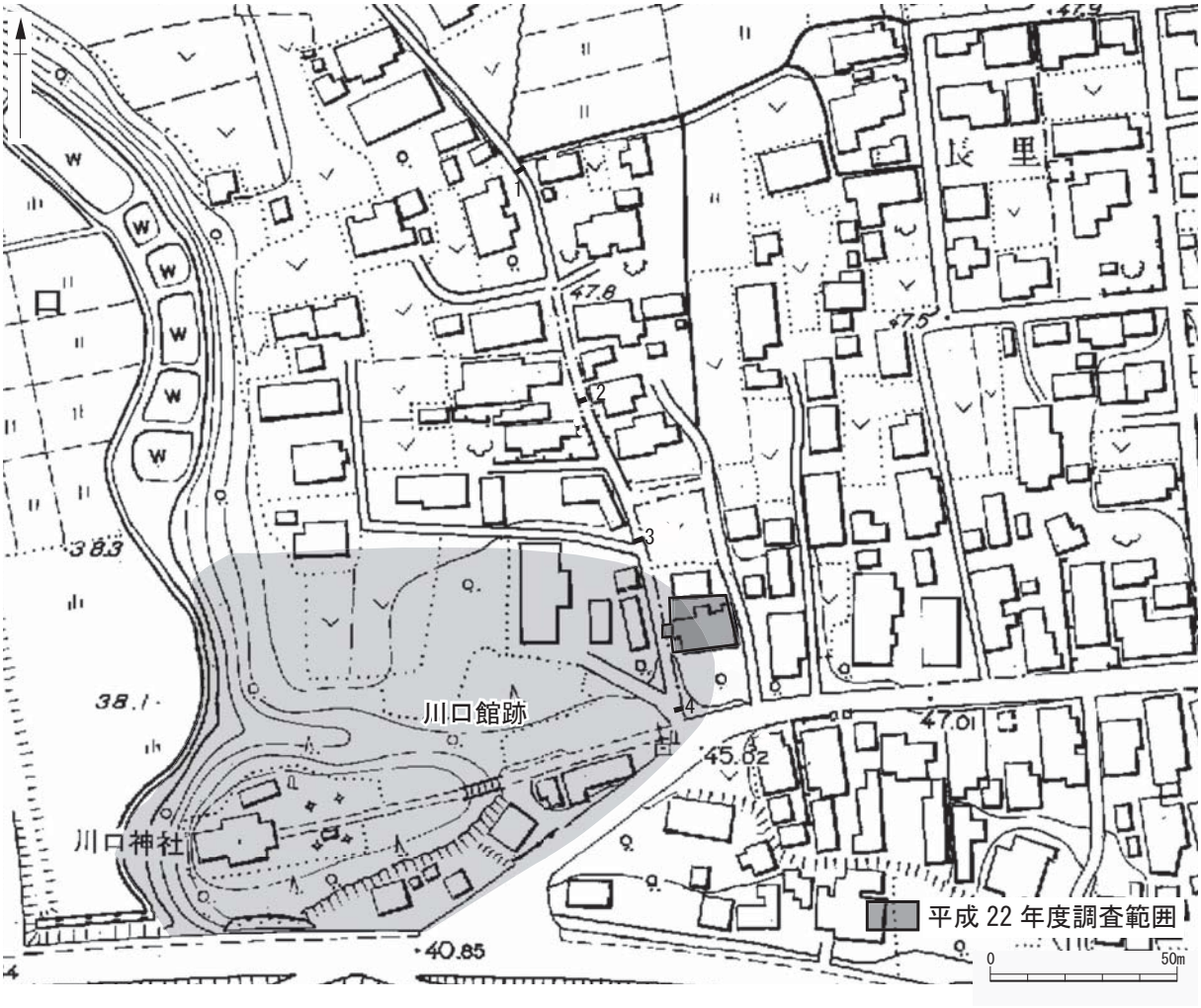
⑷　調査の結果

調査範囲内に４箇所のＴＰを設定し調査したが、全域にわたって道路造成による削平が激しく、遺物包含層は残存していなかった。

今回の調査ではＴＰ２から溝状の掘り込みが検出された。しかし、掘り込みは非常に浅く、内部はⅢ層が堆積していたことから、近代の掘り込みと判断した。またＴＰ３・ＴＰ４内からも掘り方が検出されたが、内部からは近代の磁器・木の端材等がまとまって出土していることから近代のゴミ穴で

あった。したがって今回の調査においては、近世以前の遺構は確認できなかった。遺物はＴＰ３の撹乱から近代の遺物に混じって、近世の陶磁器片が５点出土した。図39はＴＰ３の撹乱から出土した染付磁器。１は中碗の端反形で、唐花が染付される瀬戸製の19世紀前葉～中葉頃のものと考えられる。２は小瓶で、胎土や染付から近代の製品とみられる。

以上の結果から、ＴＰ３から北側は埋蔵文化財包蔵地が消失しているかまたは所在していないものと考えられる。南側（ＴＰ３～４間）に包蔵地は残存している可能性が低いものの、平成22年度の調査結果などを踏まえ、工事に際しては遺跡範囲のみを対象に工事立会等の軽微な保護措置が妥当と判断される。なお、令和２年９月13日～10月29日に工事実施中に立会を実施したが、遺構は確認されず、遺物は近世の磁器１点を得た。



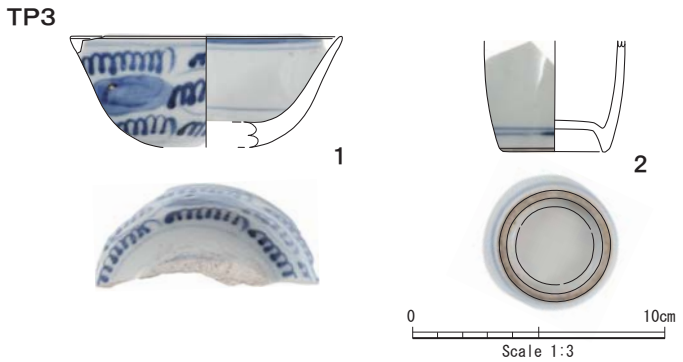


表17　出土遺物一覧

テストピット	P		計
	8		
	1	2	
ＴＰ３	4	1	5

図 39　川口館跡調査位置図（1：2,000）と出土遺物

調査地近景（南東から）

１調査状況（北から）

２溝検出状況（北から）

２調査状況（北から）

３調査状況（北から）

４調査状況（北から）

図版 20　川口館跡調査状況

20　花岡城跡・神山遺跡（個人住宅新築工事）

⑴　調査の経緯

花岡町地区において個人による住宅新築が計画されたことから、建築主が依頼した建設設計事務所に新築予定地が花岡城跡・神山遺跡内であること、事業着手前に試掘調査の必要である旨説明した。建築主の理解を得、令和３年１月に試掘・確認調査を実施した。

⑵　遺跡の位置と周辺の環境

花岡城跡･神山遺跡は､大館盆地を南流する大森川の右岸に位置する。平成25･30年度の調査により、遺跡のある台地上では平安時代の遺物が発見されている。

周辺には、南西側約0.5㎞に平安時代～中世の土器・陶器が発見された松峰遺跡、北側約0.8㎞に縄文時代中期の遺構・遺物、晩期の土器が発見された十三森遺跡が所在する。

⑶　調査の方法

調査にあたり、平面直角座標系のＸ・Ｙ軸を座標系として設定した。調査の基本を10m間隔の方眼とし、Ｘ・Ｙ軸に沿って幅１ｍのトレンチを設定した。

基本層序は平成30年度に実施した地点と同様である。基盤をなす黄褐色ローム層上に腐植土層が堆積する。

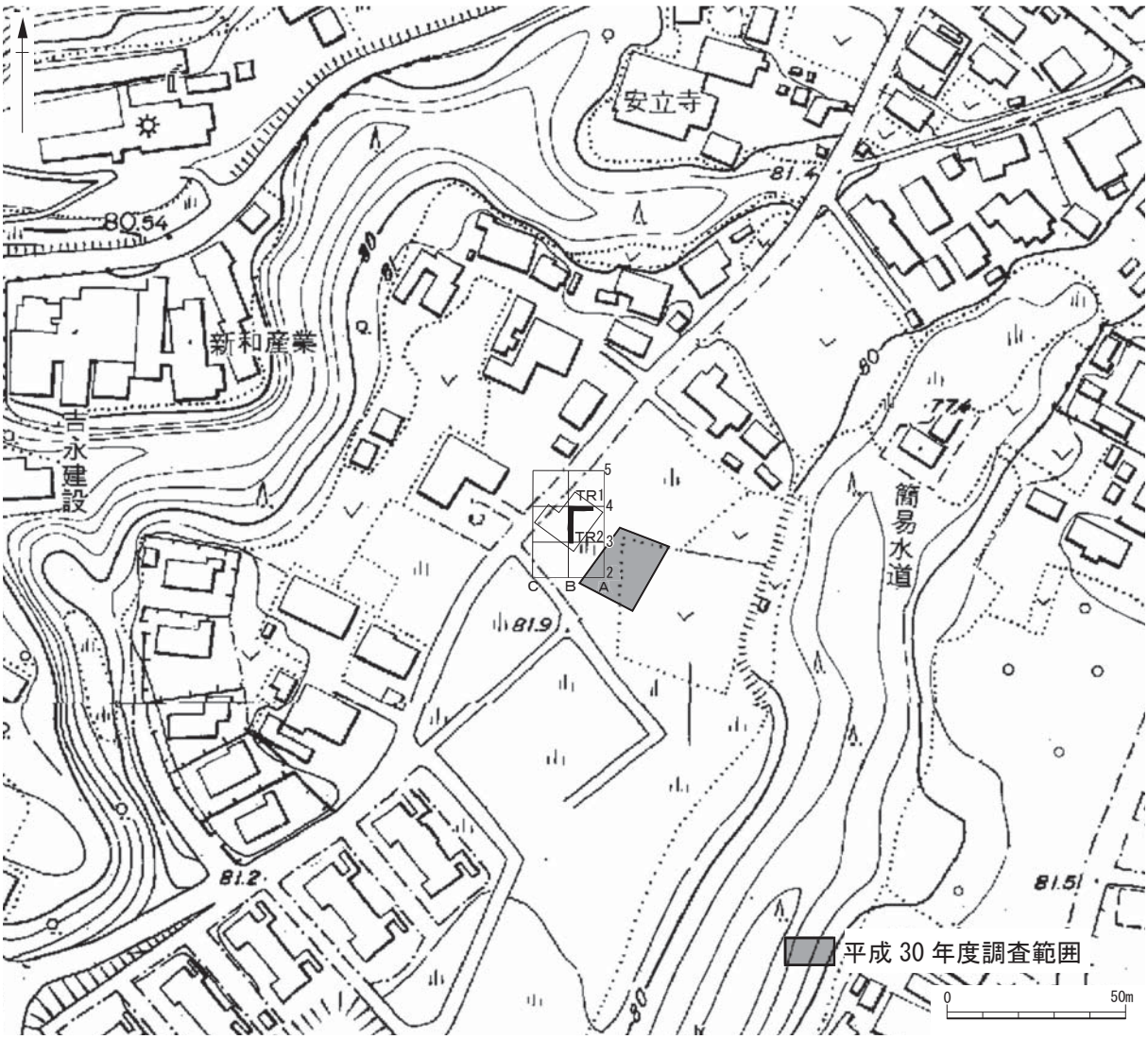
Ⅰ層　旧表土。
Ⅱ層　黒色を呈する腐植土層である。
Ⅲ層　黄褐色を呈するローム層。

⑷　調査の結果

調査範囲内に２本のトレンチ（以下「ＴＲ」）を設定し調査したが、全域にわたって削平が激しく、遺物包含層は残存していなかった。

今回の調査では遺構は時期不明の柱穴様ピット５基を検出し、遺物は土師器片１点のみである。土師器はＴＲ１のＩ層から出土した。

以上の結果から、今回の調査地は遺構等が消失しているかまたは所在していないものと考えられる。包蔵地が残存している可能性が低く、工事立会等の軽微な保護措置が妥当と判断される。なお、令和３年２月３日～４日に工事実施中に立会を実施したが、遺構は時期不明の柱穴様ピット１基を確認したのみで、遺物は確認されなかった。



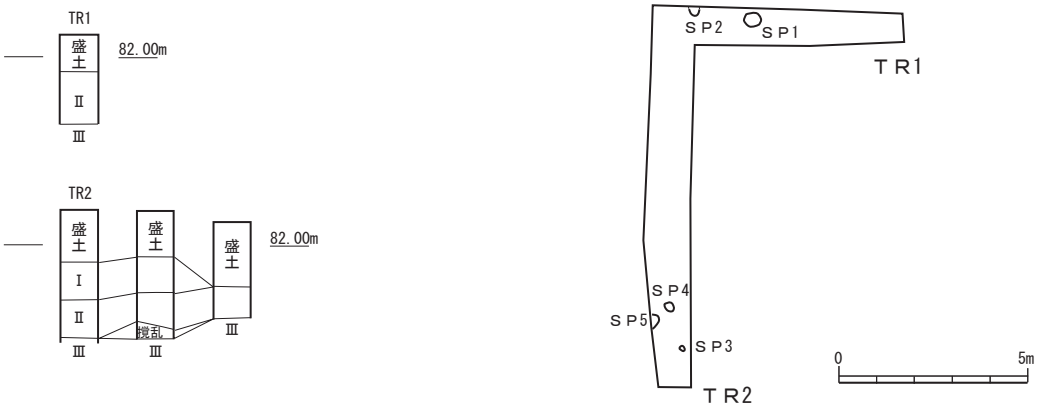


図 40　花岡城跡・神山遺跡の調査位置図（1：2,000）・土層柱状図（1：40）・調査平面図（1：200）

表18　遺構一覧

柱穴・柱穴様ピット	計
5	5

表19　出土遺物一覧

調査区	P	計
	7	
	2	
ＴＲ１	1	1

調査地全景

作業状況

ＴＲ１調査状況（東から）

ＴＲ２調査状況（南から）

図版 21　花岡城跡・神山遺跡調査状況

21　小館町遺跡③（個人住宅新築工事）

⑴　調査の経緯

小館町地区において個人による住宅新築が計画されたことから、建築主が依頼した建築設計事務所に新築予定地が小館町遺跡内であること、事業着手前に試掘調査の必要である旨説明した。建築主の理解を得、令和３年４月に試掘・確認調査を実施した。

⑵　遺跡の位置と周辺の環境

小館町遺跡の位置と周辺の環境については、第14節で述べたとおりである。今回の調査位置は遺跡の北東部の宅地となっている箇所である（図28）。

⑶　調査の方法

今回の調査は、建築設計事務所から工事で掘削するのは住宅部分のみとの証言を得たので、対象範囲を住宅部分のみとした。

調査にあたり、発掘区の設定は、小館町遺跡①調査を踏襲した。トレンチは、平面直角座標系のＹ軸に沿って幅１ｍのトレンチを設定した。

基本層序は小館町遺跡①と同様であるので、本書52ページを参照されたい。なお、Ⅱ層及びⅢ層は今回の調査では検出されていない。

⑷　調査の結果

調査範囲内のうち、建物建築予定地付近に２本のトレンチを設定し調査したが、全域にわたって耕作による削平のためか、遺物包含層は残存していなかった。今回の調査では遺構・遺物は検出されなかった。

以上の結果から、今回の調査地は遺構等が消失しているかまたは所在していないものと考えられる。包蔵地が残存している可能性が低く、遺物が出土していないことを踏まえ、慎重工事等の軽微な保護措置が妥当と判断される。

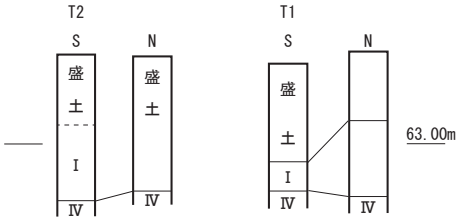


図 41　小館町遺跡③土層柱状図（1：40）

調査地全景

作業状況

Ｔ１調査状況（南から）

Ｔ２調査状況（東から）

図版 22　小館町遺跡③調査状況

22　金坂遺跡（住宅建築土地造成工事）

⑴　調査の経緯

金坂地区において個人事業による住宅建築土地造成が計画されたことから、事業主が依頼した建築設計事務所に新築予定地が金坂遺跡内であること、事業着手前に試掘調査の必要である旨説明した。事業主の理解を得、令和３年６月に試掘・確認調査を実施した。

⑵　遺跡の位置と周辺の環境

金坂遺跡は、大館盆地を西流する長木川の左岸に位置する。平成30年度の調査により、遺跡西端では主に江戸時代の遺構・遺物が発見されている。

周辺には、南西隣に江戸時代の遺構・遺物が発見された大館城跡、南約1.1㎞に縄文時代中期および平安時代の遺構・遺物が発見された扇田道下遺跡、南東約1.2㎞に縄文時代後期の遺物が発見された扇田道上遺跡が所在する。

今回の調査地は大館城下東端の八幡町にあたり、秋田藩直臣の給人が居住した町である。享保13（1728）年の大館絵図によれば、芳賀七右衛門、近藤五郎兵衛、近藤内蔵之助の屋敷地にあたる。

⑶　調査の方法

調査にあたり、平面直角座標系のＸ・Ｙ軸を座標系として設定した。調査の基本を10m間隔の方眼とし、１m角のテストピットを設定した。

基本層序は、基盤をなす黒褐色～黄褐色砂質土層上に腐植土層が堆積する。

Ⅰ層　表土及び耕作土。

Ⅱ層　黒色～暗褐色を呈する腐植土層で、本来の遺物包含層。ａ～ｃ層に細分される。

Ⅱａ層　黒色を呈する土層。

Ⅱｂ層　黒褐色を呈する土層。

Ⅱｃ層　暗褐色を呈する土層。

Ⅲ層　黒褐色～にぶい黄褐色を呈するⅡ層とⅣ層の漸移層。

Ⅳ層　黒褐色～黄褐色を呈する砂質土層。

⑷　調査の結果

調査範囲内に47箇所のテストピットを設定し調査したが、既存建物の周辺は撹乱を受け、遺跡北端部は削平されていたものの、他の箇所は遺構が良好に残存していた。

今回の調査で検出した遺構は竪穴建物跡１軒、土坑状の掘り込み１基、溝跡４条、焼土４箇所、柱穴・柱穴様ピット15基、集石１基、遺物は近世の陶磁器を中心に150点を得た。

１）遺構

竪穴建物跡５

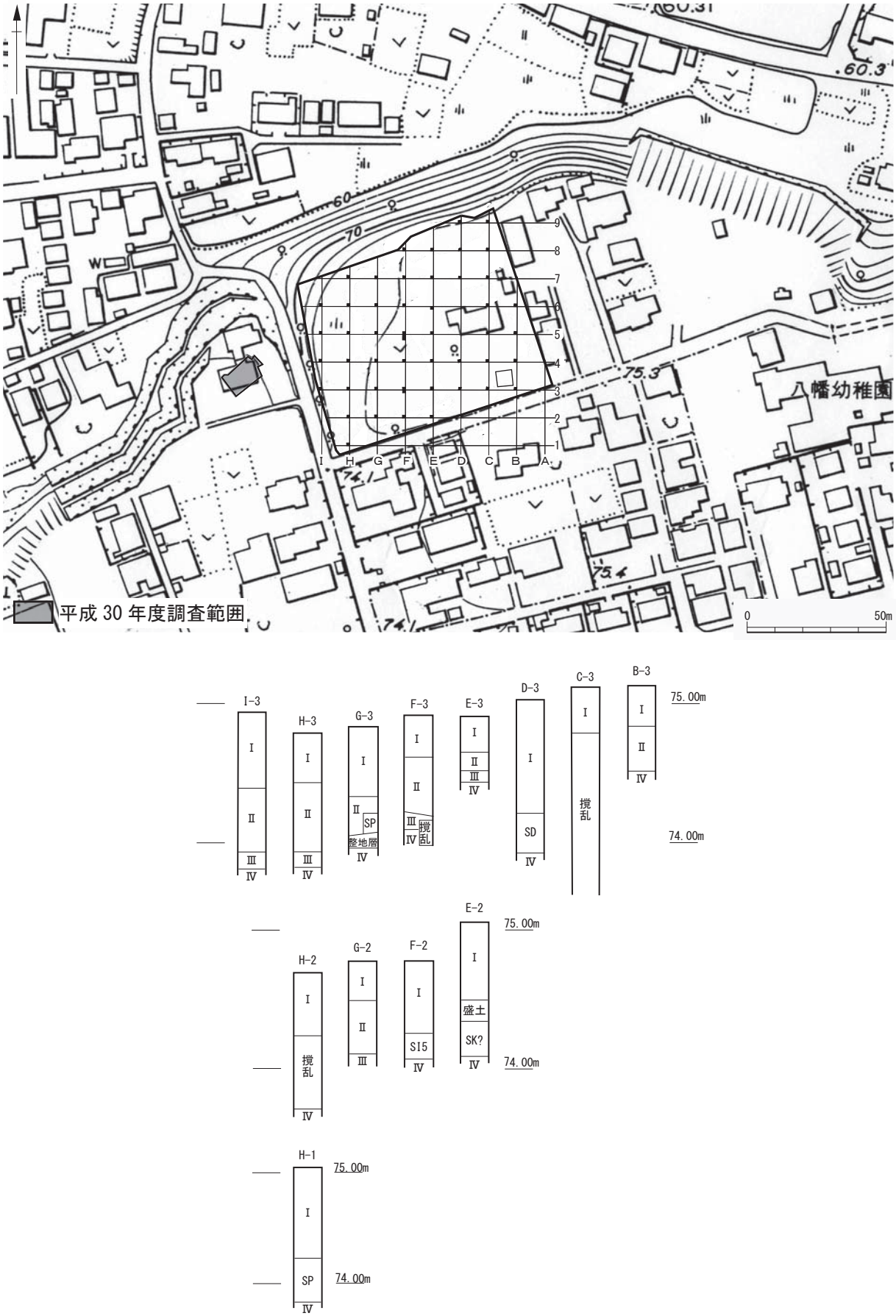


図 42　金坂遺跡の調査位置図（1：2,000）と土層柱状図（1）（1：40）

遺構　Ｆ－２区に位置する。テストピットを調査中に黒色土の落込みがあったことから、発見した。竪穴東側コーナーの一部を確認したのみで、大部分は調査範囲外に拡がるため、平面形は不明であるが方形を呈するものと思われる。確認面での規模は長径0.92m、短径0.72m、深さは0.26mほどである。壁は急角度で立ち上がり、床はほぼ平坦である。調査範囲から検出された柱穴と考えられるピットは３基である。壁に沿って並ぶ。遺物は出土しなかったが、他の遺跡の類例から中世～近世の遺構と考えられる。
埋土　上層が黒褐色土（Ⅱ層）にローム粒が混じる。中層が黒色土（Ⅱ層）にロームブロックが混じり、下層は暗褐色土（Ⅳ層）、床面に黒色土が薄く堆積する。

溝跡６
遺構　Ｆ～Ｉ－５区に東西方向にのびる溝である。Ｈ－１区から並行する溝跡が確認されており、Ｉ－４区では南北方向にのびる黒色土の落ち込みを検出しているが、これらは同一の溝跡の可能性もある。確認面での規模は幅2.2mほど、深さは1.2mほどである。出土遺物はなく、時期は不明である。
埋土　黒色土である。

焼土１
Ｅ－３区に位置する。テストピット完掘後に断面で検出し、さらに東西へ拡がる。土の色調は明褐色である。焼土の下部に浅い皿状の掘り込みがあり、テストピット南壁の断面には柱穴様ピットを１基確認した。これらは焼土に伴うものとみられ、カマド状遺構と考えられる。
焼土２
Ｅ－４区に位置する。テストピットを調査中に検出し、さらに東に拡がる。土の色調は褐色で、下部に浅い皿状の掘り込みがある。
焼土３
Ｅ－５区に位置する。テストピットの調査中に１箇所検出した。土の色調は明褐色である。焼土の南側に礫が数点まとまっており、本焼土に伴う可能性がある。
焼土４
Ｆ－６区に位置する。テストピットの調査中に１箇所検出した。土の色調は明褐色で、黒色土（Ⅱ層）が混じる。焼土の下部に掘り込みが２箇所あり、これに伴うものとみられ、カマドと考えられる。焼土下から須恵器甕２点が出土しており、焼土の北側に溝跡があるため、平安時代の竪穴建物の可能性が考えられる。図版24－１は５層から出土し、２点が接合した須恵器の甕体部片。外面は縄目状の斜行する平行タタキ目、内面に平行する当て具痕が残る。胎土は砂粒を多く含み、海綿骨針も含む。色調は外面が黒褐色を呈する。

２）遺物
遺物は大半がＩ層より得たものである（図版24－２～13）。２はＨ－５区のＩ層から出土した須恵器の甕体部破片で、外面は平行タタキ目である。３・４はＩ層から出土した土師器。３はＩ－５区から出土した小甕の口縁部破片で、口縁部が「く」の字状に外反し、つくりはていねいである。４はＨ－５区から出土した甕の体部破片。５～７はいずれもＩ層から出土した磁器染付の碗。５はＤ－４区から出土した小碗で、花と鳥の絵が染付される。肥前Ⅳ～Ⅴ期頃か。６はＩ－３区から出土した小碗の口縁部で、雨降り文が染付される。端部は口銹で、外面には雨粒が表現される。肥前Ⅲ～Ⅳ期の内

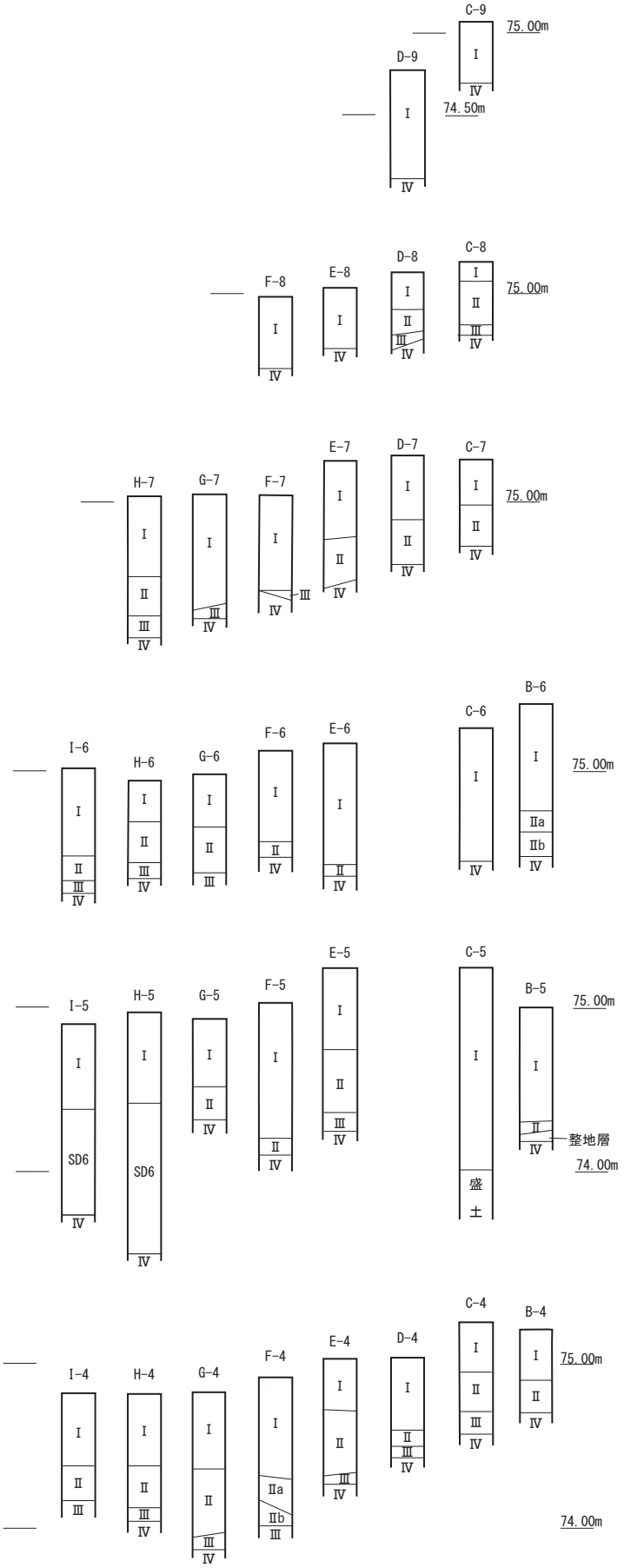


図 43　金坂遺跡土層柱状図（2）（1：40）

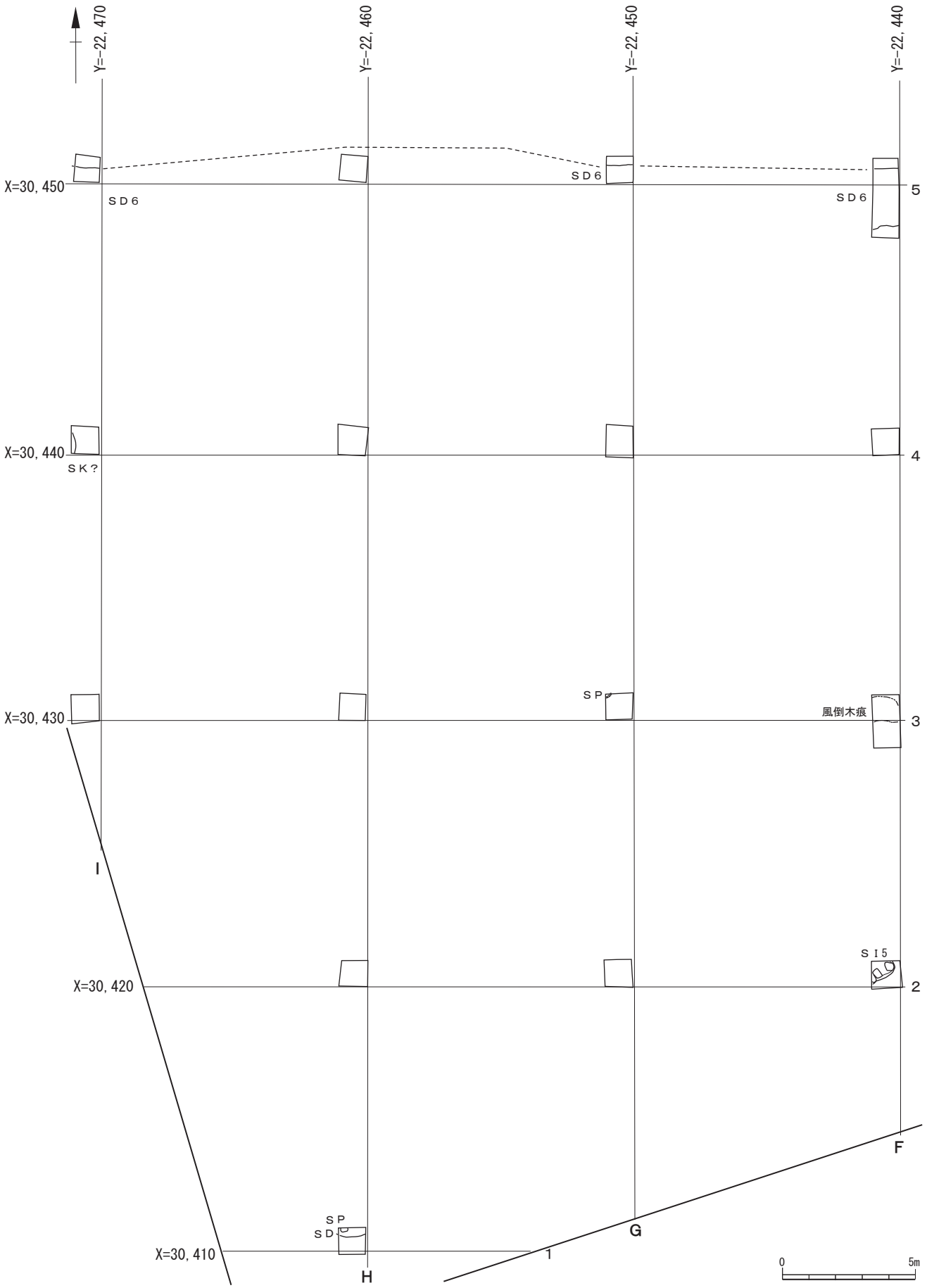


図 44　金坂遺跡調査平面図（1）（1：200）

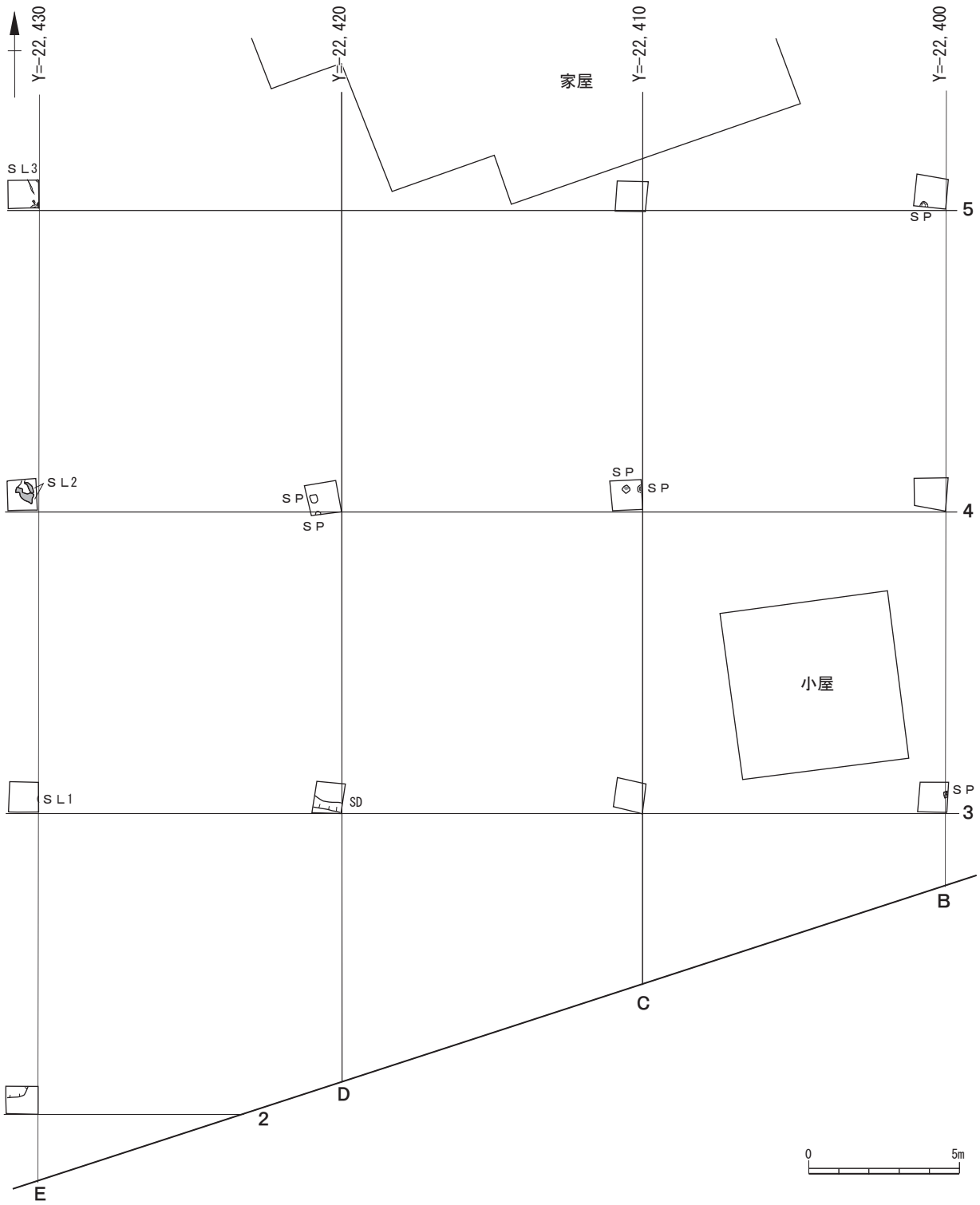


図 45　金坂遺跡平面図（2）（1：200）

1670～1700年代。７は中碗。口径１/４程が残る破片で、口径9.7㎝、底径4.2㎝ほど、器高5.0㎝になるとみられる。焼成不良で、丸窓にコンニャク印判で蔦葉が染付されている。肥前Ⅳ期。８～13は磁器の皿で、８～12は染付。８はＣ－９区から出土した。小皿とみられ、外面の染付は唐草と推測される。肥前Ⅳ期頃か。９はＦ－５区から出土した中皿になるかと思われる皿の口縁部片で、内外面に唐草が染付される。肥前Ⅲ～Ⅴ期の内17世紀後葉～18世紀頃か。10はＩ－３区から出土した五寸皿の丸形とみられる破片で、波佐見系で肥前Ⅳ期頃か。11はＧ－５区から出土した。内面には花唐草が描かれる。肥前Ⅲ期頃か。12はＣ－３区から出土した。見込みに草花が描かれ、蛇ノ目凹形高台である。肥前Ⅳ～Ⅴ期。13はＧ－３区から出土した色絵大皿。畳付と高台に粗粒の離れ砂が付着する。見込みに鳳凰、寿山石、竹、蘭が描かれる。漳州窯製とみられる。この種のものは市内では初出であろう。

３）取り扱い

以上の結果から、Ｃラインの６～７区より東側（Ａ－６～Ｂ－７区）、Ｆ－７区とＧ－６区を結んだラインより北西側（Ｆ－７区～Ｉ－７区）は埋蔵文化財包蔵地が消失しているかまたは所在していないものと考えられる。その他の部分については包蔵地が残存しており、遺物が出土していることを踏まえ、4,200㎡に対して本発掘調査が必要と判断した。

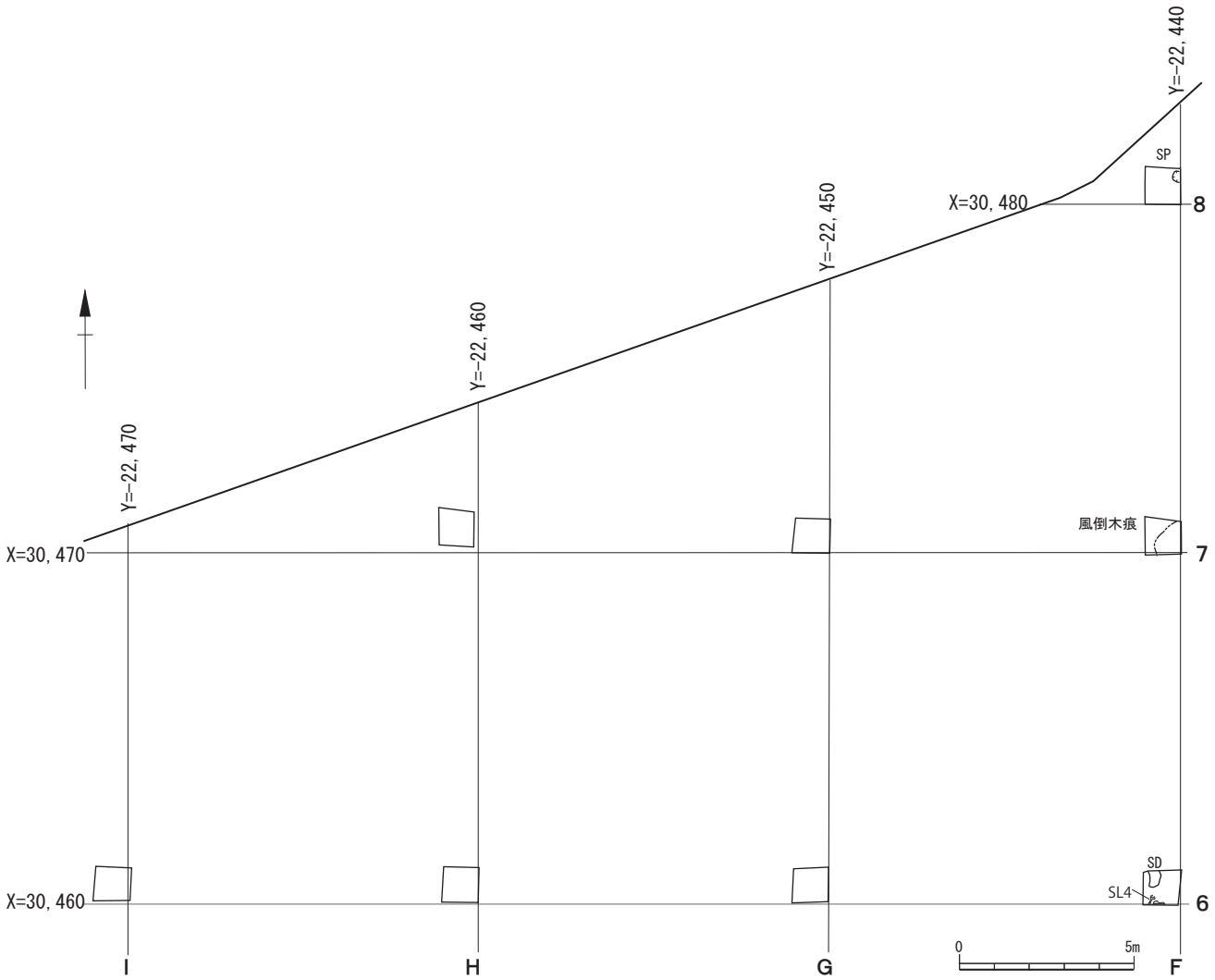


図 46　金坂遺跡確認調査平面図（3）（1：200）

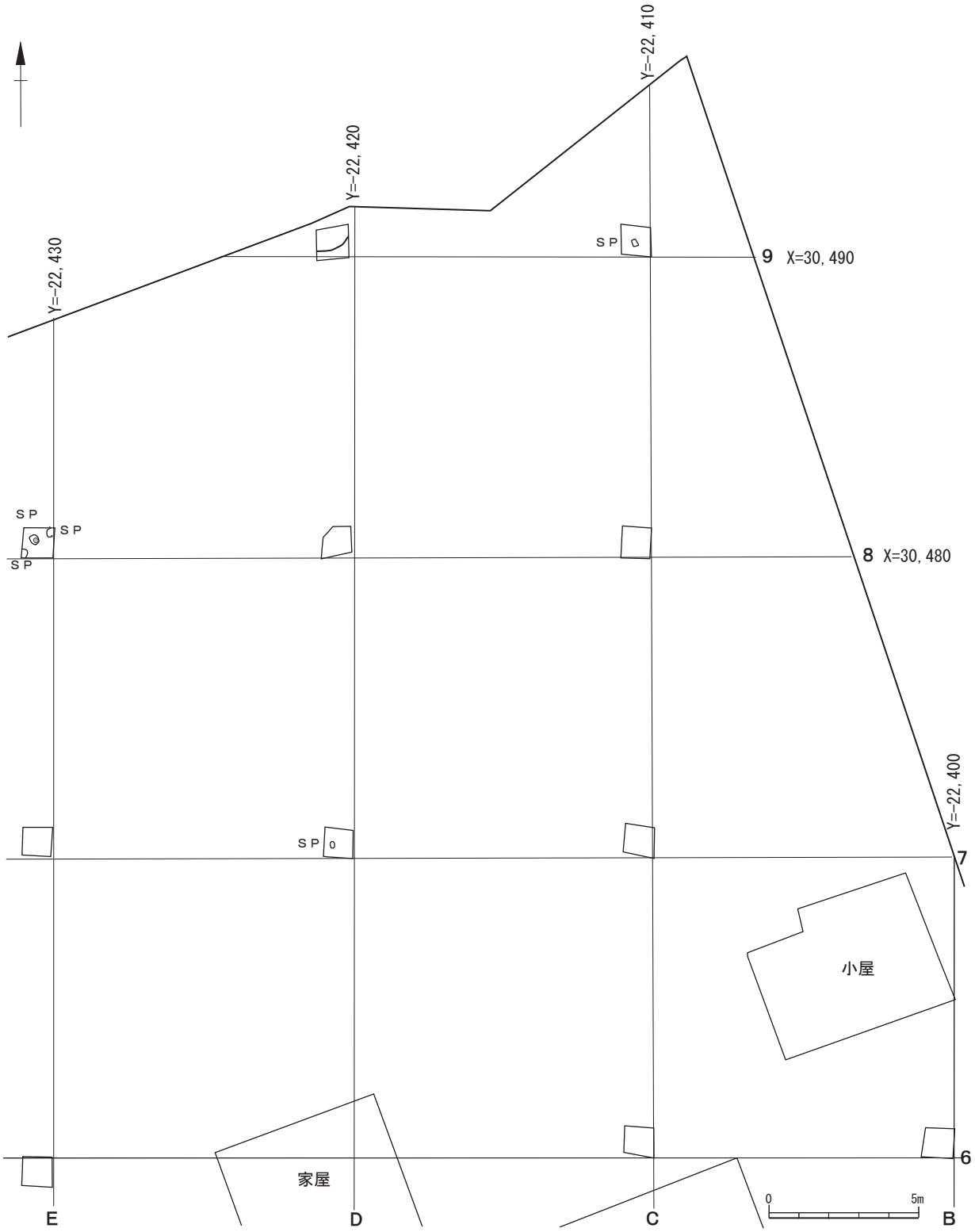
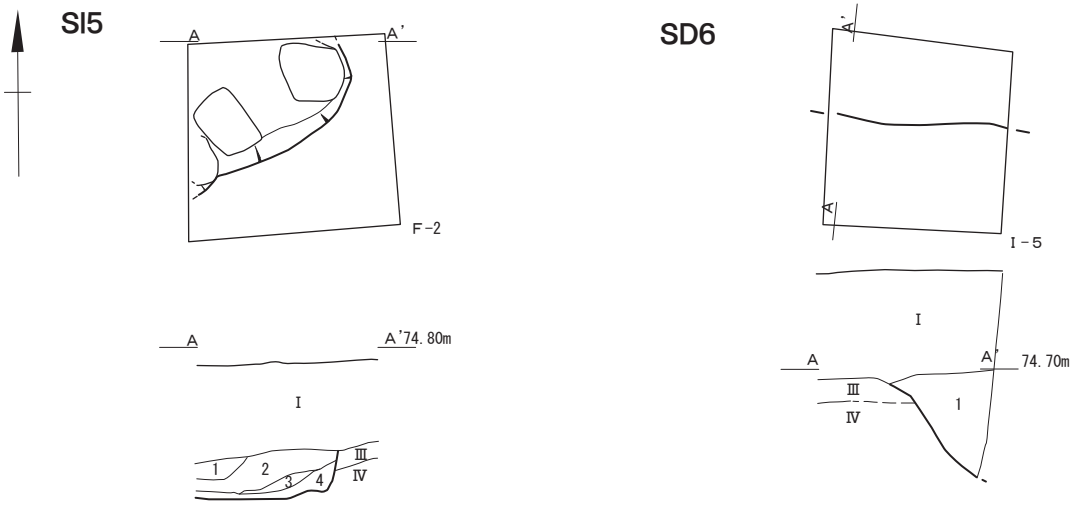
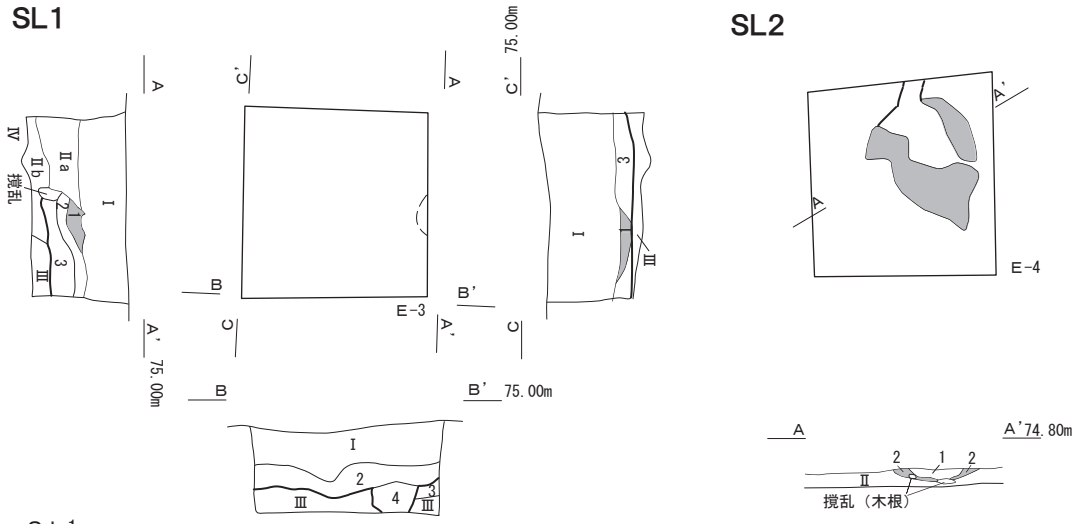


図 47　金坂遺跡確認調査平面図（4）（1：200）



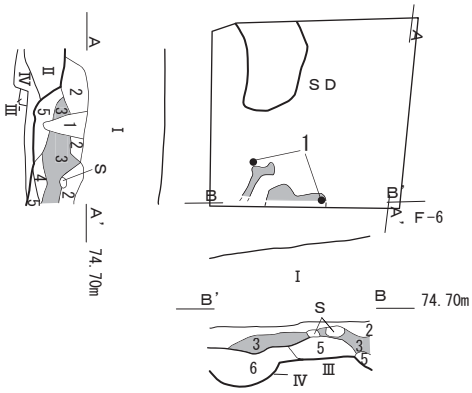
ＳＩ５
1　10YR2/2 黒褐色　Ⅱ＞Ⅳ。砂質。パミス（φ1～３㎜）少量混入。締まりよし。粘性なし。
2　10YR2/1 黒色　　砂質。ロームブロック少量混入。締まりよし。粘性なし。
3　10YR4/3 暗褐色　砂質。Ⅳ主体。締まり、粘性なし。
4　10YR1.7/1 黒色　パミス（φ1～３㎜）少量混入。締まり、粘性有り。床面。

ＳＤ６
1　10YR2/1黒色　パミス(φ1～8㎜)微量混入。締まり、粘性有り。粘性弱。



ＳＬ１
1　7.5YR5/6 明褐色土　焼土。締まり有り。粘性なし。
2　10YR2/1 黒色　　砂質。やや締まり有り。粘性弱。
3　10YR2/3 黒褐色　　砂質。地山粒少量混入。締まりやや有り。
4　10YR2/1 黒色　　砂質。ややボソボソする。

ＳＬ２
1　10YR1.7/1黒色　　締まり、粘性有り。
2　7.5YR4/4褐色焼土　締まり有り。粘性なし。



ＳＬ４
1　10YR2/1黒色　　締まり有り。粘性弱。
2　7.5YR2/1黒色　　焼土ブロック少量混入。締まり、粘性有り。
3　7.5YR5/6明褐色　焼土。黒色土（2層）多量混入。締まり有り。粘性弱。
4　10YR2/2黒褐色　焼土粒少量混入。締まり有り。粘性弱。
5　10YR2/1黒色　　Ⅱ、Ⅳ 粒少量混入。締まり有り。粘性弱。
6　10YR2/2黒褐色　Ⅳブロック少量混入。締まり有り。粘性弱。

0　2m
Scale 1:40

図 48　金坂遺跡竪穴建物跡５、溝跡６、焼土１・２・４

表20　遺構一覧

竪穴建物跡	土坑？	溝跡	焼土	柱穴・柱穴様ピット	集石	計
1	1	4	4	15	1	26

表21　出土遺物一覧

調査区遺構	P						S			C	合計
	7		8			計	1	4	計		
	1	2	1	2	3		4				
H－1SD			1	3		4					4
B－3			3	1		4					4
B－4			4			4					4
B－5			2			2					2
B－6			1			1					1
C－3			8	1	2	11					11
C－5			3	2		5					5
C－7			1			1					1
C－8							1		1		1
C－9			1			1					1
D－3			11	5	1	17	1	1	2		19
D－4			4			4					4
E－2			1			1					1
E－3				2		2					2
E－4			4	1		5					5
E－5			1	2		3					3
E－6			6			6					6
E－7			1			1					1
F－2			3			3					3
F－2・3			6	1		7					7
F－4			2			2					2
F－4・5			8			8					8
F－6	2					2					2
G－2			2	1		3					3
G－3			2			2					2
G－5			2			2					2
H－1			7	1		8					8
H－2			2	3		5					5
H－3			4	3		7					7
H－5	1	1				2					2
I－3			4			4					4
I－4			2		1	3					3
I－5		1				1					1
表　採		2	10	1	2	15				1	16
計	3	4	106	27	6	146	2	1	3	1	150

調査地近景

作業状況

竪穴建物跡５（Ｆ－２区）

溝跡６（Ｆ－４ｂ・５区）

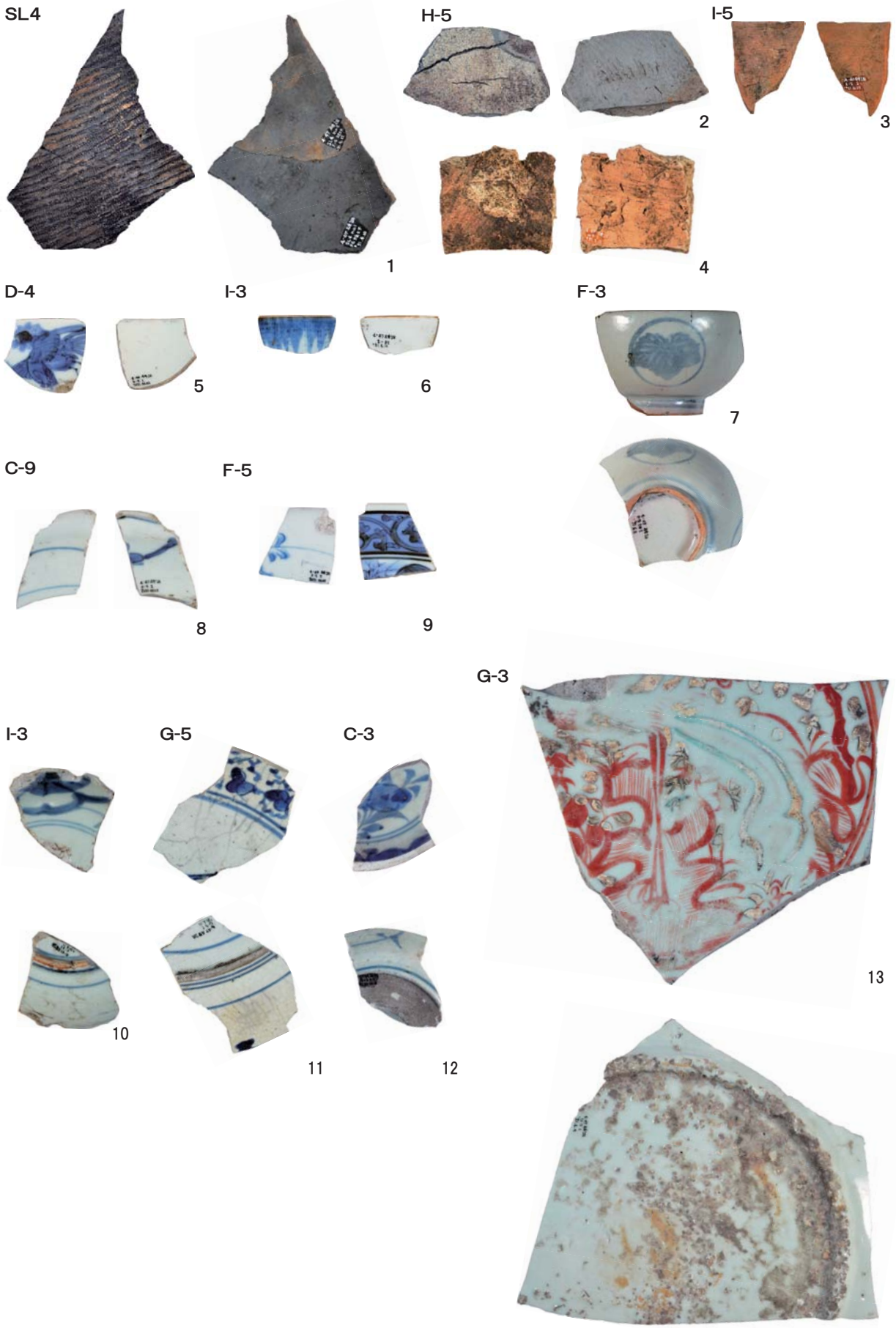
溝跡６（Ｉ－５区）

焼土２（Ｅ－４区）

焼土４（Ｆ－６区）

柱穴（Ｅ－８区）

図版 23　金坂遺跡調査状況



図版 24　金坂遺跡出土遺物

23　大館城跡⑤（個人住宅新築工事）

⑴　調査の経緯

古川町地区において個人による住宅新築工事が計画されたことから、建築主に新築予定地が大館城跡隣接地であること、事業着手前に試掘調査の必要性について説明した。建築主の理解を得たが、工期に余裕が無いことから、令和３年６月に基礎根掘り工事に立ち会うことで、試掘調査を実施した。

⑵　遺跡の位置と周辺の環境

大館城跡の位置と周辺の環境については、第１節で述べたとおりである。今回の調査区は、大館城跡の北側隣接地で、城の北側を巡っていた外堀の範囲を追究するために、試掘調査を実施した。

⑶　調査の方法

調査にあたり、建築主の要望により、トレンチは住宅基礎の根掘り部分とし、住居北・東・西壁の３箇所の掘削に立ち会い、遺構・遺物の有無等を調査した。

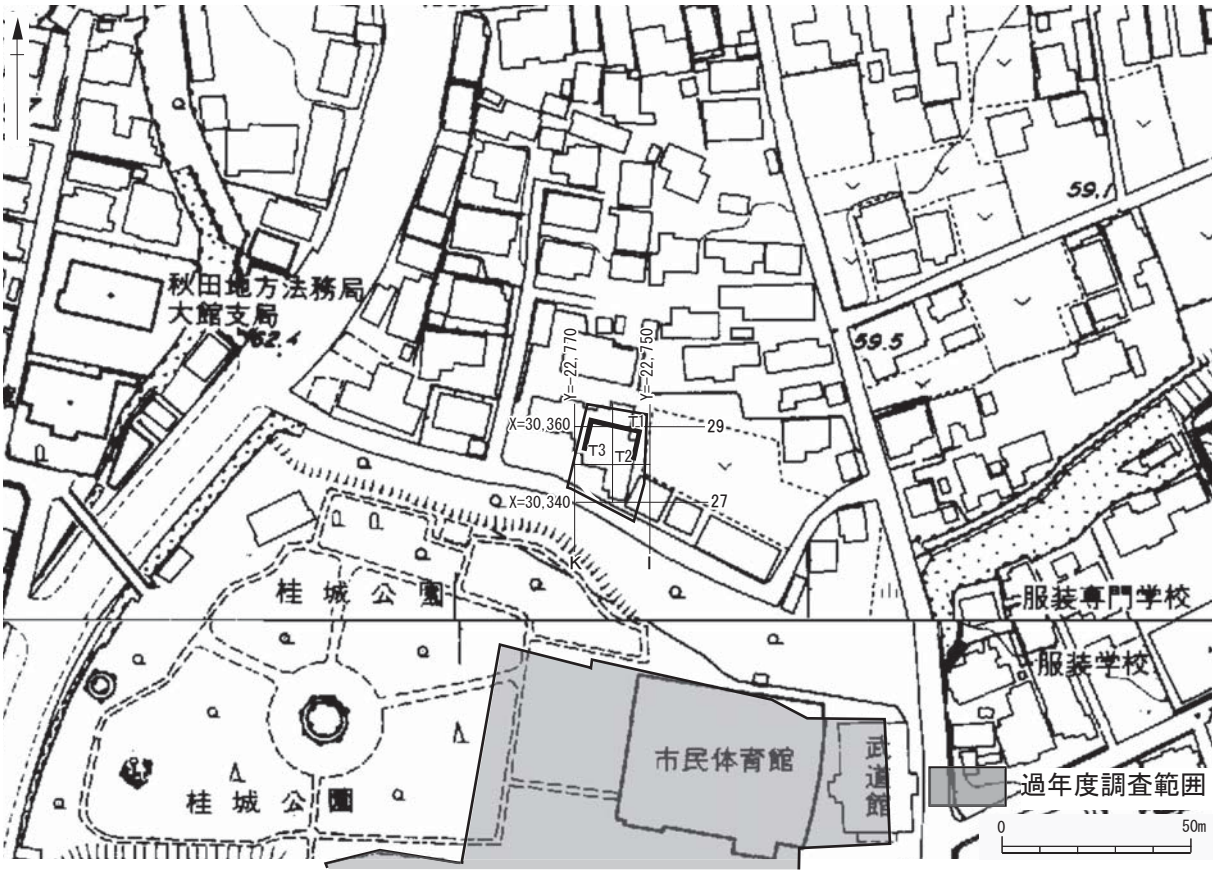


図 49　大館城跡⑤調査位置図（1：2,000）

⑷　調査の結果

工事では深さ50㎝まで掘り下げたが、盛土が堆積しているだけで、遺構・遺物は確認されなかったため、調査地内が遺跡のエリアとする確証は得られなかった。なお、令和３年７月13日・16日に住宅建築に付随する水道工事中に立会を実施したところ、遺構は大館城の外堀跡と考えられる黒色土落ち込みを１ヵ所、柱穴様ピット１基を確認し、遺物は近世の染付磁器１点を得た。

以上のことから、遺跡の範囲を堀跡が確認された範囲まで拡大すべきと考える。

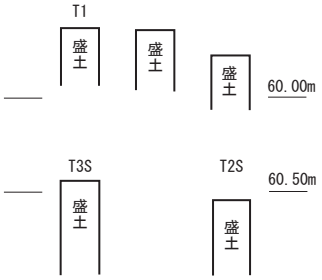


図 50　大館城跡⑤土層柱状図（1：40）

調査地全景

作業状況

Ｔ２

Ｔ３

図版 25　大館城跡⑤調査状況

24　二井田館跡（個人住宅新築工事）

⑴　調査の経緯

二井田地区において個人による住宅新築工事が計画されたことから、建築主が依頼した建築設計事務所に新築予定地が二井田館跡内であること、事業着手前に試掘調査の必要である旨説明した。建築主の理解を得、令和３年６～７月に試掘・確認調査を実施した。

⑵　遺跡の位置と周辺の環境

二井田館跡は、大館盆地を北流する犀川の左岸に位置する。平成15～19年度の調査により、館主体部では主に室町～安土桃山時代、館の周縁部では江戸時代の遺構・遺物が発見されている。

周辺には、南約1.5㎞に縄文時代および平安時代の遺構・遺物が発見された片貝遺跡が所在する。

⑶　調査の方法

調査にあたり、平面直角座標系のＸ・Ｙ軸を座標系として設定した。調査の基本を10m間隔の方眼とし、Ｘ軸に沿って幅１ｍのトレンチを設定した。

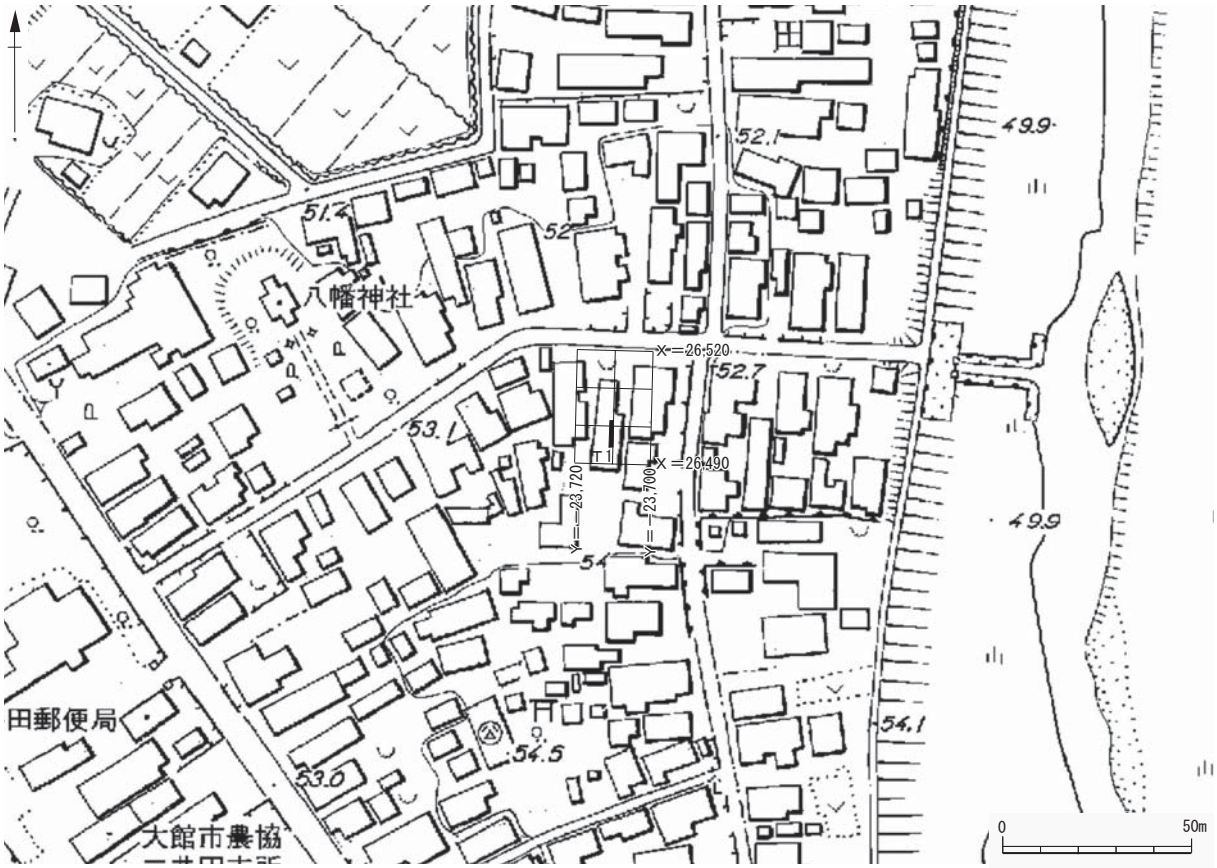


図 51　二井田館跡調査位置図（1：2,000）

(4)　調査の結果

深さ約１ｍまで掘り下げたが、近代以降の盛土が堆積しているだけで、遺構･遺物は確認されなかった。

以上の結果から、今回の調査地は盛り土造成されていること、工事による基礎の掘削は70㎝であり、盛り土造成土の範囲内での施工になることを踏まえ、慎重工事等の軽微な保護措置が妥当と判断される。

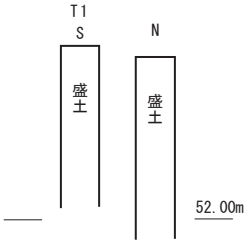


図 52　二井田館跡土層柱状図（1：40）

調査地全景

作業状況

Ｔ１

Ｔ１堆積状況

図版 26　二井田館跡調査状況

25　芋ヶ岱遺跡（ほ場整備事業）

⑴　調査の経緯

雪沢地区において公共事業によるほ場整備が計画されたことから、事業主に整備予定地が芋ヶ岱遺跡及び隣接地であること、事業着手前に試掘調査の必要である旨説明した。事業者の理解を得、令和３年11～12月に試掘・確認調査を実施した。

⑵　遺跡の位置と周辺の環境

芋ヶ岱遺跡は、大館市域の東部、ＪＲ大館駅から東に約11㎞の長木川南岸に位置し、長木川と黒沢川が形成した沖積台地上、旧大館市立雪沢小学校の南東側に立地する。かつて県道大館十和田湖線改修工事の際、水田下に縄文晩期の遺物が発見されたという。調査地の位置は、北緯40度16分48秒～17分4秒、東経140度40分56秒～41分12秒（世界測地系）、標高は144～153mである。

調査地周辺には、調査地北側約200mの台地上に大平下遺跡が、黒沢川を挟んだ東側約150mの丘陵上に水沢館跡が分布する。

⑶　調査の方法

調査にあたりテストピットは、対象範囲内に任意に設定した。２m×２mの規模で20箇所を設定し、掘削は全て人力で行い、基盤層である褐色粘質土層（Ⅵ層）まで掘り下げ、遺構の有無の確認・遺物の収集等を行った。

遺跡内の基本層序は、基盤をなす褐色粘質土層に腐植土層が堆積する単純なものである。以下に基本層序を示す。

Ⅰ層　表土・盛土層。
Ⅱ層　黒色を呈する腐植土層である。
Ⅲ層　黄褐色～褐色を呈する砂質土層。十和田ａ降下火山灰層である。
Ⅳ層　黒色～暗褐色を呈する腐植土層。本層は、色調からａ・ｂ層に細分される。
Ⅳａ層　暗褐色～黒褐色を呈する土層。
Ⅳｂ層　黒色を呈する土層。
Ⅴ層　暗褐色～褐色を呈する土層。Ⅳ層とⅥ層の漸移層である。
Ⅵ層　褐色を呈する粘質土層。

⑷　調査の結果

調査範囲内に20箇所のテストピット（以下、「ＴＰ」）を設定して調査した。今回の調査では、ＴＰ６・８で黒色土の落ち込みを確認したが、調査の結果、風倒木痕と判断され、遺構は検出されなかった。遺物は、ＴＰ２～５・８から縄文土器や石器などが出土した。出土した遺物は、縄文土器片が159点、石器・剥片が10点である。図55－１～８は、５群土器で６類に細分されると思われる。１・２はＴＰ４のⅣ層出土で、１は外面に赤色顔料が付着する鉢または壺形土器の口縁部で、赤色塗彩が施され

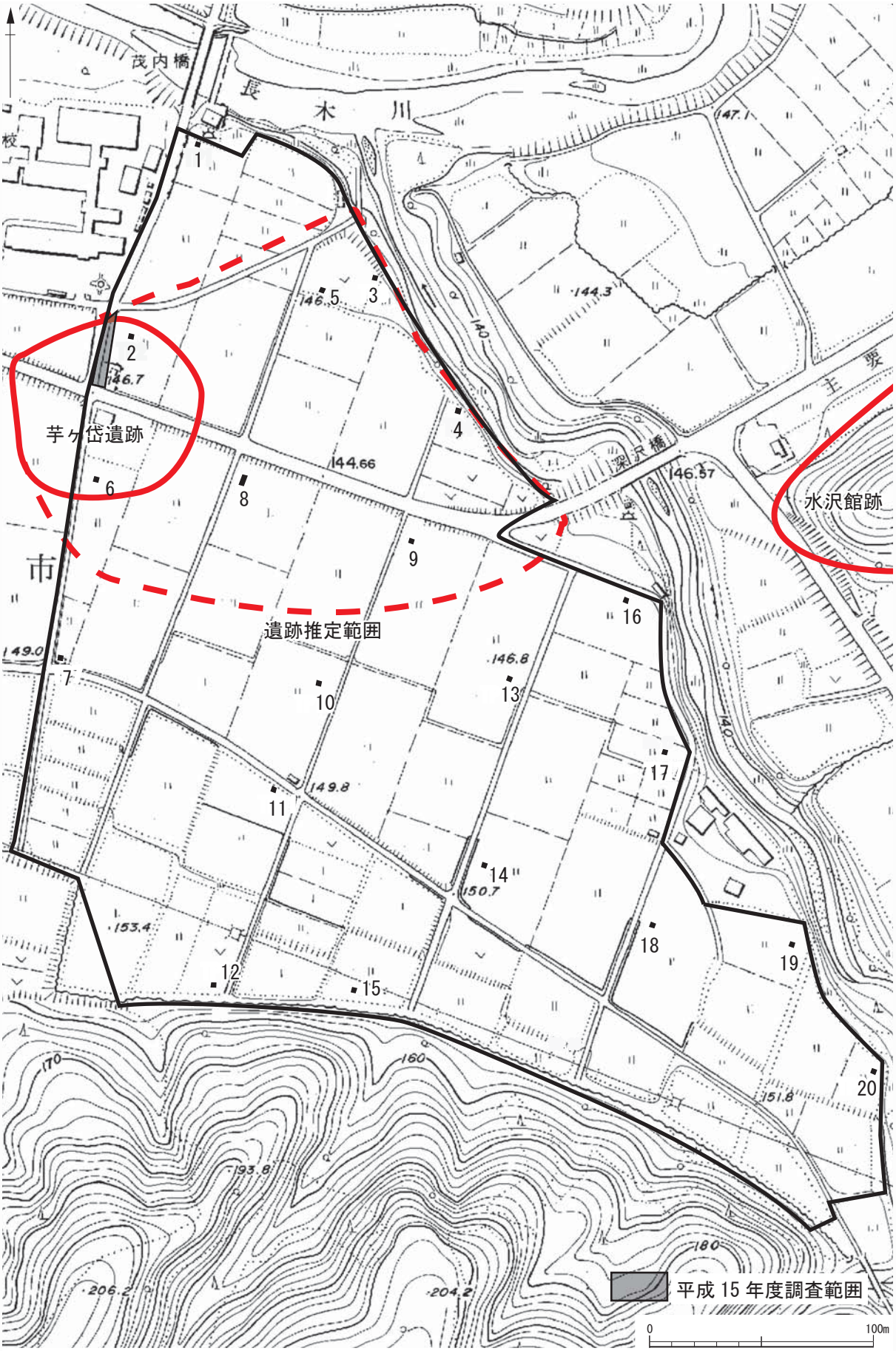


図 53　芋ヶ岱遺跡調査位置図（1：2,500）

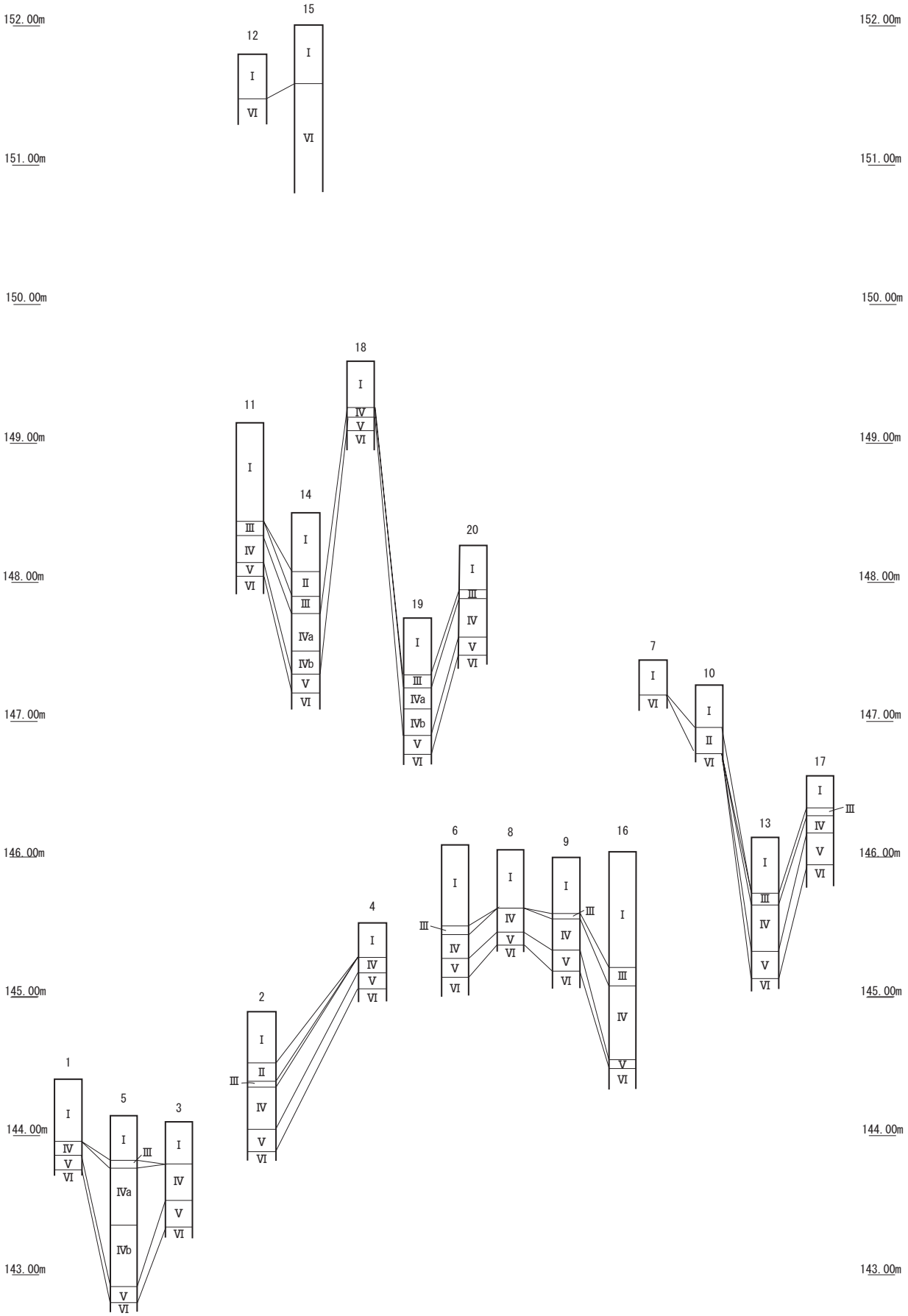


図 54　芋ヶ岱遺跡土層柱状図（1：40）

ていたと思われる。２は台付鉢形土器の台部分である。内面に黒色の付着物がある。３は、ＴＰ５のＩ層出土で、口縁外面に４～５条の沈線が口縁に対して平行に巡り、わずかに残る口唇部に波状の突起がみられる深鉢。４～８はＴＰ８から出土し、６はＩ層から、その他は風倒木痕からの出土である。４は口縁外面に４条の沈線が口縁に対して平行に巡り、口唇部には刻み目による小波状突起がみられる鉢形土器。５は口縁部に１段の刻目文が施され、その下に入組三叉文がみられる。６は鉢もしくは壺の頸部破片である。頸部に２条の横位沈線が巡り、沈線間に短い単位の横位沈線がみられる。７は口縁部に３条の横位沈線が巡り、口唇部は平坦で、刻み目列がみられる深鉢である。８は注口土器の注口部～肩部の破片で、肩部に横位平行沈線３条と沈線間に２段の刻み目、その外側に弧状沈線がみられる。９はＴＰ４のⅣ層から出土した珪質頁岩のＵ．フレイク。10はＴＰ８のＩ層から出土した珪質頁岩のＵ．フレイクである。

調査の結果、遺構は検出されなかったが、遺物が出土し芋ヶ岱遺跡の範囲が拡がることが確認された。新たな遺跡範囲は、ＴＰ２・６を含む旧範囲からＴＰ３～５・８・９を含む東側に範囲が拡がると推定される。このため、遺跡内にて開発事業等を行う場合には、事前の発掘調査が必要と考えられるため、事業実施について詳細な協議を行い対応する必要があると判断される。

なお、今回の調査は、当該事業の令和４年度施工範囲を対象としており、令和５年度施工範囲については、来年度以降に試掘・確認調査を実施する予定である。

表22　出土遺物一覧

テストピット	P		S			合計
	5	計	1 4	2	計	
ＴＰ２			2		2	2
ＴＰ３				1	1	1
ＴＰ４	14	14	2	1	3	17
ＴＰ５	22	22				22
ＴＰ８	123	123	2	2	4	127
合計	159	159	6	4	10	169

図 55　芋ヶ岱遺跡出土遺物

調査区北部近景（南東から）

１完掘状況（東から）

２完掘状況（西から）

４完掘状況（西から）

５完掘状況（西から）

６完掘状況（南から）

８調査状況（北から）

８拡張調査状況（南から）

図版 27　芋ヶ岱遺跡調査状況（1）

８完掘状況（東から）

調査区西部近景（南東から）

７完掘状況（西から）

11 完掘状況（南から）

調査区東部近景（西から）

14 完掘状況（西から）

19 完掘状況（西から）

20 完掘状況（南から）

図版 28　芋ヶ岱遺跡調査状況（2）

26　小館町遺跡隣接地（個人住宅新築工事）

⑴　調査の経緯

小館町地区において個人による住宅新築が計画されたことから、建築主が依頼した建築設計事務所に新築予定地が小館町遺跡隣接地であること、事業着手前に試掘調査の必要性について説明した。建築主の理解を得、令和３年12月に試掘調査を実施した。

⑵　遺跡の位置と周辺の環境

小館町遺跡の位置と周辺の環境については、第14節で述べたとおりである。今回の調査位置は遺跡北東部隣接地の畑地となっている箇所である（図28）。

⑶　調査の方法

今回の調査は、建築設計事務所から工事で掘削するのは住宅部分のみとの証言を得たので、対象範囲を住宅部分のみとした。

調査にあたり、発掘区の設定は、小館町遺跡①調査を踏襲した。トレンチは、平面直角座標系のＹ軸に沿って幅１ｍのトレンチを設定した。

基本層序は小館町遺跡①と同様であるので、本書52ページを参照されたい。なお、本調査ではⅡ層が色調から、ａ・ｂ層に細分される。

Ⅱａ層　黒色を呈する。

Ⅱｂ層　黒褐色を呈する土層である。

⑷　調査の結果

調査範囲内のうち、建物建築予定地付近に１本のトレンチを設定し調査したが、遺構は検出されなかった。遺物は時期不明の土器２点が得られたものの、いずれも近世以降のものとみられる。

調査地は、畑地となっていたため、表土は撹乱されていたものの、Ⅱ層以下は撹乱を受けていない土であった。調査の結果、今回調査を実施した地区については、包蔵地が拡がっている可能性は低いと考えられる。

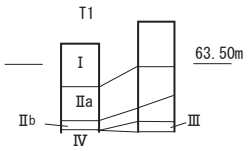


図 56　小館町遺跡隣接地土層柱状図（1：40）

調査地全景

作業状況

Ｔ１

図版 29　小館町遺跡隣接地調査状況

第３章　比内地区の調査

１　笹館城跡（個人住宅新築工事）

⑴　調査の経緯

比内町笹館地区において個人による住宅新築が計画されたことから、建築主が依頼した設計事務所に新築予定地が笹館城跡内であること、事業着手前に試掘調査の必要である旨説明した。建築主の理解を得、令和２年１月に試掘・確認調査を実施した。

⑵　遺跡の位置と周辺の環境

笹館城跡は大館盆地の南部に分布している。遺跡の範囲は達子森を起点に広がる二等辺三角形状を呈する台地上の南側突端部約307,270㎡が該当する。今回の調査区は台地の東辺部の縁に位置しており、北緯40度12分26秒、東経140度33分55秒（世界測地系）である。

大館市は中央の盆地とそれを取り囲む山地からなる。同市南部の比内地域は南から北へ向かって次第に低くなり、比内地域の中心地である扇田の市街地では標高約60ｍで、北辺部では米代川、西辺部を板戸川が流れている。

笹館城跡は、米代川支流の引欠川と犀川に挟まれる地点にあり、現在、笹館地区にある養牛寺付近に主郭が存在したと推定される。また周辺には多くの遺跡が確認されており、本遺跡の東側に縄文時代の遺跡である水無遺跡（204－12－36）、西側には遺物散布地である前田野遺跡（204－12－38）が隣接しており、引欠川を挟んだ南西側の対岸には平安時代の集落遺跡である細越遺跡（204－12－25）などが存在する。

⑶　調査の方法

今回の調査にあたって、トレンチ（以下「ＴＲ」）を調査対象地内に任意に設定した。ＴＲの掘削は砕石層から地山層直上までの約80～90cm をバックホーを用いて掘削し、地山層までの掘削及び清掃は人力で行い、遺構・遺物の有無等を調査した。

今回、確認調査を行うにあたって調査区域内に２本のＴＲを設定して調査を行った。

遺跡内の基本層序を大別すると、黒色土層・暗～黒褐色土層・明黄褐色ローム層（地山層）に区別することができる。

Ⅰ層　10YR1.7/1　黒色粘性土層。締まりあり。

Ⅱ層　7.5YR2/1　黒ボク層。締まりあり。

Ⅲ層　10YR2/1　Ⅱ層とⅣ層の漸移層。

Ⅳ層　7.5YR3/3　暗褐色砂質土。層の中位に黄褐色パミス（十和田ａ降下軽石？）堆積。

Ⅴ層　10YR2/3　黒褐色土。

Ⅵ層　10YR6/8　明黄褐色ローム層。地山層。

⑷　調査の結果

今回の調査区は住宅が建てられていた場所である。ＴＲ１の南側は近代の造成工事により包含層は残存していなかった。ＴＲ１からは竪穴建物跡１軒（ＳＩ１）、柱穴様ピット３基（ＳＰ１・２・４）を検出した。竪穴建物の帰属時期は、Ｔｏ－ａ二次堆積層と考えられるⅣ層を掘り込んでいることから平安時代の竪穴建物であると判断した。ＴＲ２は、大部分がＴＲ１の南側と同様造成工事等により削平されており、柱穴様ピット１基（ＳＰ９）を検出した。遺物は調査区外からごく微細な土師器片を１点表採したのみである。

以上の結果から、今回の調査区では撹乱を受けているものの、ＴＲ１では平安時代に帰属すると考えられる遺構が検出された。工事の計画では近代造成盛土の範囲内で工事することとなり、掘削深度は検出遺構面には到達せず、遺構が検出されたⅣ層面は保護されることとなった。

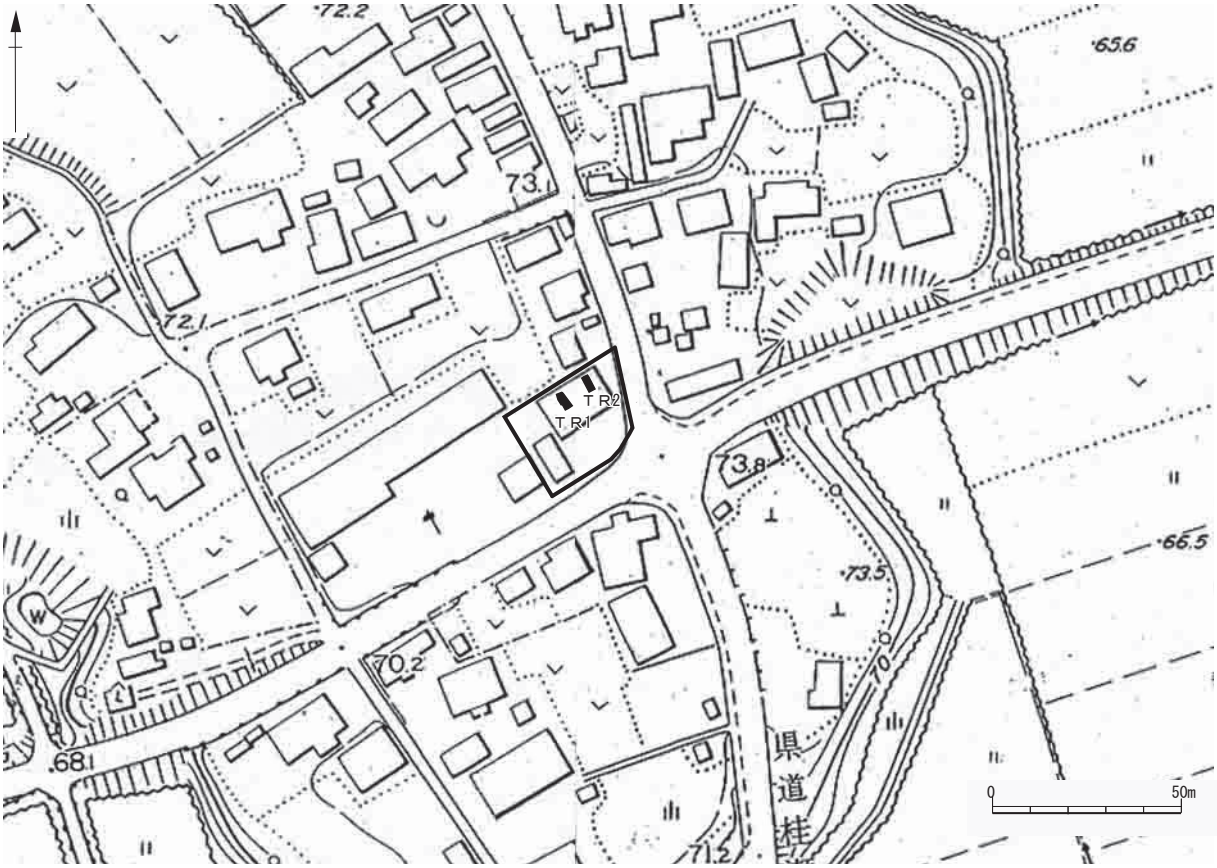


図 57　笹館城跡調査位置図（1：2,000）

表23　遺構一覧

竪穴建物跡	柱穴様ピット	計
1	4	5

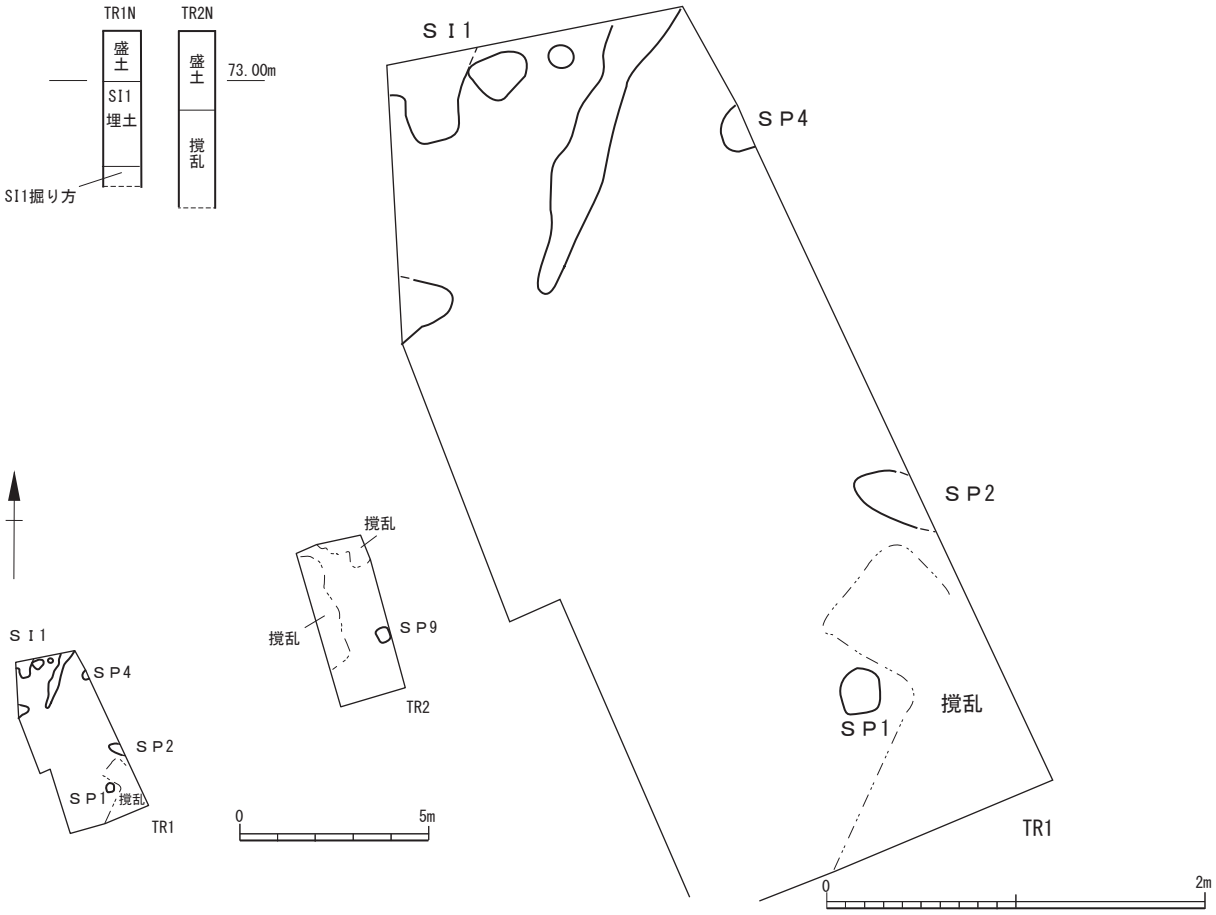


図 58　笹館城跡の土層柱状図（1：40）・調査平面図（1：200・1：40）

調査地近景（北西から）

作業状況

ＴＲ１検出状況（南東から）

ＴＲ２検出状況（南から）

図版 30　笹館城跡調査状況

２　長岡城跡（私道建設・浄化槽設置工事）

⑴　調査の経緯

比内町扇田地区において、個人事業による私道建設及び浄化槽設置が計画されたことから、事業主に工事予定地が長岡城跡内であること、事業着手前に試掘調査の必要である旨説明した。事業者の理解を得、令和２年10～11月に試掘・確認調査を実施した。

⑵　遺跡の位置と周辺の環境

長岡城跡は、米代川支流の犀川下流域右岸に所在する。本遺跡は、浅利氏に関係する戦国時代の城跡であり、遺跡の位置は、北緯40度13分12秒、東経140度35分1秒（世界測地系）に所在する。標高は最も高い中央部で73mを測り、比高10m程の周辺地形から独立した台地上に長岡城跡は位置する。平成19・20・26年度の調査により、台地上では縄文時代前期の遺物と中世の遺構・遺物が発見されている。

遺跡の南側には､真館Ⅱ遺跡（204－12－52）と真館Ⅲ遺跡（204－12－53)､低地を挟んだ東側に、縄文時代前期と平安時代の遺跡である大岱遺跡（204－12－14）が存在する。

⑶　調査の方法

今回の調査は、事業主から事業で掘削するのは台地の斜面部分及び台地上の一部のみで、掘削土を台地直下に埋める（台地下は掘削しない）との証言を得たので､対象範囲を切土･掘削部分のみとした。

調査にあたり、任意にトレンチを設定した。トレンチの掘削は全て人力で行い、表土層から地山層までの約70㎝を掘り下げ、遺構・遺物の有無等を調査した。

遺跡内の基本層序は、おおまかに表土層・黒色土層・暗褐色砂質土層・地山層（黄褐色ローム層）の４層に大別することができる。

Ⅰ層　表土層。

Ⅱ層　10ＹＲ2/1～10ＹＲ2/2　黒色～黒褐色を呈する土層で、本来の遺物包含層。締まりあり。

Ⅲ層　7.5ＹＲ3/3～2.5Ｙ3/3　暗褐色～暗オリーブ褐色を呈する土層。締まりあり。

Ⅳ層　10ＹＲ5/6　黄褐色ローム層。地山層（基盤層)。

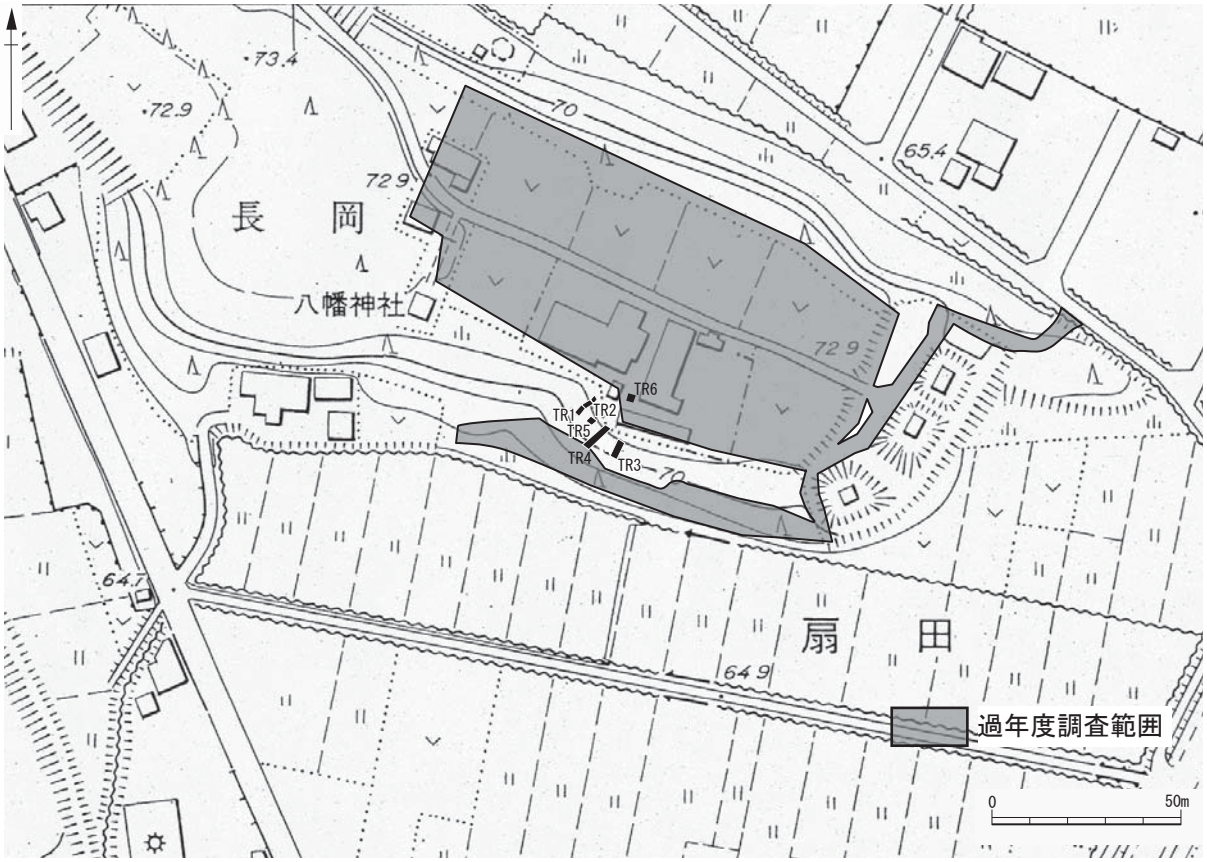
⑷　調査の結果

調査範囲内に６本のトレンチ（以下「ＴＲ」）を設定し調査したが、浄化槽設置予定地の台地上は削平が激しく、遺物包含層は残存していなかった。

今回の調査ではＴＲ１～５から城の「切岸」と想定される傾斜面とそれに伴う平場（ＳＸ１）を検出した。また、ＴＲ１・３・４から各１基の柱穴様ピットを検出した。切岸と判断した根拠として、①斜面中腹に人為的な平場を構築している。②平場を基点に、上位面は傾斜が急角度になっている。③平場から杭跡と考えられる柱穴様ピットが検出された。以上の点があげられる。

遺物はＴＲ３のＳＸ１堆積土から出土した近世の肥前産と考えられる磁器片１点のみである。

以上の結果から、ＴＲ１～５では城跡に関連する遺構が検出された。切土部分に対して本発掘調査が必要と判断した。一方、ＴＲ６については、明確な包含層・遺構はないことから、埋蔵文化財が消失しているかまたは所在していないものと考えられる。工事立会等の軽微な保護措置が妥当と判断される。



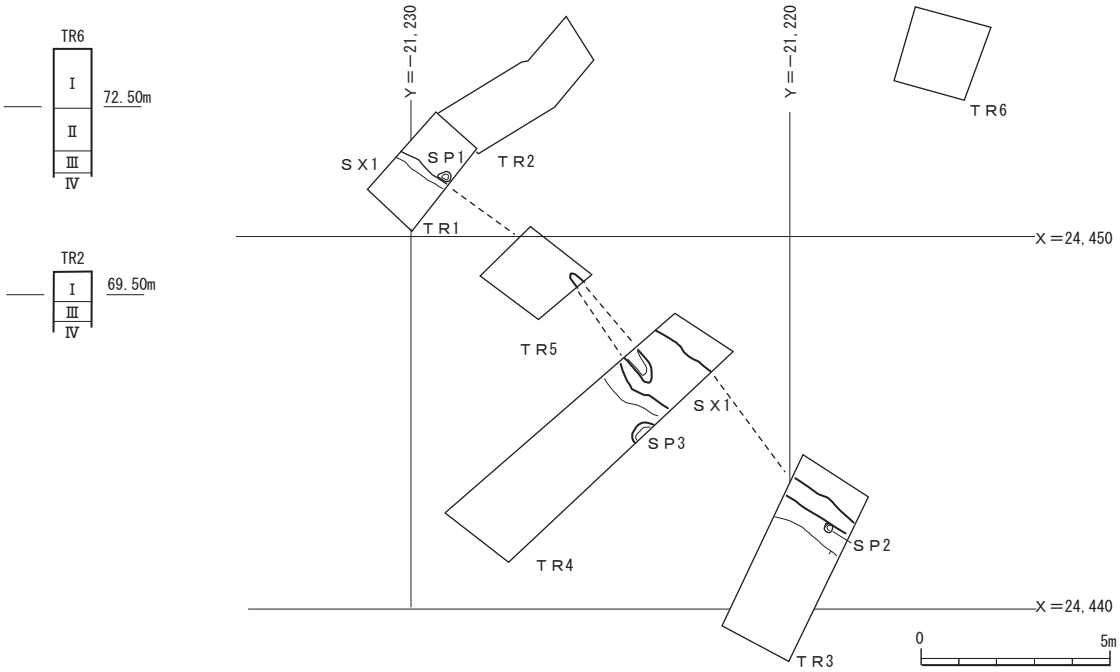
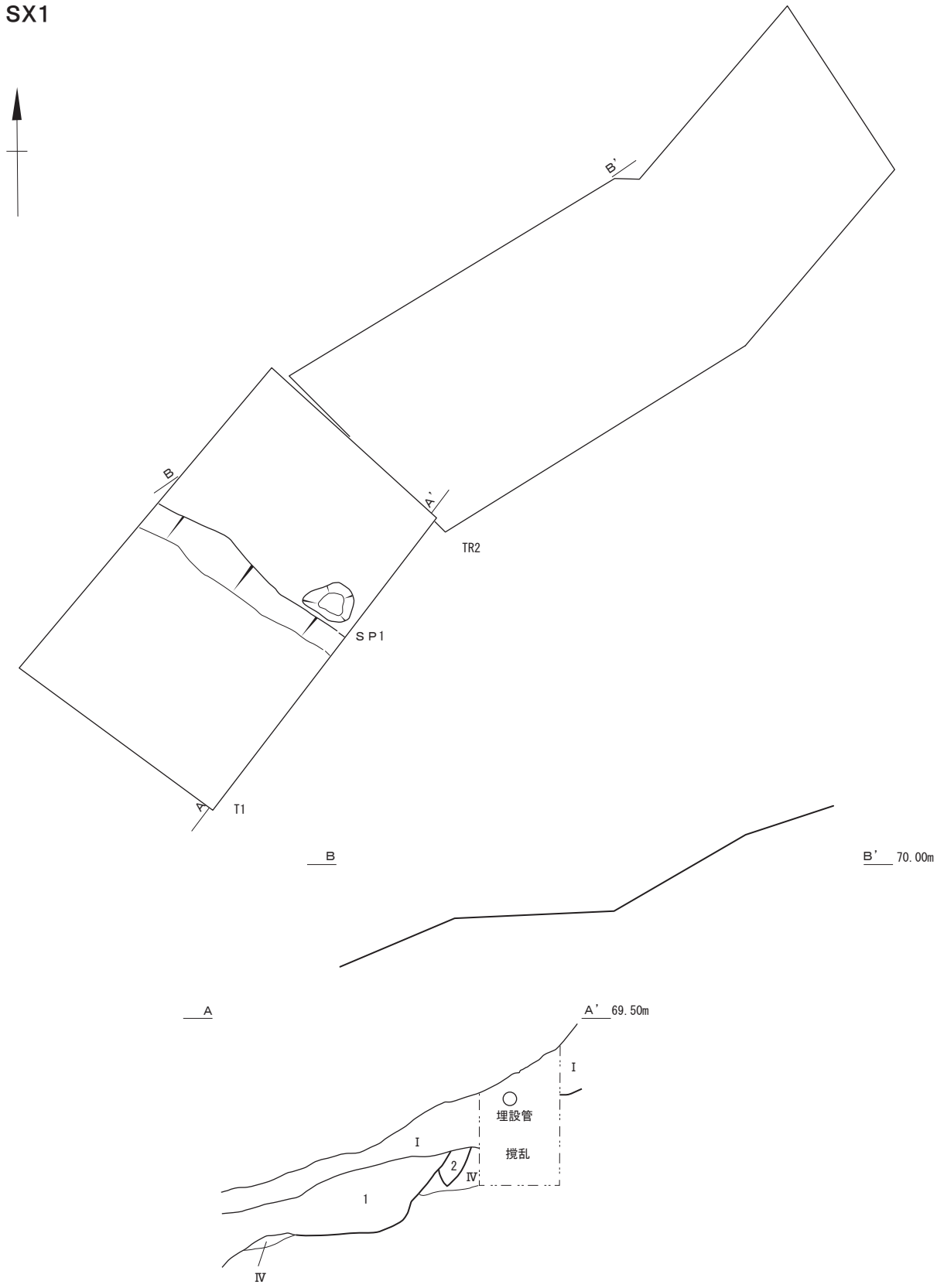


図 59　長岡城跡の調査位置図（1：2,000）・土層柱状図（1：40）・調査平面図（1：200）



ＳＸ１

1　10YR2/2 黒褐色　砂質。締まり弱。

ＳＰ１

2　10YR3/3 暗褐色　砂質。締まり弱。

0　2m
Scale 1:40

図 60　長岡城跡切岸１(1)

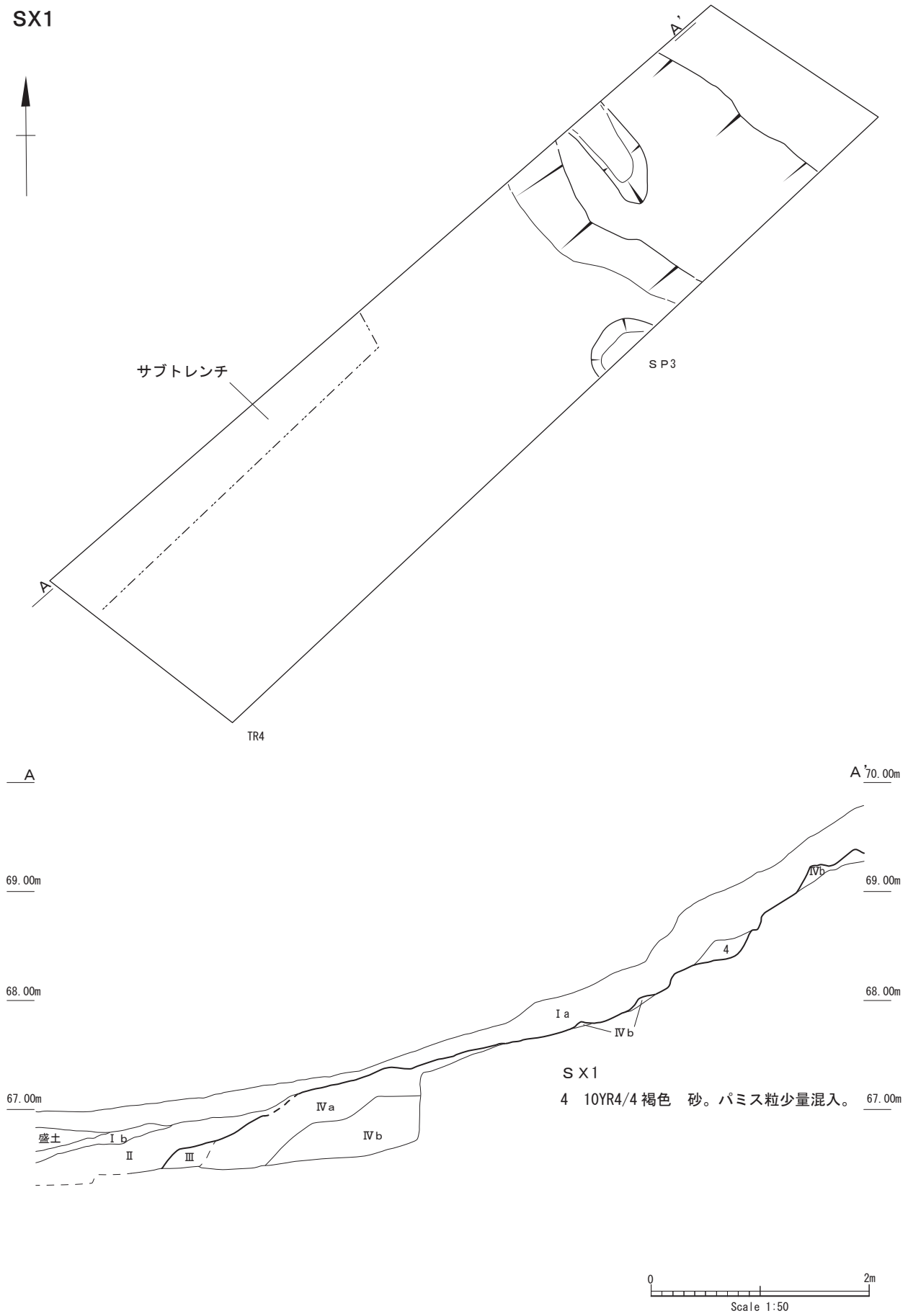


図 61　長岡城跡切岸 1 (2)

SX1

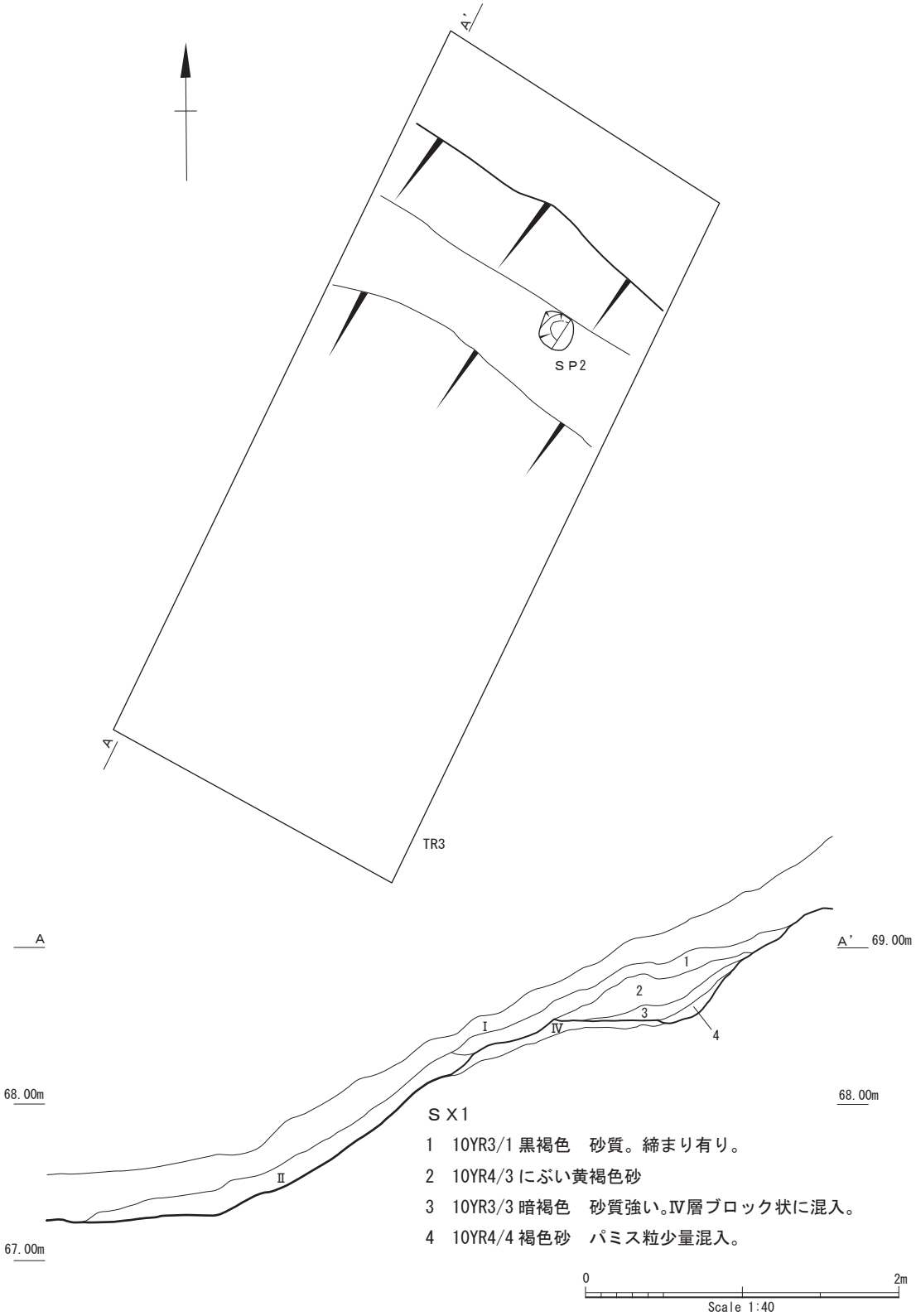


図 62　長岡城跡切岸１(3)

表24　遺構一覧

切岸	柱穴・柱穴様ピット	計
1	3	4

表25　出土遺物一覧

調査区遺構	P	計
	8	
	1	
ＳＸ１	1	1

私道部分調査地全景（南東から）

調査地近景（右からＴ３・４　南西から）

作業状況（西から）

ＴＲ１　切岸１検出（西から）

ＴＲ２　南側　切岸１検出（西から）

ＴＲ３　切岸１検出（南から）

ＴＲ３　切岸１堆積状況（南東から）

ＴＲ４　切岸１平場検出（南東から）

図版 31　長岡城跡調査状況（1）

ＴＲ４　柱穴１（北西から）

ＴＲ４　切岸１検出（南から）

ＴＲ４　サブトレンチ堆積状況（南東から）

ＴＲ５　切岸１検出（北西から）

浄化槽設置部分調査地全景

ＴＲ６（西から）

図版 32　長岡城跡調査状況 (2)

３　市川遺跡（個人住宅新築工事）

⑴　調査の経緯

比内町扇田地区において個人による住宅新築が計画されたことから、建築主が依頼した建築設計事務所に新築予定地が市川遺跡内であること、事業着手前に試掘調査の必要である旨説明した。建築主の理解を得、令和３年４月に試掘・確認調査を実施した。

⑵　遺跡の位置と周辺の環境

市川遺跡は、大館盆地を西流する米代川の左岸に位置する。周辺には、東約0.4㎞に縄文時代前期・中期の遺構・遺物が発見された本道端遺跡、南西約0.8ｋｍに縄文時代前期、中世の遺構・遺物が発見された長岡城跡が所在する。

⑶　調査の方法

調査にあたり、平面直角座標系のＸ・Ｙ軸を座標系として設定した。調査の基本を10m間隔の方眼とし、Ｘ軸に沿って幅１ｍのトレンチを設定した。

基本層序は本道端遺跡と同様である。

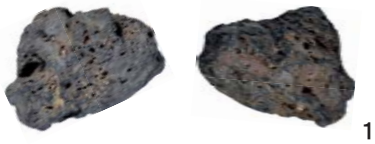
Ⅰ・Ⅱ層　上位黒色腐植土層。
Ⅲ層　上位軽石質火山灰層。
Ⅳ層　降下火山礫層。
Ⅴ層　下位黒色腐植土層。
Ⅵ層　暗褐色土層。今回の調査では確認されていない。
Ⅶ層　下位軽石質火山灰層。

⑷　調査の結果

調査範囲内のうち、建物建築予定地内に２本のトレンチを設定し調査したが、耕作による削平のため、遺物包含層は残存していなかった。

今回の調査では遺構は検出されず、遺物は図版33に示した１点のみである。１は鉄滓で磁着がなく、炉外流出滓の内、流出溝滓とみられ、トレンチ１とトレンチ２の間で発見した表採である。

以上の結果から、今回の調査地は遺構等が消失しているかまたは所在していないものと考えられる。包蔵地が残存している可能性が低く、トレンチ内から遺物が出土していないことを踏まえ、慎重工事等の軽微な保護措置が妥当と判断される。



図版 33　市川遺跡出土遺物

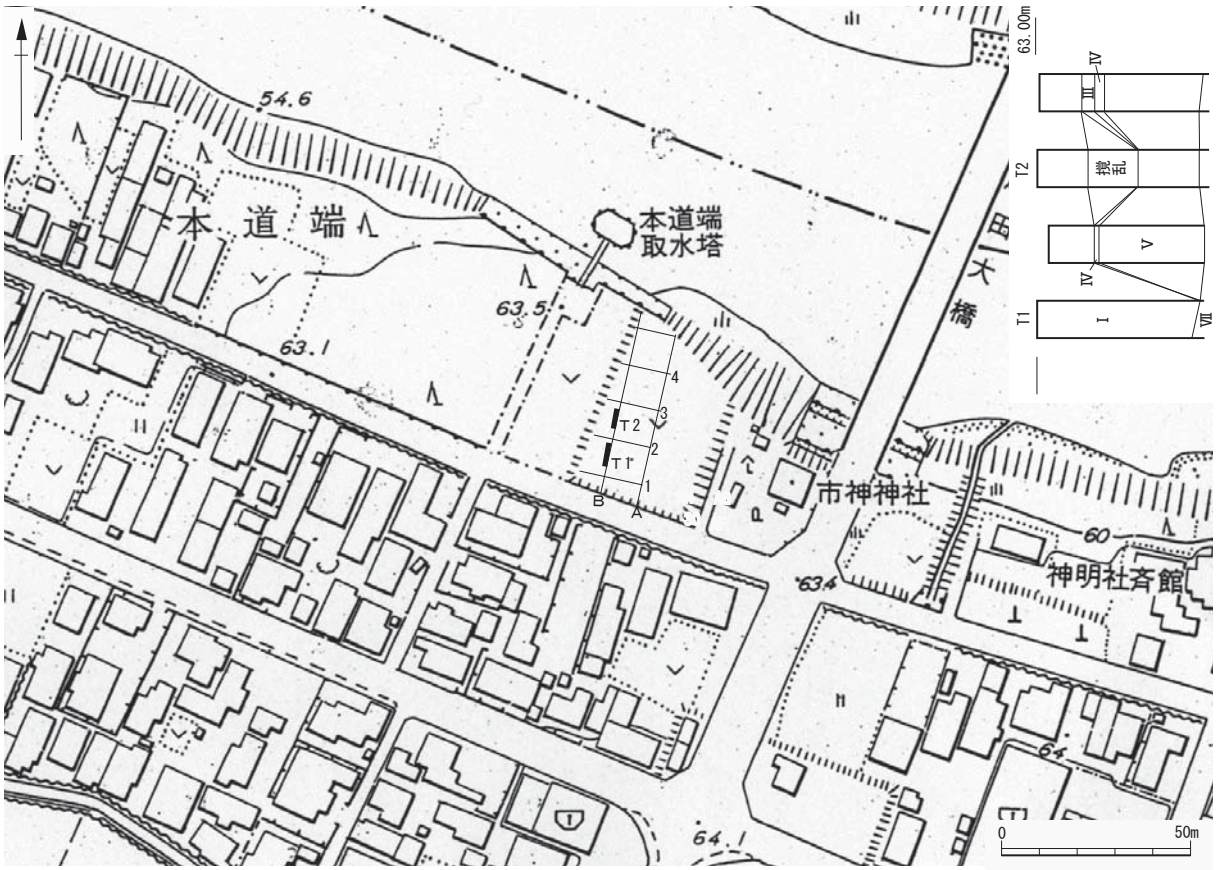


図 63　市川遺跡の調査位置図（１：2,000）と土層柱状図（１：40）

調査地全景

作業状況

Ｔ１

Ｔ２

図版 34　市川遺跡調査状況

４　八木橋古館跡隣接地（消防団車庫新築工事）

⑴　調査の経緯

比内町八木橋地区において公共事業による消防団車庫新築が計画されたことから、担当課に新築予定地が八木橋古館跡の隣接地であること、事業着手前に試掘調査を含めた事前協議の必要である旨説明した。担当課及び土地所有者の理解を得、令和３年９月に試掘調査を実施した。

⑵　遺跡の位置と周辺の環境

八木橋古館跡は、大館盆地を流下する板戸川の右岸に位置する。なお、本遺跡は「八木橋城跡」として周知資料に登載されているが、八木橋城は板戸川左岸に存在していた二つの曲輪からなる城跡を指し、現在登載されている場所は「八木橋古館跡」である（『秋田県の中世城館』秋田県教育委員会1981）。

調査地は本遺跡の東側50mほどの隣接地である。

⑶　調査の方法

調査にあたり、開発予定地内に任意のトレンチ（１m×４m）を１本設定した。トレンチの掘削は全て人力で行い、埋蔵文化財の有無等について調査した。

調査地内は削平を受けていたため、盛土の下は、基盤をなす黄褐色ローム層が堆積している。

⑷　調査の結果

トレンチ内から遺構･遺物は確認されなかった。周辺から近世の磁器染付皿を１点発見し､表採した。

調査地は、以前児童館が建っていたが、解体されて更地となっていた。そのため、全体的に撹乱された土であった。前述のように、削平を受けていたため、旧表土層以下が残存していなかった。

以上の結果から、今回の調査地内が遺跡のエリアに入るとは考えがたい。

図 64　八木橋古館跡隣接地調査位置図（1：2,000）

調査地全景

作業状況

Ｔ１

図版 35　八木橋古館跡隣接地調査状況

第４章　田代地区の調査

１　平滝Ｃ遺跡隣接地（移動通信用鉄塔施設整備事業）

⑴　調査の経緯

平滝地区において公共事業による鉄塔施設整備が計画されたことから、事業担当課に整備予定地が平滝Ｃ遺跡の隣接地であること、事業着手前に試掘調査を含めた事前協議の必要である旨説明した。事業担当課の理解を得、令和２年９月に試掘調査を実施した。

⑵　遺跡の位置と周辺の環境

平滝Ｃ遺跡は、大館市域の北西部、ＪＲ奥羽本線早口駅から北に約11㎞、平滝開拓地区の西部に位置する。早口川支流平滝沢の枝沢の上流部周辺に立地する。戦後、平滝小学校に勤務していた奥山潤氏の調査により縄文時代の遺物が発見されている。

周辺には、北約0.1㎞に平滝Ｂ遺跡、南約0.1㎞に平滝Ａ遺跡、南東約0.6㎞に平滝Ｄ遺跡、南東約0.8㎞に平滝Ｅ遺跡が分布する。

今回の調査地は平滝Ｃ遺跡の東側約200ｍの隣接地で、平滝集会所敷地内の駐車場部分に位置する。調査地の位置は、北緯40度22分23秒、東経140度26分37秒（世界測地系）で、標高は282ｍである。

⑶　調査の方法

調査トレンチは、対象範囲内に任意に設定した。トレンチは長さ４ｍ、幅１ｍの１本を設定し、掘削は全て人力で行い、基盤層である褐色シルト質土層（Ⅱ層）まで掘り下げ、遺構の有無の確認・遺物の収集等を行った。

調査地内の基本層序は、基盤をなす褐色シルト質土層上に表土（盛土）が堆積する。以下に基本層序を示す。

Ⅰ層　表土（盛土）。駐車場の砕石層。

Ⅱ層　褐色を呈するシルト質土層。

⑷　調査の結果

調査範囲内に１本のトレンチを設定して調査した。今回の調査では、遺構・遺物は確認されず、調査区全域にわたって過去の土地造成により、基盤層であるⅡ層まで削平されており、Ⅱ層に表土が堆積するだけであった。

以上の結果から、今回の調査地は埋蔵文化財包蔵地が削平により消失しているかまたは所在していないものと考えられる。

図 65　平滝Ｃ遺跡隣接地の調査位置図（1：2,000）と土層柱状図（１：40）

調査地全景

Ｔ１（北東から）

図版 36　平滝Ｃ遺跡隣接地調査状況

大 館 市 遺 跡 一 覧

- 本表は、秋田県遺跡台帳を基に作成したものである。
- 遺跡番号は、付図（大館市遺跡地図）の番号と合致する。
- 掲載した遺跡は、令和４年３月31日現在で大館地区が171遺跡、比内地区が54遺跡、田代地区が68遺跡の計293遺跡である。

表26 大館市遺跡一覧表（大館地区）

遺跡番号	名称	ﾌﾘｶﾞﾅ	所在地	時代	種別
4- 1	長走遺跡	ﾅｶﾞﾊﾞｼﾘｲｾｷ	長走字長走	縄文(中)、平安	散布地
4- 2	長走関所跡	ﾅｶﾞﾊﾞｼﾘｾｷｼｮｱﾄ	長走字長走	近世	その他(関所跡)
4- 3	松原小立遺跡	ﾏﾂﾊﾞﾗｺﾀﾞﾁｲｾｷ	白沢字松原	縄文	散布地
4- 4	矢立廃寺跡	ﾔﾀﾃﾊｲｼﾞｱﾄ	白沢字松原	縄文(中・後)、平安	社寺跡
4- 5	大館野遺跡	ｵｵﾀﾞﾃﾉｲｾｷ	白沢字白沢	縄文(中)、弥生、平安、中世、近世	集落跡
4- 6	中羽立遺跡	ﾅｶﾊﾀﾞﾁｲｾｷ	粕田字道ノ上	縄文(中・後・晩)	集落跡
4- 7	両堤遺跡	ﾘｮｳﾂﾞﾂﾐｲｾｷ	粕田字両堤	平安	散布地
4- 8	粕田遺跡	ｶｽﾀﾞｲｾｷ	花岡町字大森上岱	弥生、平安	集落跡
4- 9	白沢古館跡	ｼﾗｻﾜﾌﾙﾀﾞﾃｱﾄ	白沢字白沢	平安、中世	城館跡
4- 10	釈迦池遺跡	ｼｬｶｲｹｲｾｷ	商人留字大沢口、白沢字白沢	縄文(早・前・中・後・晩)、弥生	集落跡
4- 11	橋桁遺跡	ﾊｼｹﾞﾀｲｾｷ	橋桁字橋桁	縄文(後・晩)	散布地
4- 12	福館跡	ﾌｸﾀﾞﾃｱﾄ	釈迦内字福館	平安、中世	城館跡
4- 13	福館橋桁野遺跡	ﾌｸﾀﾞﾃﾊｼｹﾞﾀﾉｲｾｷ	釈迦内字福館、橋桁字橋桁野	縄文(前・中・晩)、平安	集落跡
4- 14	繋沢遺跡	ﾂﾅｷﾞｻﾜｲｾｷ	花岡町字繋沢	縄文	散布地
4- 15	長森遺跡	ﾅｶﾞﾓﾘｲｾｷ	花岡町字長森	平安、中世	散布地
4- 16	大吉沢遺跡	ｵｵﾖｼｻﾞﾜｲｾｷ	花岡町字大吉沢	縄文(後)	散布地
4- 17	豆岱遺跡	ﾏﾒﾀｲｲｾｷ	花岡町字根井下	縄文(前・晩)	散布地
4- 18	根井下遺跡	ﾈｲｼﾀｲｾｷ	花岡町字根井下	縄文(前)	散布地
4- 19	十三森遺跡	ｼﾞｭｳｻﾝﾓﾘｲｾｷ	花岡町字根井下	縄文(前・中・晩)、平安、中世	集落跡
4- 20	七ツ館跡	ﾅﾅﾂﾀﾞﾃｱﾄ	花岡町字七ツ館	縄文(晩)、平安、中世	散布地、城館跡
4- 21	花岡城跡・神山遺跡	ﾊﾅｵｶｼﾞｮｳｱﾄ・ｶﾐﾔﾏｲｾｷ	花岡町字神山、字アセ石	平安、中世	集落跡、城館跡
4- 22	狼穴遺跡	ｵｵｶﾐﾅｲｾｷ	釈迦内字狼穴	縄文(前)、平安	散布地
4- 23	釈迦内中台Ⅰ遺跡	ｼｬｶﾅｲﾅｶﾀﾞｲｲﾁｲｾｷ	釈迦内字中台	縄文(早・前・後)、弥生、平安、近世	集落跡
4- 24	釈迦内中台Ⅱ遺跡	ｼｬｶﾅｲﾅｶﾀﾞｲﾆｲｾｷ	釈迦内字中台	縄文、平安	散布地
4- 25	釈迦内古館跡	ｼｬｶﾅｲﾌﾙﾀﾞﾃｱﾄ	釈迦内字釈迦内	中世	城館跡
4- 26	釈迦内館跡	ｼｬｶﾅｲﾀﾞﾃｱﾄ	釈迦内字館	中世	城館跡
4- 27	松峰遺跡	ﾏﾂﾐﾈｲｾｷ	松峰字仁王田	平安、中世	集落跡
4- 28	大山板碑	ｵｵﾔﾏﾀﾋﾞ	松峰字土滝	中世	その他(板碑)
4- 29	高館跡	ﾀｶﾀﾞﾃｱﾄ	松木字高館平	中世	城館跡
4- 30	松木高館平遺跡	ﾏﾂｷﾀｶﾀﾞﾃﾀｲﾗｲｾｷ	松木字高館平	旧石器	散布地
4- 31	松木遺跡	ﾏﾂｷｲｾｷ	松木字家後	縄文(前)	散布地
4- 32	鍛冶屋敷遺跡	ｶｼﾞﾔｼｷｲｾｷ	沼館字鍛冶屋敷	縄文(早・前・中・後)、平安、中世	集落跡
4- 33	下堤沢遺跡	ｼﾓﾂﾂﾐｻﾞﾜｲｾｷ	沼館字下堤沢	平安	散布地
4- 34	沼館跡	ﾇﾏﾀﾞﾃｱﾄ	沼館字細越	平安、中世	城館跡
4- 35	赤石沢Ⅰ遺跡	ｱｶｲｼｻﾞﾜｲﾁｲｾｷ	川口字上赤石沢	縄文	散布地
4- 36	赤石沢Ⅱ遺跡	ｱｶｲｼｻﾞﾜﾆｲｾｷ	沼館	縄文	散布地
4- 37	長瀞Ⅱ遺跡	ﾅｶﾞﾄﾛﾆｲｾｷ	沼館字長瀞、川口字下赤石沢	縄文	散布地
4- 38	長瀞Ⅰ遺跡	ﾅｶﾞﾄﾛｲﾁｲｾｷ	沼館字長瀞	縄文(中・後・晩)	散布地
4- 39	押館跡	ｵｼﾀﾞﾃｱﾄ	川口字十三森	中世	城館跡
4- 40	下川沿遺跡	ｼﾓｶﾜｿﾞｲｲｾｷ	川口字隼人岱	不明	散布地
4- 41	鳴滝遺跡	ﾅﾙﾀｷｲｾｷ	川口字下鳴滝台	縄文(中・後・晩)、弥生	集落跡
4- 42	川口館跡	ｶﾜｸﾞﾁﾀﾞﾃｱﾄ	川口字長里	中世	城館跡
4- 43	餅田屋敷添遺跡	ﾓﾁﾀﾔｼｷｿﾞｴｲｾｷ	餅田二丁目	縄文(前)	散布地
4- 44	片山館コ遺跡	ｶﾀﾔﾏﾀﾃｺｲｾｷ	片山町三丁目	続縄文、中世	集落跡、城館跡
4- 45	土飛山館跡	ﾄﾞﾋﾞﾔﾏﾀﾃﾃｱﾄ	豊町、幸町	縄文、平安、中世	集落跡、城館跡
4- 46	大館城跡	ｵｵﾀﾞﾃｼﾞｮｳｱﾄ	字中城、字三ノ丸、字桂城、字長倉、字上町	中世	城館跡
4- 47	金坂遺跡	ｶﾈｻｶｲｾｷ	字金坂	平安、中世、近世	集落跡
4- 48	青嵐亭跡	ｾｲﾗﾝﾃｲｼ	東字山屋布下	近世	その他(庭園跡)
4- 49	芦田子上岱遺跡	ｱｼﾀﾞｺｳﾀｲｲｾｷ	芦田子字上岱	縄文(前)、平安	散布地
4- 50	大茂内遺跡	ｵｵｼﾀﾞｹﾅｲｲｾｷ	大茂内字諏訪台	縄文(前・中)	散布地
4- 51	諏訪台遺跡	ｽﾜﾀﾞｲｲｾｷ	大茂内字諏訪台	縄文(前・中・後・晩)、弥生、平安	集落跡
4- 52	小茂内沢遺跡	ｺｼﾀﾞｹﾅｲｻﾞﾜｲｾｷ	大茂内字上瘤木台	縄文	散布地
4- 53	塚ノ下遺跡	ﾂｶﾉｼﾀｲｾｷ	大茂内字塚下	縄文(後)、平安	集落跡
4- 54	茂内遺跡	ｼｹﾞﾅｲｲｾｷ	茂内字膳棚下	縄文(前)	散布地
4- 55	鬼ヶ城跡	ｵﾆｶﾞｼﾞｮｳｱﾄ	茂内字鬼ヶ台	中世	城館跡
4- 56	玉林寺跡	ｷﾞｮｸﾘﾝｼﾞｼ	茂内字鬼ヶ台	縄文(中)、中世	集落跡、社寺跡
4- 57	小雪沢遺跡	ｺｺﾖｷｻﾜｲｾｷ	雪沢字小雪沢	縄文(晩)	散布地
4- 58	芋ヶ岱遺跡	ｲﾓｶﾞﾀｲｲｾｷ	雪沢字蕷ヶ岱	縄文(晩)	散布地
4- 59	水沢館跡	ﾐｽﾞｻﾜﾀﾞﾃｱﾄ	雪沢字水沢谷地	縄文、平安、中世	城館跡
4- 60	茂内屋敷遺跡	ｼｹﾞﾅｲﾔｼｷｲｾｷ	雪沢字茂内屋布	縄文(前・中)	散布地
4- 61	境塚	ｻｶｲﾂﾞｶ	雪沢字小鯰沢	近世	その他(境塚)
4- 62	稲荷中岱遺跡	ｲﾅﾘﾅｶﾀｲｲｾｷ	北神明町	平安、中世	散布地
4- 63	太平山遺跡	ﾀｲﾍｲｻﾞﾝｲｾｷ	中神明町	縄文(晩)	散布地
4- 64	小館花館跡	ｺﾀﾞﾃﾊﾅﾀﾞﾃﾃｱﾄ	小館町	中世	城館跡
4- 65	扇田道下遺跡	ｵｳｷﾞﾀﾐﾁｼﾀｲｾｷ	字扇田道下	縄文(中・後)、平安	集落跡
4- 66	萩ノ台Ⅰ遺跡	ﾊｷﾞﾉﾀﾞｲｲﾁｲｾｷ	小館花字萩野台	縄文(中・後)	散布地
4- 67	萩ノ台Ⅱ遺跡	ﾊｷﾞﾉﾀﾞｲﾆｲｾｷ	小館花字萩野台	縄文(前・中・後)	集落跡
4- 68	池内遺跡	ｲｹﾅｲｲｾｷ	池内字上野	縄文(前・中・後)、弥生、平安	集落跡
4- 69	餌釣館跡	ｴｻﾘﾀﾞﾃﾃｱﾄ	餌釣字山王岱、柄沢字山王台	縄文(前・中・後・晩)、平安、中世、近世	集落跡、城館跡
4- 70	山館跡	ﾔﾏﾀﾞﾃﾃｱﾄ	山館字館ノ上	平安・中世	城館跡
4- 71	山館上ノ山遺跡	ﾔﾏﾀﾞﾃｶﾐﾉﾔﾏｲｾｷ	山館字上ノ山	縄文(早・前・中・後・晩)、弥生、平安	集落跡
4- 72	竜毛岱遺跡	ﾘｭｳｶﾞﾀｲｲｾｷ	中山字竜毛岱	縄文(中・後)・平安	散布地
4- 73	兎沢遺跡	ﾄｻﾞﾜｲｾｷ	中山字兎沢	縄文	散布地
4- 74	寒沢遺跡	ｻﾋﾞｻﾞﾜｲｾｷ	中山字寒沢	縄文(早・中・後)	集落跡
4- 75	冷水山根遺跡	ﾋﾔﾐｽﾞﾔﾏﾈｲｾｷ	曲田字冷水山根	縄文(前・中・後・晩)	集落跡
4- 76	野沢岱Ⅰ遺跡	ﾉｻﾞﾜﾀｲﾁｲｾｷ	曲田字野沢岱	縄文(早・前)	散布地
4- 77	野沢岱Ⅱ遺跡	ﾉｻﾞﾜﾀｲﾆｲｾｷ	曲田字野沢岱	縄文(中)	散布地
4- 78	野沢岱Ⅲ遺跡	ﾉｻﾞﾜﾀｲｻﾝｲｾｷ	曲田字野沢岱	縄文(早・前・中・後)	集落跡
4- 79	野沢岱Ⅳ遺跡	ﾉｻﾞﾜﾀｲﾖﾝｲｾｷ	曲田字野沢岱	縄文、平安	散布地
4- 80	下聖遺跡	ｼﾓﾋｼﾞﾘｲｾｷ	曲田字下聖	縄文(前・中・後)	散布地

遺跡番号	名称	ﾌﾘｶﾞﾅ	所在地	時代	種別
4- 81	萩峠遺跡	ﾊｷﾞﾄｳｹﾞｲｾｷ	軽井沢字萩峠、沼ノ岱	縄文(後)、平安、中世	集落跡、城館跡
4- 82	軽井沢新館跡	ｶﾙｲｻﾞﾜｼﾝﾀﾞﾃｱﾄ	猿間	平安、中世	散布地
4- 83	葛原館跡	ｸｽﾞﾜﾗﾀﾃｱﾄ	葛原字古館、字堀間、字狐森、字膳棚、谷地頭	平安、中世	城館跡
4- 84	竹林遺跡	ﾀｹﾊﾞﾔｼｲｾｷ	葛原字竹林	縄文(前・中)	散布地
4- 85	漆畑遺跡	ｳﾙｼﾊﾞﾀｲｾｷ	葛原字漆畑	縄文(前・中)	散布地
4- 86	根小屋遺跡	ﾈｺﾞﾔｲｾｷ	葛原字根小屋	縄文	散布地
4- 87	柳堆遺跡	ﾔﾅｷﾞﾀｲｲｾｷ	葛原字柳堆	縄文(前・中)	散布地
4- 88	高梨子遺跡	ﾀｶﾅｼｲｾｷ	十二所字高梨子	縄文(前)	散布地
4- 89	別所館跡	ﾍﾞｯｼｮﾀﾞﾃｱﾄ	十二所字一ノ地	中世	城館跡
4- 90	十二所古館跡	ｼﾞｭｳﾆｼｮﾌﾙﾀﾞﾃｱﾄ	十二所字田町、字中藤原	中世	城館跡
4- 91	十二所城跡	ｼﾞｭｳﾆｼｮｼﾞｮｳｱﾄ	十二所字元館	平安、中世、近世	城館跡
4- 92	大滝古館跡	ｵｵﾀｷﾌﾙﾀﾞﾃｱﾄ	十二所字古館	平安、中世	集落跡、城館跡
4- 93	陳場岱遺跡	ｼﾞﾝﾊﾞﾀｲｲｾｷ	道目木字陣場岱	平安	散布地
4- 94	二井田館跡	ﾆｲﾀﾞﾀﾞﾃｱﾄ	二井田字館、字贄ノ里	中世、近世	城館跡
4- 95	けら木森一里塚	ｹﾗｷﾓﾘｲﾁﾘﾂﾞｶ	二井田字ケラキ森	近世	その他(一里塚)
4- 96	バッコ沢遺跡	ﾊﾞｯｺｻﾞﾜｲｾｷ	本宮字ハッコ沢	縄文(中・晩)	散布地
4- 97	本宮館跡	ﾓﾄﾐﾔﾀﾞﾃｱﾄ	本宮字熊ノ下	中世	城館跡
4- 98	本宮寺ノ沢遺跡	ﾓﾄﾐﾔﾃﾗﾉｻﾜｲｾｷ	本宮字寺ノ沢	平安	散布地
4- 99	本宮上ノ山遺跡	ﾓﾄﾐﾔｶﾐﾉﾔﾏｲｾｷ	本宮字上ノ山、字善知鳥坂	縄文、平安、中世、近世	散布地、城館跡
4- 100	本宮中台遺跡	ﾓﾄﾐﾔﾅｶﾀﾞｲｲｾｷ	本宮字中台、字下モ野	縄文	散布地
4- 101	下野遺跡	ｼﾓﾉｲｾｷ	本宮字下モ野	縄文(後・晩)	散布地
4- 102	前田館跡	ﾏｴﾀﾞﾀﾃｱﾄ	比内前田字前田山根、字桂清水下	平安、中世	城館跡
4- 103	杉沢館跡	ｽｷﾞｻﾜﾀﾞﾃｱﾄ	杉沢字姥沢出口、字屋布	中世	城館跡
4- 104	薬師岱遺跡	ﾔｸｼﾀｲｲｾｷ	杉沢字薬師岱、字中大杉沢	平安	散布地
4- 105	大子内館跡	ｵｵｼﾅｲﾀﾃｱﾄ	大子内字三ツ梨	中世	城館跡
4- 106	林ノ上遺跡	ﾊﾔｼﾉｳｴｲｾｷ	大子内字林ノ上	縄文	散布地
4- 107	曲沢遺跡	ﾏｶﾞﾘｻﾜｲｾｷ	大披字開ノ沢、字森腰	縄文	散布地
4- 108	大披館跡	ｵｵﾋﾞﾗｷﾀﾃｱﾄ	大披字大披	中世	城館跡
4- 109	櫃崎館跡	ﾋﾂｻﾞｷﾀﾞﾃｱﾄ	櫃崎字館宅地	中世	城館跡
4- 110	高戸谷館跡	ﾀｶﾄﾞﾔﾀﾃｱﾄ	赤石字上坂上、櫃崎字高戸屋宅地	平安、中世	城館跡
4- 111	赤石館跡	ｱｶｲｼﾀﾞﾃｱﾄ	赤石字屋敷、字堤沢岱	中世	城館跡
4- 112	板沢一里塚	ｲﾀｻﾞﾜｲﾁﾘﾂﾞｶ	板沢字狐台、字乙上野	近世	その他(一里塚)
4- 113	板沢遺跡	ｲﾀｻﾞﾜｲｾｷ	板沢字甲上野	平安、中世	散布地
4- 114	山根岱遺跡	ﾔﾏﾈﾀｲｲｾｷ	小袴字山根台	縄文	散布地
4- 115	大平下遺跡	ﾀｲﾍｲｼﾀｲｾｷ	雪沢字大平下	縄文(前)	散布地
4- 116	石淵遺跡	ｲｼﾌﾞﾁｲｾｷ	雪沢字石渕	縄文(中)	散布地
4- 117	石淵上岱遺跡	ｲｼﾌﾞﾁｶﾐﾀｲｲｾｷ	雪沢字石渕上岱	縄文	散布地
4- 118	宮袋遺跡	ﾐﾔﾌｸﾛｲｾｷ	東字宮袋	縄文(晩)	散布地
4- 119	山崎遺跡	ﾔﾏｻﾞｷｲｾｷ	軽井沢字山崎	平安	散布地
4- 120	沢口遺跡	ｻﾜｸﾞﾁｲｾｷ	曲田字沢口、字山田堤	縄文(後)、弥生	散布地
4- 121	鳶ヶ長根Ⅱ遺跡	ﾄﾋﾞｶﾞﾅｶﾞﾈﾆｲｾｷ	軽井沢字鳶ヶ長根、字五輪岱	縄文(晩)	集落跡
4- 122	鳶ヶ長根Ⅲ遺跡	ﾄﾋﾞｶﾞﾅｶﾞﾈｻﾝｲｾｷ	軽井沢字鳶ヶ長根、字五輪岱	縄文(早・晩)	集落跡
4- 123	鳶ヶ長根Ⅳ遺跡	ﾄﾋﾞｶﾞﾅｶﾞﾈﾖﾝｲｾｷ	軽井沢字鳶ヶ長根、字五輪岱	縄文(早・前・後・晩)、弥生	集落跡
4- 124	岩神遺跡	ｲﾜｶﾞﾐｲｾｷ	字東台、東字岩神、字岩ノ下	縄文(晩)	散布地
4- 125	芋堀沢遺跡	ｲﾓﾎﾘｻﾞﾜｲｾｷ	餅田二丁目、櫃崎字土貝	縄文(前・中)	その他の墓、散布地
4- 126	根下戸道下遺跡	ﾈｹﾞﾄﾐﾁｼﾀｲｾｷ	根下戸新町	縄文(早・前・後・晩)、平安	集落跡、その他(狩猟場跡)
4- 127	長走風穴高山植物群落	ﾅｶﾞﾊﾞｼﾘﾌｳｹﾂｺｳｻﾞﾝｼｮｸﾌﾞﾂｸﾞﾝﾗｸ	長走字長走		その他(天然記念物)
4- 128	ザリガニ生息地	ｻﾞﾘｶﾞﾆｾｲｿｸﾁ	字桜町南、字池内道下		その他(天然記念物)
4- 129	芝谷地湿原植物群落	ｼﾊﾞﾔﾁﾂﾂﾞﾝｼｮｸﾌﾞﾂｸﾞﾝﾗｸ	釈迦内字ヲコハ		その他(天然記念物)
4- 130	道目木遺跡	ﾄﾞｳﾒｷｲｾｷ	道目木字中谷地	縄文、平安	その他(埋没家屋)
4- 131	根下戸Ⅰ遺跡	ﾈｹﾞﾄｲﾁｲｾｷ	根下戸新町	縄文(前)・中世	集落跡
4- 132	根下戸Ⅱ遺跡	ﾈｹﾞﾄﾆｲｾｷ	根下戸新町	縄文(前)、近世	その他(狩猟場跡)
4- 133	根下戸Ⅲ遺跡	ﾈｹﾞﾄｻﾝｲｾｷ	根下戸新町	縄文(前)、平安、近世	集落跡、生産遺跡
4- 134	二ツ森Ⅱ遺跡	ﾌﾀﾂﾓﾘﾆｲｾｷ	釈迦内字二ツ森	縄文(前)、弥生	散布地
4- 135	狼穴Ⅱ遺跡	ｵｵｶﾐｱﾅﾆｲｾｷ	釈迦内字狼穴	縄文(前)・平安	集落跡
4- 136	狼穴Ⅲ遺跡	ｵｵｶﾐｱﾅｻﾝｲｾｷ	釈迦内字狼穴	縄文(早・前・中・後)、弥生、平安、近世	集落跡
4- 137	狼穴Ⅳ遺跡	ｵｵｶﾐｱﾅﾖﾝｲｾｷ	釈迦内字狼穴	縄文、弥生、平安	集落跡
4- 138	二ツ森遺跡	ﾌﾀﾂﾓﾘｲｾｷ	釈迦内字二ツ森	縄文・平安	散布地
4- 139	福館Ⅱ遺跡	ﾌｸﾀﾞﾃﾆｲｾｷ	釈迦内字福館	平安	散布地
4- 140	扇田道上遺跡	ｵｳｷﾞﾀﾐﾁｳｴｲｾｷ	東台三丁目	縄文(後)、平安	散布地
4- 141	小館町遺跡	ｺﾀﾃﾁｮｳｲｾｷ	小館町	縄文(前)、平安	散布地
4- 142	蛇沢口遺跡	ﾍﾋﾞｻﾜｸﾞﾁｲｾｷ	茂内字蛇沢口、字膳棚下	縄文、平安	散布地
4- 143	諏訪台Ｄ遺跡	ｽﾜﾀﾞｲﾃﾞｨｰｲｾｷ	大茂内字諏訪台	縄文(早・前・中・後)、弥生	散布地
4- 144	餌釣遺跡	ｴﾂﾘｲｾｷ	餌釣字館	縄文(中)、平安、中世	城館跡、集落跡
4- 145	上野遺跡	ｳﾜﾉｲｾｷ	池内字上野	縄文(中)、平安	集落跡
4- 146	上聖遺跡	ｶﾐﾋｼﾞﾘｲｾｷ	曲田字上聖	縄文	集落跡
4- 147	家ノ後遺跡	ｲｴﾉｳｼｮｲｾｷ	曲田字家ノ後	縄文(後・晩)	集落跡、その他の墓
4- 148	寒沢Ⅱ遺跡	ｻﾋﾞｻﾞﾜﾆｲｾｷ	中山字寒沢	縄文(前・中・後)	集落跡
4- 149	中山遺跡	ﾅｶﾔﾏｲｾｷ	中山字中山	縄文(前・中・後)、弥生、平安	集落跡
4- 150	陳場岱Ⅱ遺跡	ｼﾞﾝﾊﾞﾀｲﾆｲｾｷ	道目木字陣場岱	縄文(後)、平安	集落跡
4- 151	谷地中遺跡	ﾔﾁﾅｶｲｾｷ	商人留字谷地中	縄文(早・前・後・晩)	集落跡、その他の墓
4- 152	田ノ沢山遺跡	ﾀﾉｻﾜﾔﾏｲｾｷ	商人留字田ノ沢	縄文(前・中・晩)、中世	集落跡
4- 153	野崎遺跡	ﾉｻﾞｷｲｾｷ	商人留字野崎	縄文(早・前・中・後)、平安、中世	集落跡
4- 154	田ノ沢遺跡	ﾀﾉｻﾜｲｾｷ	商人留字田ノ沢	縄文(前)	散布地
4- 155	男神遺跡	ｵｶﾞﾐｲｾｷ	粕田字男神	縄文(前・中・後)、弥生	集落跡
4- 156	坂下Ⅰ遺跡	ｻｶｼﾀｲﾁｲｾｷ	商人留字坂下	不明	集落跡
4- 157	坂下Ⅱ遺跡	ｻｶｼﾀﾆｲｾｷ	商人留字坂下	縄文(早・前・後)、平安	散布地
4- 158	栗木山遺跡	ｸﾘｷﾔﾏｲｾｷ	川口字栗木山	縄文(前・中・後)、平安	散布地
4- 159	繋沢Ⅱ遺跡	ﾂﾅｷﾞｻﾜﾆｲｾｷ	花岡町字繋沢	縄文(晩)	散布地
4- 160	和台Ⅰ遺跡	ﾜﾀﾞｲｲﾁｲｾｷ	道目木	縄文、平安	散布地
4- 161	和台Ⅱ遺跡	ﾜﾀﾞｲﾆｲｾｷ	道目木	縄文(中)	散布地

遺跡番号	名称	ﾌﾘｶﾞﾅ	所在地	時代	種別
4- 162	茂内屋敷Ⅱ遺跡	ｼｹﾞﾅｲﾔｼｷﾆｲｾｷ	雪沢字茂内屋布	縄文(前)	散布地
4- 163	茂木屋敷跡	ﾓﾃｷﾞﾔｼｷｱﾄ	十二所字元館、字中町	近世	屋敷跡
4- 164	下野Ⅱ遺跡	ｼﾓﾉﾆｲｾｷ	本宮字下モ野	縄文(早・前・中・後・晩)、平安、中世	集落跡
4- 165	堂ノ沢遺跡	ﾄﾞｳﾉｻﾜｲｾｷ	大子内字堂ノ沢	縄文(早・前・中・後・晩)、弥生	集落跡
4- 166	川口十三森遺跡	ｶﾜｸﾞﾁｼﾞｭｳｻﾝﾓﾘｲｾｷ	川口字十三森	縄文(早・前・後・晩)、続縄文、奈良	集落跡
4- 167	松峰山信仰遺跡群	ﾏﾂﾐﾈｻﾝｼﾝｺｳｲｾｷｸﾞﾝ	松峰字大山、外	平安、近世	社寺跡
4- 168	沢口Ⅱ遺跡	ｻﾜｸﾞﾁﾆｲｾｷ	曲田字沢口	縄文	散布地
4- 169	陣場遺跡	ｼﾞﾝﾊﾞｲｾｷ	長走字陣場	縄文(中・後)	散布地
4- 170	大森野遺跡	ｵｵﾓﾘﾉｲｾｷ	花岡町字大森野	縄文(前)、平安	散布地
4- 171	萩長森下遺跡	ﾊｷﾞﾅｶﾞﾓﾘｼﾀｲｾｷ	釈迦内字萩長森下	縄文(前・後)、続縄文、弥生、平安	散布地

表27　大館市遺跡一覧表（比内地区）

遺跡番号	名称	ﾌﾘｶﾞﾅ	所在地	時代	種別
12- 1	弟沢遺跡	ｵﾝﾞｻﾜｲｾｷ	比内町大葛字弟ヶ沢	縄文(前・中)	散布地
12- 2	休間口遺跡	ﾔｽﾏｸﾞﾁｲｾｷ	比内町大葛字休間内沢	縄文	散布地
12- 3	雪沢口遺跡	ﾕｷｻﾜｸﾞﾁｲｾｷ	比内町大葛字雪沢	縄文(後)	散布地
12- 4	千年岱遺跡	ｾﾝﾈﾝﾀｲｲｾｷ	比内町大葛字千年岱	縄文(前・中)	散布地
12- 5	楽森遺跡	ｶﾞｸﾓﾘｲｾｷ	比内町独鈷字日詰坂下	縄文(後)	散布地
12- 6	独鈷遺跡	ﾄｯｺｲｾｷ	比内町独鈷字大日堂前	縄文(中)	散布地
12- 7	大日堂前遺跡	ﾀﾞｲﾆﾁﾄﾞｳﾏｴｲｾｷ	比内町独鈷字大日堂前	縄文(中・後・晩)、平安	集落跡
12- 8	十狐城跡	ﾄｯｺｼﾞｮｳｱﾄ	比内町独鈷字館間	平安、中世	城館跡
12- 9	珠数掛遺跡	ｼﾞｭｽﾞｶﾞｹｲｾｷ	比内町独鈷字珠数掛	縄文(中・晩)、平安	散布地
12- 10	味噌内遺跡	ﾐｿﾅｲｲｾｷ	比内町味噌内字下台	縄文(後)	散布地
12- 11	宿内中岱遺跡	ｼｭｸﾅｲﾅｶﾀｲｲｾｷ	比内町味噌内字宿内中岱	縄文(前・後)	散布地
12- 12	袖ノ沢遺跡	ｿﾃﾞﾉｻﾜｲｾｷ	比内町味噌内字宿内袖ノ沢	平安	集落跡
12- 13	横沢遺跡	ﾖｺｻﾜｲｾｷ	比内町扇田字横沢	縄文(早・中)、平安	集落跡
12- 14	大岱遺跡	ｵｵﾀｲｲｾｷ	比内町扇田字南大岱	縄文(前)、平安	散布地
12- 15	横沢Ⅱ遺跡	ﾖｺｻﾜﾆｲｾｷ	比内町扇田字横沢	縄文(前)、平安	散布地
12- 16	真館跡	ｼﾝﾀﾞﾃﾞﾄ	比内町新館字真館	平安、中世	城館跡
12- 17	長岡城跡	ﾅｶﾞｵｶｼﾞｮｳｱﾄ	比内町扇田字長岡	弥生、平安、中世	城館跡
12- 18	市川遺跡	ｲﾁｶﾜｲｾｷ	比内町扇田字本道端	平安	散布地
12- 19	本道端遺跡	ﾎﾝﾄﾞｳﾊﾞﾀｲｾｷ	比内町扇田字本道端	縄文(早・前・中・晩)	集落跡
12- 20	中野八幡台館跡	ﾅｶﾉﾊﾁﾏﾝﾀﾞｲﾀﾃｱﾄ	比内町中野字八幡台	平安	城館跡
12- 21	中野城跡	ﾅｶﾉｼﾞｮｳｱﾄ	比内町中野字八幡館	平安、中世	城館跡
12- 22	長内沢遺跡	ｵｻﾅｲｻﾞﾜｲｾｷ	比内町中野字下長内沢	縄文(前)	散布地
12- 23	小堤遺跡	ｺﾂﾞﾂﾐｲｾｷ	比内町笹館字小堤	縄文	散布地
12- 24	谷地中館跡	ﾔﾁﾅｶﾀﾃｱﾄ	比内町谷地中字中坪	縄文(前・後・晩)、平安、中世	城館跡
12- 25	細越遺跡	ﾎｿｺﾞｴｲｾｷ	比内町笹館字細越	平安	集落跡
12- 26	笹館城跡	ｻｻﾀﾞﾃｼﾞｮｳｱﾄ	比内町笹館字笹館、字前田野、字水無、字小森山、達子字曲谷地	縄文、平安、中世	城館跡
12- 27	片貝遺跡	ｶﾀｶｲｲｾｷ	比内町片貝字伊勢堂北	縄文(晩)、平安	散布地、集落跡
12- 28	二ツ森遺跡	ﾌﾀﾂﾓﾘｲｾｷ	比内町片貝字二ツ森	縄文(晩)	散布地
12- 29	寺崎Ⅰ遺跡	ﾃﾗｻﾞｷｲﾁｲｾｷ	比内町八木橋字寺崎	縄文(晩)	散布地
12- 30	寺崎Ⅱ遺跡	ﾃﾗｻﾞｷﾆｲｾｷ	比内町八木橋字竹原	縄文(晩)	散布地
12- 31	五輪台Ⅰ遺跡	ｺﾞﾘﾝﾀﾞｲｲﾁｲｾｷ	比内町八木橋字平馬	縄文(晩)	散布地
12- 32	五輪台Ⅱ遺跡	ｺﾞﾘﾝﾀﾞｲﾆｲｾｷ	比内町八木橋字五輪台	縄文(晩)	散布地
12- 33	八木橋城跡	ﾔｷﾞﾊｼｼﾞｮｳｱﾄ	比内町八木橋字八木橋	平安、中世	城館跡
12- 34	一通遺跡	ｲｯﾄｵﾘｲｾｷ	比内町八木橋字一通	縄文(晩)	散布地
12- 35	畑沢遺跡	ﾊﾀｹｻﾜｲｾｷ	比内町八木橋字畠沢岱	縄文(晩)	散布地
12- 36	水無遺跡	ﾐｽﾞﾅｼｲｾｷ	比内町笹館字水無	縄文	散布地
12- 37	二ツ森Ⅱ遺跡	ﾌﾀﾂﾓﾘﾆｲｾｷ	比内町片貝字二ツ森	縄文	集落跡
12- 38	前田野遺跡	ﾏｴﾀﾞﾉｲｾｷ	比内町笹館字前田野	縄文	散布地
12- 39	野中台館跡	ﾉﾅｶﾀﾞｲﾀﾃｱﾄ	比内町大葛字小栩沢	中世	城館跡
12- 40	いち館遺跡	ｲﾁﾀﾞﾃﾞﾄ	比内町大葛字家後山根	中世	城館跡
12- 41	六郎館跡	ﾛｸﾛｳﾀﾞﾃﾞｱﾄ	比内町大葛	中世	城館跡
12- 42	わかさ館跡	ﾜｶｻﾀﾞﾃﾞﾄ	比内町大葛字森合下家下	中世	城館跡
12- 43	森合館跡	ﾓﾘｱｲﾀﾞﾃﾞｱﾄ	比内町大葛字森合下家下、字上森合、字森合	平安、中世	城館跡
12- 44	長部館跡	ｵｻﾍﾞﾀﾞﾃﾞｱﾄ	比内町大葛字中山堀通	中世	城館跡
12- 45	館の沢館跡	ﾀﾃﾉｻﾜﾀﾞﾃﾞｱﾄ	比内町大葛字長部	中世	城館跡
12- 46	中野上真山遺跡	ﾅｶﾉｶﾐｼﾝｻﾞﾝｲｾｷ	比内町中野字上真山、字上五日市	平安	散布地
12- 47	休間内沢口遺跡	ﾔｽﾏﾅｲｻﾜｸﾞﾁｲｾｷ	比内町大葛字休間内沢口	縄文(後)	散布地
12- 48	只越下遺跡	ﾀﾀﾞｺﾞｴｼﾀｲｾｷ	比内町味噌内字只越下	平安	集落跡
12- 49	味噌内館下遺跡	ﾐｿﾅｲﾀﾃﾉｼﾀｲｾｷ	比内町味噌内字館下	平安、近世	集落跡
12- 50	鎌谷地沢遺跡	ｶﾏﾔﾁｻﾞﾜｲｾｷ	比内町八木橋字鎌谷地沢	縄文(後)	その他(狩猟場)
12- 51	畑沢Ⅱ遺跡	ﾊﾀｹｻﾜﾆｲｾｷ	比内町八木橋字畠沢岱	平安	散布地
12- 52	真館Ⅱ遺跡	ｼﾝﾀﾞﾃﾆｲｾｷ	比内町新館字真館	縄文(後)、平安	集落跡
13- 53	真館Ⅲ遺跡	ｼﾝﾀﾞﾃｻﾝｲｾｷ	比内町新館字真館	平安	散布地
13- 54	片貝家ノ下遺跡	ｶﾀｶｲｲｴﾉｼﾀｲｾｷ	比内町片貝字家ノ下	平安	集落跡

表28 大館市遺跡一覧表（田代地区）

遺跡番号	名称	ﾌﾘｶﾞﾅ	所在地	時代	種別
15- 1	二子山Ⅰ遺跡	ﾌﾀｺﾞﾔﾏｲﾁｲｾｷ	早口字森下	縄文	散布地
15- 2	二子山Ⅱ遺跡	ﾌﾀｺﾞﾔﾏﾆｲｾｷ	早口字程平	縄文	散布地
15- 3	赤川遺跡	ｱｶｶﾞﾜｲｾｷ	岩瀬字赤川	縄文(前)	散布地
15- 4	茂屋下岱遺跡	ﾓﾔﾝﾀﾀｲｲｾｷ	山田字茂屋下羽立	縄文(前)	散布地
15- 5	中仕田遺跡	ﾅｶｼﾀﾞｲｾｷ	早口字金堀沢	縄文	散布地
15- 6	上茂屋遺跡	ｶﾐﾓﾔｲｾｷ	山田字茂屋相善岱、字茂屋上悪戸	縄文	散布地
15- 7	田茂の木遺跡	ﾀﾓﾉｷｲｾｷ	岩瀬字越山向岱	縄文(前・中・後)	散布地
15- 8	柏木遺跡	ｶｼﾜｷﾞｲｾｷ	山田字柏木、字下柏木岱	縄文(中・後)、弥生	集落跡、その他の墓
15- 9	茂屋東遺跡	ﾓﾔﾋｶﾞｼｲｾｷ	山田字茂屋上羽立	縄文(前)	散布地
15- 10	岩瀬鉄橋畔遺跡	ｲﾜｾﾃｯｷｮｳﾊﾞﾀｲｾｷ	岩瀬字五味	縄文(晩)	集落跡
15- 11	下館跡	ｼﾓﾀﾞﾃﾞﾄ	山田字下館務沢	中世	城館跡
15- 12	矢石館遺跡	ﾔｲｼﾀﾞﾃｲｾｷ	早口字矢石館	縄文(晩)、平安	その他の墓
15- 13	大岱遺跡	ｵｵﾀｲｲｾｷ	早口字大岱、字稲荷後岱	縄文(中・後)	その他の墓
15- 14	長坂円学遺跡	ﾅｶﾞｻｶｴﾝｶﾞｸｲｾｷ	長坂字円学	縄文	散布地
15- 15	長坂塚の岱遺跡	ﾅｶﾞｻｶﾂｶﾉﾀｲｲｾｷ	長坂字塚の岱	縄文	散布地
15- 16	大岱地森岱遺跡	ｵｵﾀｲﾁﾓﾘﾀｲｲｾｷ	早口字大岱、字地森岱	縄文(中)、平安	散布地
15- 17	越山薬師堂下遺跡	ｺｼﾔﾏﾔｸｼﾄﾞｳｼﾀｲｾｷ	岩瀬字山神堂下	縄文(中)	散布地
15- 18	越山館跡	ｺｼﾔﾏﾀﾃﾞﾄ	岩瀬字山神堂下	中世	城館跡
15- 19	野突館跡	ﾉﾂﾞｷﾀﾞﾃﾞﾄ	山田字野月	平安、中世	城館跡
15- 20	山田館跡	ﾔﾏﾀﾞﾃﾞﾄ	山田字山田、字向館	中世	城館跡
15- 21	向家下館跡	ﾑｶｲｴｼﾀﾀﾞﾃﾞﾄ	山田字向家下	縄文、中世	散布地、城館跡
15- 22	一本柳館跡	ｲｯﾎﾟﾝﾔﾅｷﾞﾀﾞﾃﾞﾄ	山田字一本柳	中世	城館跡
15- 23	中谷地遺跡	ﾅｶﾔﾁｲｾｷ	早口字中谷地	縄文(中・後)	散布地
15- 24	大野岱遺跡	ｵｵﾉﾀｲｲｾｷ	早口字大野岱	縄文(中)	散布地
15- 25	大野遺跡	ｵｵﾉｲｾｷ	早口字大野	縄文(中)、平安	散布地
15- 26	貝倉岱遺跡	ｶｲｸﾗﾀｲｲｾｷ	早口字貝倉岱	縄文、平安	散布地
15- 27	大岱中岱遺跡	ｵｵﾀｲﾅｶﾀｲｲｾｷ	早口字大岱中岱	縄文	散布地
15- 28	地森岱Ⅱ遺跡	ﾁﾓﾘﾀｲﾆｲｾｷ	早口字地森岱	縄文(中)	散布地
15- 29	滝ノ下遺跡	ﾀｷﾉｼﾀｲｾｷ	早口字滝の下	縄文、平安	散布地
15- 30	巻淵岱遺跡	ﾏｷﾌﾞﾁﾀｲｲｾｷ	早口字巻渕岱	平安	散布地
15- 31	桜岱遺跡	ｻｸﾗﾀｲｲｾｷ	早口字桜岱	縄文(後)	散布地
15- 32	岩野目前田遺跡	ｲﾜﾉﾒﾏｴﾀﾞｲｾｷ	早口字前田	縄文、平安	散布地
15- 33	一本木Ⅰ遺跡	ｲｯﾎﾟﾝｷﾞｲﾁｲｾｷ	早口字一本木岱	縄文(中)、平安	散布地
15- 34	一本木Ⅱ遺跡	ｲｯﾎﾟﾝｷﾞﾆｲｾｷ	早口字仮戸沢	縄文(中)、平安	散布地
15- 35	金堀沢遺跡	ｶﾈﾎﾘｻﾞﾜｲｾｷ	早口字金堀沢	縄文、平安	散布地
15- 36	丸谷地遺跡	ﾏﾙﾔﾁｲｾｷ	早口字丸谷地	縄文	散布地
15- 37	中仕田Ⅰ遺跡	ﾅｶｼﾀﾞｲﾁｲｾｷ	早口字中仕田、字金堀沢	平安	散布地
15- 38	中仕田Ⅱ遺跡	ﾅｶｼﾀﾞﾆｲｾｷ	早口字中仕田	縄文(中)、平安	散布地
15- 39	中仕田Ⅲ遺跡	ﾅｶｼﾀﾞｻﾝｲｾｷ	早口字中仕田	縄文(前)	散布地
15- 40	新屋布遺跡	ｱﾗﾔﾝｷｲｾｷ	早口字新屋敷	縄文(晩)	散布地
15- 41	後田遺跡	ｳｼﾛﾀｲｾｷ	早口字後田	縄文	散布地
15- 42	羽立岱遺跡	ﾊﾀﾞﾁﾀｲｲｾｷ	早口字羽立岱	縄文	散布地
15- 43	本郷Ⅰ遺跡	ﾎﾝｺﾞｳｲﾁｲｾｷ	早口字羽立岱	縄文	散布地
15- 44	本郷Ⅱ遺跡	ﾎﾝｺﾞｳﾆｲｾｷ	早口字羽立岱	縄文、平安	散布地
15- 45	本郷Ⅲ遺跡	ﾎﾝｺﾞｳｻﾝｲｾｷ	早口字中苗代	縄文	散布地
15- 46	本郷Ⅳ遺跡	ﾎﾝｺﾞｳﾖﾝｲｾｷ	早口字上屋敷	縄文	散布地
15- 47	大石沢遺跡	ｵｵｲｼﾀﾞﾜｲｾｷ	早口字大石沢	縄文	散布地
15- 48	高山遺跡	ﾀｶﾔﾏｲｾｷ	早口字高山	縄文(後)、平安	散布地
15- 49	上長谷地遺跡	ｶﾐﾅｶﾞﾔﾁｲｾｷ	早口字上長谷地	縄文	散布地
15- 50	丸山Ⅰ遺跡	ﾏﾙﾔﾏｲﾁｲｾｷ	早口字丸山下	縄文(中・後)	散布地
15- 51	丸山Ⅱ遺跡	ﾏﾙﾔﾏﾆｲｾｷ	早口字上野岱	縄文	散布地
15- 52	宮下遺跡	ﾐﾔﾝﾀｲｾｷ	早口字宮下	縄文(後)	散布地
15- 53	平滝Ａ遺跡	ﾋﾗﾀｷｴｰｲｾｷ	早口字平滝	縄文	散布地
15- 54	平滝Ｂ遺跡	ﾋﾗﾀｷﾋﾞｰｲｾｷ	早口字平滝	縄文	散布地
15- 55	平滝Ｃ遺跡	ﾋﾗﾀｷｼｰｲｾｷ	早口字平滝	縄文	散布地
15- 56	平滝Ｄ遺跡	ﾋﾗﾀｷﾃﾞｨｰｲｾｷ	早口字平滝	縄文	散布地
15- 57	平滝Ｅ遺跡	ﾋﾗﾀｷｲｰｲｾｷ	早口字平滝	縄文	散布地
15- 58	内越山沢遺跡	ｳﾁｺｼﾔﾏｻﾞﾜｲｾｷ	岩瀬字内越山沢	縄文(晩)	散布地
15- 59	蛭沢Ａ遺跡	ﾋﾙｻﾜｴｰｲｾｷ	岩瀬字中蛭沢	縄文	散布地
15- 60	蛭沢Ｂ遺跡	ﾋﾙｻﾜﾋﾞｰｲｾｷ	岩瀬字下杉渡	縄文	散布地
15- 61	蛭沢Ｃ遺跡	ﾋﾙｻﾜｼｰｲｾｷ	岩瀬字下杉渡	縄文	散布地
15- 62	中茂屋遺跡	ﾅｶﾓﾔｲｾｷ	山田字茂屋屋布後	縄文(前・中・後)	集落跡
15- 63	みのり台遺跡	ﾐﾉﾘﾀﾞｲｲｾｷ	長坂字宝田岱	縄文(晩)、続縄文	散布地
15- 64	長坂遺跡	ﾅｶﾞｻｶｲｾｷ	長坂字屋敷	縄文(中)	散布地
15- 65	上赤萩沢遺跡	ｶﾐｱｶﾊｷﾞｻﾞﾜ	山田字上赤萩沢	縄文(後)	散布地
15- 66	菅谷地遺跡	ｽｶﾞﾔﾁｲｾｷ	早口字菅谷地	縄文(前・後)	集落跡
15- 67	大川目元渡遺跡	ｵｵｶﾜﾒﾓﾄﾜﾀﾘｲｾｷ	岩瀬字大川目元渡	縄文(前・後)	集落跡
15- 68	長坂下岱遺跡	ﾅｶﾞｻｶｼﾀﾀｲｲｾｷ	長坂字下岱、字大巻屋布	縄文(前～晩)	散布地

報　告　書　抄　録

ふりがな	おおだてしないいせきしょうさいぶんぷちょうさほうこくしょ（6）
書　　名	大館市内遺跡詳細分布調査報告書（6）
副書名	
巻　　次	
シリーズ名	大館市文化財調査報告書
シリーズ番号	第19集
編著者名	嶋影壮憲・滝内　亨・馬庭和也
編集機関	秋田県大館市教育委員会歴史文化課
所在地	〒017-0012　秋田県大館市釈迦内字獅子ヶ森1番地　TEL 0186 - 43 - 7133　FAX 0186 - 48 - 2512
発行機関	秋田県大館市教育委員会
所在地	〒018-3595　秋田県大館市早口字上野43番地1　TEL 0186 - 43 - 7111　FAX 0186 - 54 - 6100
発行年月日	2022年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
おおだてじょうあと 大館城跡	あきたけんおおだてしあざかねざか、うわまち 秋田県大館市字金坂、上町	05204	4-46	40° 16′ 20″	140° 34′ 9″	20190508 ～ 20190515	23	試掘・確認調査
	あきたけんおおだてしあざけいじょう 秋田県大館市字桂城			40° 16′ 18″	140° 33′ 45″	20200325	3.2	
	あきたけんおおだてしあざさんのまる 秋田県大館市字三ノ丸			40° 16′ 21″	140° 33′ 46″	20200428 ～ 20200430	5	
				40° 16′ 24″	140° 33′ 47″	20200825 ～ 20200826 ・ 20200915 ～ 20200916	26	
	あきたけんおおだてしあざふるかわまち、 秋田県大館市字古川町、 なかじょう 中城			40° 16′ 23″	140° 33′ 56″	20200609	28	
おおだてのいせき 大館野遺跡	あきたけんおおだてししらさわ 秋田県大館市白沢	05204	4-5	40° 20′ 11″	140° 35′ 1″	20190604 ～ 20190608	21	
ながばしりいせき 長走遺跡	あきたけんおおだてしながばしり 秋田県大館市長走	05204	4-1	40° 22′ 34″	140° 36′ 15″	20190717 ～ 20190723	13	
しゃかないちく 釈迦内地区	あきたけんおおだてししゃかない 秋田県大館市釈迦内	05204	―	40° 18′ 3″	140° 34′ 38″	20190903 ～ 20190914	249.5	
				40° 18′ 0″	140° 34′ 37″	20191010 ～ 20191017	114	
おうぎたみちしたいせき 扇田下遺跡	あきたけんおおだてしあざおうぎたみちした 秋田県大館市字扇田道下	05204	4-65	40° 15′ 49″	140° 34′ 21″	20190918	21.5	
はぎとうげいせき 萩峠遺跡	あきたけんおおだてしかるいざわ 秋田県大館市軽井沢	05204	4-81	40° 13′ 21″	140° 39′ 29″	20191106 ～ 20191107	8	

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所　在　地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
はぎとうげいせきりんせつち 萩峠遺跡隣接地	あきたけんおおだてしかるいざわ、さるま 秋田県大館市軽井沢、猿間	05204	4-81	40° 13′ 22″	140° 39′ 42″	20191028 ～ 20191117	124	試掘・確認調査
						20201109 ～ 20201120	80	
しゃかないふるだてあと 釈迦内古館跡	あきたけんおおだてししゃかない 秋田県大館市釈迦内	05204	4-25	40° 18′ 15″	140° 33′ 40″	20191112 ～ 20191113	5	
はしげたいせき 橋桁遺跡	あきたけんおおだてしはしげた 秋田県大館市橋桁	05204	4-11	40° 19′ 43″	140° 34′ 59″	20191119 ～ 20191120	8	
たいへいざんいせきりんせつち 太平山遺跡隣接地	あきたけんおおだてしなかしんめいちょう 秋田県大館市中神明町	05204	4-63	40° 15′ 53″	140° 32′ 56″	20200212	20	
しゃかないあざちょうじゃもりちく 釈迦内字長者森地区	あきたけんおおだてししゃかない 秋田県大館市釈迦内	05204	―	40° 19′ 27″	140° 34′ 48″	20200519 ～ 20200522	25.4	
こたてちょういせき 小館町遺跡	あきたけんおおだてしこたてちょう 秋田県大館市小館町	05204	4-141	40° 15′ 46″	140° 33′ 17″	20200609 ～ 20200610	81	
				40° 15′ 45″	140° 33′ 13″	20200924	7	
				40° 15′ 47″	140° 33′ 15″	20210420 ～ 20210421	12	
こたてちょういせきりんせつち 小館町遺跡隣接地				40° 15′ 49″	140° 33′ 16″	20211222	6	
はぎのだいにいせき 萩ノ台Ⅱ遺跡	あきたけんおおだてしいけない 秋田県大館市池内	05204	4-67	40° 15′ 23″	140° 34′ 6″	20200624	10.6	
かわぐちだてあと 川口館跡	あきたけんおおだてしかわぐち 秋田県大館市川口	05204	4-42	40° 16′ 38″	140° 28′ 59″	20201208 ～ 20201209	9	
はなおかじょうあと・かみやまいせき 花岡城跡・神山遺跡	あきたけんおおだてしはなおかまち 秋田県大館市花岡町	05204	4-21	40° 19′ 13″	140° 33′ 10″	21210128	16.5	
かねさかいせき 金坂遺跡	あきたけんおおだてしあざはちまん 秋田県大館市字八幡	05204	4-47	40° 16′ 26″	140° 34′ 10″	20210601 ～ 20210616	50	
にいだだてあと 二井田館跡	あきたけんおおだてしにいだ 秋田県大館市二井田	05204	4-94	40° 14′ 18″	140° 33′ 16″	20210630 ～ 20210701	7	
いもがたいいせき 芋ヶ岱遺跡	あきたけんおおだてしゆきさわ 秋田県大館市雪沢	05204	4-58	40° 16′ 56″	140° 41′ 3″	20211125 ～ 20211222	84	
ささだてじょうあと 笹館城跡	あきたけんおおだてしひないまちささだて 秋田県大館市比内町笹館	05204	12-26	40° 12′ 26″	140° 33′ 55″	20200121 ～ 20200122	17	
ながおかじょうあと 長岡城跡	あきたけんおおだてしひないまちおうぎた 秋田県大館市比内町扇田	05204	12-17	40° 13′ 12″	140° 35′ 1″	20201017 ～ 20201020 ・ 20201030 ～ 20201118	43	

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所　在　地	コ　ー　ド 市町村	 遺跡番号	北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
いちかわいせき 市川遺跡	あきたけんおおだてしひないまちおうぎた 秋田県大館市比内町扇田	05204	12-18	40° 13′ 36″	140° 35′ 23″	20210422 ～ 20210423	11	試掘・確認調査
やぎはしふるだてあとりんせつち 八木橋古館跡隣接地	あきたけんおおだてしひないまちやぎはし 秋田県大館市比内町八木橋	05204	12-33	40° 13′ 0″	140° 31′ 55″	20210929	4	
ひらたきしーいせきりんせつち 平滝Ｃ遺跡隣接地	あきたけんおおだてしはやぐち 秋田県大館市早口	05204	15-55	40° 22′ 23″	140° 26′ 37″	20200924 ～ 20200925	4	

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大館城跡	城館	江戸	竪穴状遺構？、柵跡、土坑、溝跡、堀跡、柱穴・柱穴様ピット	陶磁器、土器、磁製品、硬貨	遺跡範囲が拡大
大館野遺跡	集落	平安		須恵器	
萩峠遺跡	集落、城館	縄文・中世		縄文土器	
釈迦内古館跡	城館	平安・中世	竪穴建物跡	土師器	
橋桁遺跡	散布地	縄文・平安	竪穴建物跡	縄文土器、土師器	
小館町遺跡	散布地	縄文・平安		土師器、陶器、石器	
川口館跡	城館	中世・近世		磁器	
金坂遺跡	集落	平安・中世・近世	竪穴建物跡、溝跡、柱穴・柱穴様ピット、カマド状遺構、焼土遺構	須恵器、土師器、陶磁器、石器	
芋ヶ岱遺跡	散布地	縄文		縄文土器、石器	遺跡範囲が拡大
笹館城跡	城館	平安・中世	竪穴建物跡		
市川遺跡	散布地	平安		鉄滓	

要　約	令和元～３年度は、32の開発事業予定地内の試掘・確認調査を実施した。その結果、大館城跡のうち２地点、金坂遺跡、芋ヶ岱遺跡、長岡城跡については、本調査が必要、大館野遺跡、扇田道下遺跡、萩峠遺跡、釈迦内古館跡、大館城跡のうち１地点、小館町遺跡のうち１地点、川口館跡、花岡城跡・神山遺跡については、工事立会が必要、橋桁遺跡については更なる試掘・確認調査が必要と判断し、開発事業との調整を図った。

大館市文化財調査報告書第19集

大館市内遺跡詳細分布調査報告書（6）

発 行 日　令和４年３月31日　発行
編　　集　大館市教育委員会歴史文化課
　大館市釈迦内字獅子ヶ森１番地
発　　行　大館市教育委員会
　大館市早口字上野43番地１
印　　刷　株式会社成文社　大館支店
　大館市字沼館道上102